

研究者情報

2026年度

金沢学院大学・金沢学院短期大学

目 次

◇金沢学院大学

学長(大学)	p. 1
副学長(大学)	p. 2
学長(短大)	p. 4
文学部	p. 6
教育学部	p. 18
経済学部	p. 29
芸術学部	p. 40
スポーツ科学部	p. 49
栄養学部	p. 61
情報工学部	p. 69
基礎教育機構	p. 78

◇金沢学院短期大学

現代教養学科	p. 83
食物栄養学科	
幼児教育学科	

◇大学院担当教員

◇教員索引

氏名(五十音順)	p. 96
----------	-------

金沢学院大学 学長

(Minoru Akiyama)

教授 **秋山 稔** 人文学研究科担当



担当科目 : 日本文学概説 I・II、金沢まち学 他

出身学校 : 慶應義塾大学

学 位 : 博士 (文学) 慶應義塾大学

所属学会 : 日本近代文学会 昭和文学会 泉鏡花研究会 室生犀星学会

E-mail : akiyama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『泉鏡花俳句集』(2020・11、紅書房) ◇岩波文庫『歌行燈』(2017. 6) ◇『泉鏡花 転成する物語』(2014. 4、梧桐書院) ◇「帰郷小説としての『縷紅新草』」(「昭和文学研究」64集、2012. 3) ◇「自然主義と鏡花」(「解釈と鑑賞」2009. 9) ◇「勝手口から戦場へー泉鏡花『勝手口』試論」(「日本近代文学」第七十九集、2008. 11) ◇『室生犀星事典』(2008. 9、鼎書房) ◇『新編泉鏡花集』第1巻〈金沢一〉、第2巻〈同二〉、第9巻〈北陸〉(2003. 10、2004. 2、2004. 4、岩波書店) ◇『徳田秋聲金沢シリーズ 郷里金沢』『同 挿話・町の踊り場』『同 感傷的の事』(2005. 8、2005. 12、2006. 3、能登印刷出版部)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

泉鏡花・徳田秋聲を視点として近代文学史を再検討すること。

金沢学院大学 副学長

(Yukio Suido)

教授 **水洞 幸夫** 人文学研究科担当

担当科目 : 地域と文学 a・b、現代文章論 他

出身学校 : 金沢大学

学 位 : 文学修士

所属学会 : 日本近代文学会

E-mail : suido@kanazawa-gu.ac.jp



I. 主な研究業績・作品等

- ◇「芥川龍之介『鼻』論」(『金沢学院大学紀要第9号』文学・美術・社会学編 2011年3月)
- ◇「芥川龍之介『羅生門』論—下人が盗人になる理由—」(『金沢大学国語国文34号』2009年3月)
- ◇「太宰治『家庭の幸福』論—ラジオ的な〈幸福〉を超えて—」(『太宰治研究16号』2008年6月)
- ◇「芥川龍之介『疑惑』試論—沈黙する「私」を超えるドラスター—」(『金沢学院大学紀要第6号』文学・美術・社会学編 2008年3月)
- ◇「芥川龍之介『お富の貞操』試論—〈可哀さう〉の射程—」(『金沢学院大学紀要第4号』文学・美術編 2006年3月)
- ◇「芥川龍之介『六の宮の姫君』試論」(『金沢学院大学紀要第3号』文学・美術編 2005年3月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本近代文学。特に大正期の散文作品を中心に、その享受史も考慮しつつ、作品の新しい〈読み〉をさぐる。

金沢学院大学 副学長

(Hideki Fujii)

教授

藤井 秀樹

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 財務会計Ⅰ・Ⅱ、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、財務諸表分析特論、会計学各論Ⅰ・Ⅱ、会計システム研究、経営情報基礎研究

出身学校 : 京都大学、京都大学大学院

学位 : 京都大学博士(経済学)

所属学会 : 日本会計研究学会、財務会計研究学会、会計理論学会、グローバル会計学会、公益事業学会、日本地域資源開発経営学会他

E-mail : fujii@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

著書

- ◇『現代企業会計論』森山書店、1997年(日本会計研究学会太田・黒沢賞受賞)。
- ◇『制度変化の会計学』中央経済社、2007年(国際会計研究学会賞、日本公認会計士協会学術賞受賞)。
- ◇IFRS in Global World: International and Critical Perspective on Accounting, Springer, 2016, Co-Authored.
- ◇『IASBの概念フレームワーク』(共著)、税務経理協会、2019年。
- ◇『会計学と人類学—その出会いと融合—』(共編著)、清水弘文堂書房、2021年。
- ◇『フランス会計の歴史と制度』(共編著)、白桃書房、2024年。
- ◇『最新の収益認識会計』(共著)、税務経理協会、2024年。
- ◇『郵政事業の会計分析—ユニバーサルサービスと効率性—』(編著)、白桃書房、2025年(公益事業学会賞受賞)。

論文

- ◇「取得原価主義会計における未来事象と利益測定(1)(2・完)—減価償却を素材として—」『会計』第147巻第3・4号、1995年3・4月(日本会計研究学会賞受賞)。
- ◇「非営利組織の制度進化と新しい役割」『非営利法人研究学会誌』Vol. 8、2006年7月(非営利法人研究学会賞受賞)。
- ◇「会計理論の課題と研究方法—実証研究の方法論的基礎の検討を中心に—」『会計理論学会 年報』No. 25、2011年9月(会計理論学会賞受賞)。
- ◇「令和5年内閣府有識者会議最終報告に見る公益法人会計制度改革の意義と特徴—公益充実 資金制度の創設提案を中心に—」『金沢学院大学紀要』第22号、2024年3月。
- ◇「使途制約がある寄付資産の元本維持とその会計処理—概念と論点の整理—」『公益・一般法人』No.1077、2023年9月。
- ◇「政治資金規正法改正要綱素案の理論的含意—公益法人会計制度を参照対象とした検討—」『高岡法科大学紀要』第36号、2025年3月。
- ◇「『新しい資本主義』と公益法人制度改革の展開方向—2024年改正認定法と実務者アンケート調査で示された課題—」『金沢学院大学紀要』第24号、2026年3月。

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

会計基準の国際統合、会計システムの制度分析、非営利組織の会計と経営

金沢学院短期大学 学長

(Takeshi Takata)

教授 **高他 毅**



社会学Ⅰ・Ⅱ、現代社会とキャリア、社会心理学、教育原
担当科目 : 理、教職論、道德教育・特別活動及び総合的な学習の研
究
出身学校 : 東京大学文学部
学 位 : 学士
所属学会 :
E-mail : t-takata@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 「宗教はポスト・モダンを担うるか」(共著、中央公論新社「中央公論」第100巻第2号 pp206-233)
- ◇ 「俵夫と軍人と教師と交換経済 —『無法松の一生』において表象された近代と『國民』の未生—」(金沢学院短期大学紀要第16号 pp7-28)◇ 「TVの黄金時代」におけるTV未所有者たち —若年独身離郷者の大都市滞留とメディア—(金沢学院短期大学紀要第18号 pp17-48) ◇ 「高倉健の猥褻な肉体 —侠客と母と民衆と戦後平和主義の臨界点—」(金沢学院短期大学紀要第21号 pp53-145)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

戦後日本の人口移動と文化状況の関連性

◇金沢学院大学

- 文学部
- 教育学部
- 経済学部
- 芸術学部
- スポーツ科学部
- 栄養学部
- 情報工学部
- 基礎教育機構

金沢学院大学 文学部

学部長 薮 際子

	教授	准教授	講師	助教
文学科	秋山 稔 *日	菊池 英慈 *日	齋藤慎一郎 *日	
	石崎 建治 *歴	黒崎 周一 *歴	須崎 暁世 *心	
	上田外史彦 *英	佐々木 聡 *歴	高橋 栄一	
	薮 際子 *日	戸根比呂子 *歴	森 裕子 *心	
	水洞 幸夫 *日	中川恵理子		
	寺田 智美 *日	中妻 結 *英		
	○中崎 崇志 *心	松村祐香里 *英		
	羽鳥 好之 (特任)	向井 理恵 *英		
	本多 俊彦 *歴	室橋 弘人 *心		
	前川 浩子 *心			

○：学科長

(五十音順)

*日 日本文学専攻

*英 英米文学専攻

*歴 歴史学・考古学専攻

*心 心理学専攻

(Kenji Ishizaki)

教授

石崎 建治

人文学研究科担当



担当科目 : 日本史概説Ⅰ、古文書学演習Ⅰ、古代・中世史演習Ⅰ・Ⅱ
プレ卒業研究演習、文献資料研究法Ⅱ、卒業研究、日本歴史文化学特論Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 早稲田大学

学 位 : 文学修士 (早稲田大学)

所属学会 : 日本歴史学会 日本古文書学会 史学会 他

E-mail : ishizaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「織田信長『麟』字型花押の含意」(『日本歴史』第664号 2003年9月) ◇「本能寺の変と上杉景勝」(『日本歴史』第685号、2005年6月) ◇「室町幕府徳政令発布時における礼銭礼物と分一銭の関係」(『古文書研究』第57号、2003年5月) ◇「中世東国社会における永楽通宝選好性の一要因」(『金沢学院大学紀要』文学・美術・社会学編第6号 2008年3月) ◇「『謙信公御書集』の史料的人格に関する一考察」(『金沢学院大学紀要』文学・美術・社会学編第8号 2010年3月) ◇「貨幣を教材・主題とした高等学校地理歴史科・中学校社会科授業の実践的研究(Ⅰ)」(『金沢学院大学紀要』第15号 2017年3月) ◇「上洛直後の織田信長と足利義昭」(『日本歴史』第846号、2018年11月) ◇「本能寺の変と細川氏の進退」(『日本歴史』第863号 2020年4月) 『加賀藩御算用者猪山直之日記』(時鐘舎 2010年10月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本中世政治史 日本中世社会における貨幣流通 加賀藩武家社会研究 「叡山文庫」所蔵資料を中心とした中近世移行期近江坂本の復元的研究(令和2年度科研費基盤研究(C)採択課題)

(Toshihiko Ueda)

教授

上田 外史彦

人文学研究科担当



担当科目 : 英語科教育法Ⅰ、基礎英語Ⅰ・Ⅱ、資格英語Ⅰ・Ⅱ、
教職論、英語プレゼンテーション初級Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 福井大学

学 位 : 修士(教育学)

所属学会 : 日本英語教育学会、中部英語教育学会

E-mail : t-ueda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「現在進行形の指導例」東京書籍 大下邦幸編著 『コミュニケーションクラスの理論と実践』、2001 ◇「入門期における英語科探究活動についての考察」福井大学教育実践研究(30)、51-56、2005 ◇「移行期間に取り組むこと」東洋館出版社 外国語活動・外国語科実践研究会編著 『基本が分かる 外国語活動・外国語科の授業』、2019
◇「英語授業におけるICT活用についての一考察」金沢学院大学紀要、第21号、175-183、2023.
◇「『チームとしての学校』の議論を踏まえた働き方改革の考察」金沢学院大学紀要、第22号、1-9、2024. ◇「中学校英語授業の実態と課題—インタビューによる考察—」金沢学院大学教職センター紀要、第6号、95-119、2022. ◇「若手教師に求められる資質能力について—学校管理職へのアンケート調査から—」金沢学院大学教職センター紀要、第7号、50-74、2023.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「英語授業におけるインタラクション分析」「言語活動を通じた英語コミュニケーションの資質能力の育成」など

(Kiwako Shitomi)

教授 **蒨 際子** 人文学研究科担当



担当科目 : 近・現代文学演習 B、近・現代文学特殊講義 B、プレ卒業
研究演習、卒業研究 他
出身学校 : お茶の水女子大学
学 位 : 文学修士
所属学会 : 日本近代文学会 日本文学協会
E-mail : kiwako@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

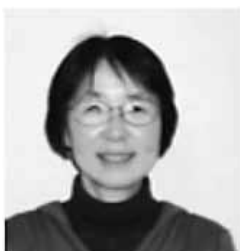
◇「宇野浩二『子の来歴』の後景-『新作三十三人集』から-(1)(2)」(『金沢学院大学紀要 19、20』、2021-22) ◇『[新編]日本女性文学全集 第9巻』解説(曾野綾子・林京子・宮尾登美子)2019 ◇「宇野花野(浩二)の少女小説-「少女画報」掲載作から」(『金沢学院大学紀要 16』、2018) ◇「水芦光子のミステリー小説-『贗』・『水の花火-加賀藩噴水考-』の周辺-」(『金沢学院大学文学部紀要』11、2013)
◇『金沢を描いた作家たち』共著、2011 ◇「一つのマリリン理解-曾野綾子『砂糖菓子が壊れるとき』」(『金沢学院大学紀要』8、2010) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

宇野浩二を視座とした近代文学研究
曾野綾子、水芦光子ら、金沢ゆかりの女性作家研究

(Tomomi Terada)

教授 **寺田 智美** 人文学研究科担当



担当科目 : 日本語学概説 I・II、日本語教育学 I・II、日本語学演習、
日本語学特殊講義、日本語文法 I・II、日本語教授法、日
本語教育実習、キャリアプランニング I・II、卒業研究 他
出身学校 : 早稲田大学
学 位 : 修士(教育学)(早稲田大学)
所属学会 : 日本語学会 日本語教育学会 日本国語教育学会 全国
大学国語教育学会 他
E-mail : teradato@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『三省堂国語辞典 第八版』(執筆協力、三省堂、2022.1) ◇「エントリーシートの推敲支援を通じた文章指導の実践」(早稲田大学日本語学会編『早稲田大学日本語学会設立60周年記念論文集 第2冊 言葉のはたらき』、2021.12、ひつじ書房) ◇「研究ノート『方言修行 金草鞋』を読み解く-十返舎一九が描いた石川県-」(『金沢学院大学教育センター紀要』第2号(2018.3))
◇「文学の映像化作品を使った文章表現指導の試み-劇場用アニメ『銀河鉄道の夜』の1シーンを描きだす-」(『金沢学院大学紀要』第15号(2017.3)) ◇『新明解類語辞典』(執筆協力、三省堂、2015.8) ◇「代名詞の史的変遷」(『品詞別学校文法講座 第2巻 名詞・代名詞』、明治書院、2014.2)
◇『三省堂国語辞典 第七版』(執筆協力、三省堂、2013.12) ◇「『厚生新編』翻刻とノート(1)」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第10号(2012.3)) ◇「高校留学生に対する日本語教育の問題と課題」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第9号(2011.3)) ◇「〈日本事情〉教材に描かれる〈日本〉」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第8号(2010.3))

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

近代日本語、言語教育

(Takashi Nakazaki)

教授 **中崎 崇志** 人文学研究科担当



心理学概論 A、学習・言語心理学、知覚・認知心理学、神
担当科目 : 経・生理心理学、心理学実験 I・II、認知学習心理学演習
I・II、学修基礎 I ab 他
出身学校 : 金沢大学
学 位 : 博士 (文学) (金沢大学)
所属学会 : 日本心理学会、教育システム情報学会
E-mail : nakazaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「大学の教員養成メソッドへの認知心理学的視点からの提案」(『金沢学院大学教職センター
紀要』第3号 2019年) ◇「陶芸における「菊練り」の習得を目指した教育プログラムの開発—
「菊練り」動作の解析の観点から— (共著『金沢学院大学紀要』第17号 2019年) ◇「意思決
定過程研究へのオペラント変動性の視点の導入」(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』
第9号 2011年) ◇「変動性研究の新しい方向性を探る：創造性、意思決定、動機づけとの関連」
(『金沢学院大学紀要 文学・美術・社会学編』第8号 2009年) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

修得済みの行動の遂行中に起こるエラーとその原因の分析
注意の配分と、情報処理および行動調整の関係
淡水魚の記憶保持と種差

(Yoshiyuki Hatori)

特任教授 **羽鳥 好之**



担当科目 : 創作入門、創作実践、現代文章論、島清恋愛文学賞
出身学校 : 早稲田大学
学 位 : フランス文学科 修士
所属学会 :
E-mail : hatori@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 歴史小説『尚、赫々たれ 立花宗茂残照』 ◇ 歴史小説『遊びをせんとや古田織部断簡記』

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

歴史小説の執筆
新聞・雑誌への書評執筆、雑誌コラム執筆、書評執筆、出版文化研究
雑誌「Wedge」連載『偉人の愛した一室』連載中

(Toshihiko Honda)

教授

本多 俊彦

人文学研究科担当



担当科目 : 日本史概説Ⅱ、文献資料研究法Ⅰ、古文書学演習Ⅱ、近世史演習Ⅰ・Ⅱ、近代史演習Ⅰ、歴史学入門、キャリアデザインⅡ・Ⅲ、プレ卒業研究演習、卒業研究 他

出身学校 : 富山大学大学院人文科学研究科

学位 : 修士(文学)

所属学会 : 日本古文書学会、日本史研究会、地方史研究協議会、加能地域史研究会など

E-mail : t-honda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 伊藤俊一等共編『東寺廿一口供僧方評定引付』第1～4巻、思文閣出版、平成14～31年 ◇ 「加賀藩知行宛行状の古文書学的検討」、『加能地域史』第56号、平成24年 ◇ 「加賀藩における本多政重登用の再検討」、『高岡法科大学紀要』第26号、平成27年 ◇ 「福井藩の知行宛行状について」、『古文書研究』第80号、平成27年 ◇ 「文書料紙調査の観点と方法」、小島浩之編『東アジア古文書学の構築—現状と課題—』、平成30年 ◇ 「加賀本多家の『危機』と藤堂高虎」、『石川自治と教育』729号、令和3年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

近世大名家関連文書の古文書学的検討 ◇ 「加賀八家」本多家伝来文書を中心とした加賀藩政史研究 ◇ 近世を中心として古文書料紙研究 ◇ 東寺旧蔵文書(国宝「東寺百合文書」など)を素材とした室町期政治史・寺院史研究

(Hiroko Maekawa)

教授

前川 浩子

人文学研究科担当



担当科目 : 心理学概論B、発達心理学、感情・人格心理学、対人関係の心理学、心理学研究法Ⅱ、発達心理学演習Ⅰ・Ⅱ、心理演習、心理実習、プレ卒業研究演習、卒業研究 他

出身学校 : 慶應義塾大学

学位 : 博士(教育学)

所属学会 : 日本心理学会 日本教育心理学会 日本発達心理学会 日本パーソナリティ心理学会 日本双生児研究学会、北陸心理学会 他

E-mail : maekawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 前川浩子・金森未夢、心理的支えが大学新生の大学適応に及ぼす影響、金沢学院大学紀要第23号、119-127、2025. ◇ 前川浩子・大上真礼・小里千寿・中村晋也・室橋弘人、大学・短期大学卒業後の入職への不安に関する研究—学生生活の充実感、対人関係、自己コントロール感覚との関連—、金沢学院大学紀要、第22号、135-143、2024. ◇ 前川浩子・宗田美紗、大学生の就職後の見通しに関する研究—楽観性・悲観性および大学生活の充実感からの検討—、金沢学院大学紀要、第21号、139-149、2023. ◇ Kathleen M. Pike, Mirai So, Anja Hilber, Hiroko Maekawa, Tomoko Shimanouchi, Denise Wilfley, Faith-Anne Dohm, Christopher G. Fairburn, & Ruth Striegel Weissman, Risk factors for anorexia nervosa and bulimia nervosa in Japan and compared to a U.S. sample, International Journal of Eating Disorders, 54, 155-167, 2021.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

短大・大学卒業後の就労継続と精神的健康の維持に関する要因の検討、重要な他者との間の適切なコミュニケーションと精神的健康の関連、対人関係療法による摂食障害と思春期うつ病の治療

(Eiji Kikuchi)

准教授

菊池 英慈



日本語表現法Ⅰ、日本語表現法Ⅱ、評論の読み方、国語科
 担当科目：教育法Ⅰ、国語科教育法Ⅱ、書道(書写実習)、日本文学入門、プレ卒業研究演習、卒業研究、日本語Ⅱ 他
 出身学校：茨城大学
 学 位：学士
 所属学会：日本国語教育学会
 E-mail：kikuchi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「『内なる問い』から問題解決の流れをつくる」(初等教育研究会、2024)
- ◇「主体的に学習に取り組む態度をいかに評価するか」(明治図書、2022)
- ◇「資質・能力を育成する小学校国語科授業づくりと学習評価」(明治図書、2021)
- ◇「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」作成協力者(国立教育政策研究所2020)
- ◇「小学校学習指導要領解説国語編」作成協力者(文部科学省、2019)
- ◇「資質・能力の育成－『見方・考え方』を働かせることを通して－」(東洋館出版、2019)
- ◇「『言葉による見方・考え方』の捉え方・鍛え方」(明治図書、2019)
- ◇「学習の基盤となる言語能力の育成－言語活動の充実－」(東洋館出版、2019)
- ◇「新学習指導要領に向けた指導の在り方 語彙指導の改善・充実の在り方」(東洋館出版2018)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

各教科の基盤となる言語能力を核にしたカリキュラム・マネジメントの研究
 個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す国語科授業の再検討

(Shuichi Kurosaki)

准教授

黒崎 周一

人文学研究科担当



西洋史概説Ⅰ・Ⅱ、西洋政治史、西洋史特殊講義、西洋史
 担当科目：文献講読Ⅰ・Ⅱ、西洋史演習Ⅰ・Ⅱ、プレ卒業研究演習、卒業研究 他
 出身学校：明治大学大学院
 学 位：博士(史学)
 所属学会：日本西洋史学会 社会経済史学会 歴史学会
 E-mail：kurosaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇『ホメオパシーとヴィクトリア朝イギリスの医学－科学と非科学の境界』刀水書房2019年
- ◇「ハーネマンとは何者か？－ヴィクトリア朝イギリスにおけるホメオパシーの受容と再構築」『駿台史学』第158号、2016年
- ◇「医療は科学と呼べるのか？：ヴィクトリア朝イギリスにおける治療の『法則性』をめぐる」『駿台史学』第155号、2015年
- ◇「医学における「正統」と「異端」：ヴィクトリア朝イギリスのホメオパシーを事例として」『西洋史学』第254号、2014年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ヴィクトリア朝イギリスにおける科学と非科学の境界設定
 イギリス帝国における医師の専門職化

(Satoshi Sasaki)

准教授 **佐々木 聡** 人文学研究科担当



担当科目 : 東洋史概説Ⅰ・Ⅱ、東洋史文献講読Ⅰ・Ⅱ、東洋史演習Ⅰ・Ⅱ、東洋史特殊講義、プレ卒業研究演習、卒業研究、学修基礎Ⅰab、FSP講座、アジア歴史文化学特論Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 金沢大学、東北大学大学院

学位 : 博士(文学)

所属学会 : 北陸史学会 東アジア恠異学会 日本中国学会 日本道教学会 東方学会

E-mail : s-sasaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「清末民国期の発病占書の収集状況について」(『金沢学院大学紀要』第23号、2025年) ◇「ベトナムにおける天文五行占書の受容と流布について」(水口幹記編『東アジア的世界分析の方法：〈術数文化〉の可能性』文学通信、2024年) ◇「初期道教経典に見える鬼神観再考：〈発病占〉と暦日の冥官の関係に着目して」(『東方宗教』第141号、2023年) ◇「中国歴代王朝における天文五行占書の編纂と禁書政策」(水口拓寿編『術数学研究の課題と方法』汲古書院、2022年) ◇「異と常：漢魏六朝における祥瑞災異と博物学」(東アジア恠異学会編『恠異学の地平』臨川書店、2018年) ◇『復元白沢図：古代中国の妖怪と辟邪文化』(白澤社、2017年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

儒教理念の一つである祥瑞災異思想を背景とした占術文化の研究。特に、中国歴代王朝における統制管理と社会受容の実態、東アジア諸国への伝播状況などについて

(Hiroko Tone)

准教授 **戸根 比呂子** 人文学研究科担当



担当科目 : 考古学概説Ⅰ・Ⅱ、考古学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、文化財の保護と活用、考古学特殊講義、プレ卒業研究演習、卒業研究、日本考古学特論Ⅰ・Ⅱ、特論演習 他

出身学校 : 京都大学、京都大学大学院文学研究科

学位 : 修士

所属学会 : 石川考古学研究会、日本玉文化学会、江沼地方史研究会、文化財写真技術研究会

E-mail : tone@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「玉づくり研究と地域の視点—北陸における研究の現状と課題—」(『北陸と世界の考古学(日本考古学協会2021年度金沢大会資料集)』2021年) ◇「石材採取からみる南加賀の玉生産」(『吉岡康暢先生卒寿記念論集 学究無限』吉岡康暢先生卒寿記念論集「学究無限」刊行会 2025年) ◇『河田山9号墳確認調査報告書1(金沢学院大学考古学調査報告4)』(共著、2024年) ◇『河田山9号墳確認調査報告書2(金沢学院大学考古学調査報告5)』(共著、2025年)

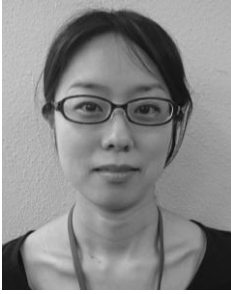
II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

弥生・古墳時代の玉類の生産と流通、碧玉原石産地遺跡の考古学的研究、石川県内を中心とした古墳調査

(Eriko Nakagawa)

准教授

中川 恵理子



担当科目 : 図書館概論、情報サービス論、情報サービス演習、情報資源組織論、情報サービス演習、情報サービス論 他
出身学校 : 武庫川女子大学 金沢学院大学大学院
学 位 : 学士(文学) 修士(文学)
所属学会 : 日本図書館研究会 大学図書館問題研究会
E-mail : e-naka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「「こころ」からみる戦後高校生の名作意識の変遷-高度経済成長期と高度経済成長期以降の比較-」(大学図書館問題研究会誌 第46号 2020年8月) ◇『青春の門』論-高校生読者の視点から- (金沢学院大学紀要 第17号 2019年3月) ◇金沢学院大学図書館における読書支援の事例報告-ブックシェアの取り組み- (大学図書館問題研究会誌 第44号 2018年4月) ◇利用者調査を踏まえた学修支援サービスの展開-金沢学院大学図書館における事例- (金沢学院大学紀要 第15号 2017年3月) ◇「利用者調査を踏まえた学修支援サービスの展開-金沢学院大学図書館における事例-」(金沢学院大学紀要 第15号 2017年3月) ◇「金沢学院大学図書館における読書支援の事例報告-ブックシェアの取り組み-」(大学図書館問題研究会誌 第44号 2018年4月) ◇「青春の門論-高校生読者の視点から」(金沢学院大学紀要 第17号 2019年3月)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

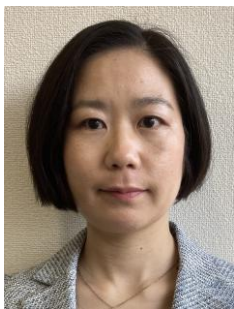
大学図書館の利用促進について 司書課程履修者のこれまでの図書館利用状況について 高度経済成長期以降の高校生の読書傾向の変化について

(Yui Nakatsuma)

准教授

中妻 結

人文学研究科担当



担当科目 : 原典講読 I・II、Advanced English I・II、English Discussion I・II、基礎英語 I・II、プレ卒業研究演習 他
出身学校 : 東京女子大学
学 位 : 博士(人間文化科学)
所属学会 : 日本英文学会、ディケンズ・フェロウシップ
E-mail : nakatsuma@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ *London and Literature, 1603-1901*. (共著). Newcastle upon Tyne: Cambridge Scholars Publishing. 2017. ◇ “Japanese Neo-Victorian Fictions: Looking Back at the Victorian Age from Japan.” *Neo-Victorian Studies*. 11:2 (18-39). 2019. ◇ “The Energy of Creating: The Conceptualised Framework and Its Illusion in John Fowles’ s *The French Lieutenant’ s Woman*.” 順天堂大学『順天堂グローバル教養論集』. 6: 59-71. 2021.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

イギリス・ヴィクトリア朝小説: 特に、チャールズ・ディケンズとジョージ・ギッシング
ヴィクトリア朝を現代的視点で語る作品群: ネオ・ヴィクトリアニズム

(Yukari Matsumura)

准教授

松村 祐香里

人文学研究科担当



担当科目 : 英米文学概論 I、英米文学講読 I・II、英米文学演習 I 他
出身学校 : 慶應義塾大学文学部、慶應義塾大学大学院文学研究科
学 位 : 修士 (文学)
所属学会 : 日本英文学会 日本ミルトン協会 十七世紀英文学会
E-mail : y-matumura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「現世の鏡として—Paradise Lost におけるエデンの園と地獄の共通点—」『金沢学院大学紀要』18号 (2020) ◇「The Reprobate in Paradise Lost: Milton's Satan and the Crisis of Conscience」(慶應義塾大学大学院文学研究科英米文学専攻 『Colloquia』), 35 (2014) ◇「『失樂園』における無常観—スペンサーとの比較を通して見る自由意思の重要性」、『藝文研究』(慶應義塾大学藝文学会)、112 (2017))

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

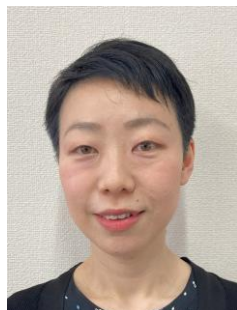
ジョン・ミルトンの『失樂園』を中心に、17世紀イギリスの文学を研究しています。樂園の表象や無常観を読み解くことで、宗教的にも政治的にも大きく変動した17世紀のイギリスを生きた人々のメンタリティーを明らかにしたいと考えています。

(Rie Mukai)

准教授

向井 理恵

人文学研究科担当



英語学概論 I・II、英語音声学、英語学講読 I・II、言語
担当科目 : 習得研究、英語文法論、英語学演習 I・II、第二言語習得演習 I・II 他
出身学校 : 金沢大学、金沢大学大学院
学 位 : 博士 (文学)
所属学会 : 日本認知言語学会、日本語用論学会、国際認知言語学会、日本英文学会、金沢英文学会 他
E-mail : mukai@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「詩的認知と construal —詩の創発と鑑賞の観点から—」(『日本認知言語学会論文集』第23巻、411-417、2023年) ◇ 翻訳書『認知言語学を英語教育に応用する—応用認知言語学の方法—』(開拓社、Part1 Chapter2 The Basics of Cognitive Linguistics (30頁)を担当、2023年) ◇ 学会発表 “A Cognitive Linguistic Approach to *Ma* in Japanese Haiku” (The Fifteenth International Cognitive Linguistics Conference, 2019年) ◇ 「「間」と認知モード」(『ことばのパスpekティブ』中村芳久教授退職記念論文集刊行会 [編] 開拓社、502-513、2018年) ◇ 「物語の受容におけるグラウンドの現れ」(『Kanazawa English Studies 30』、53-75、2018年) ◇ 「オクシモロンの創発・受容における認知モード」(『日本認知言語学会論文集』第18巻、72-84、2018年) ◇ 「日本語の anchoring structure と文末の機能について」(『日本認知言語学会論文集』第15巻、681-686、2015年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

言語に現れる「間」

(Hiroto Murohashi)

准教授

室橋 弘人

人文学研究科担当



心理学概論A、心理学統計法Ⅰ・Ⅱ、心理学研究法Ⅰ、心理学研究法Ⅱ、心理学実験Ⅰ、社会・集団・家族心理学、産業・組織心理学、社会心理学演習Ⅰ・Ⅱ、キャリアデザインⅠ 他
担当科目 :
出身学校 : 早稲田大学
学 位 : 博士 (文学)
所属学会 : 日本心理学会 日本教育心理学会 日本行動計量学会 他
E-mail : murohashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ ”Trajectories of Early Television Contact in Japan: Relationship with Preschoolers' Externalizing Problems.” (Journal of Children and Media 9(4), 2015年) ◇ ”Model Specification Search Using a Genetic Algorithm with Factor Reordering for a Simple Structure Factor Analysis Model.” (Japanese Psychological Research 49(3), 2007年) ◇ 「構造方程式モデリングによる一対比較法の分析-シェッフェの方法とその改良-」(心理学研究 75(4), 2004年) ◇ 「縦断データの分析Ⅰ-変化についてのマルチレベルモデリング-」(分担翻訳、朝倉書店、2012年) ◇ 「新・発達心理学ハンドブック」(分担執筆、福村出版、2016年) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

青少年の発達に関する繰り返し測定データの分析、機械学習の心理学への応用

(Shinichiro Saito)

講師

齋藤 慎一郎

人文学研究科担当



日本文学史Ⅰ、漢文学講読Ⅰ・Ⅱ、古典文学講読Ⅰ・Ⅱ、
担当科目 : 古典文学演習、古典文学特殊講義、プレ卒業研究演習、卒業研究 他
出身学校 : 慶應義塾大学
学 位 : 博士 (文学)
所属学会 : 和漢比較文学会、説話文学会、日本中国学会、訓点語学会
E-mail : s-saito@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 「近衛家実詩壇に於ける経書の受容」(和漢比較文学 70、2023年2月) ◇ 「慶應義塾図書館蔵『論語疏』卷六の文献価値—日本漢学研究資料としての特色」(『慶應義塾図書館蔵 論語疏 卷六 慶應義塾大学附属研究所斯道文庫蔵 論語義疏 影印と解題研究』勉誠出版、2021年) ◇ 「清原家における経学の伝統とその広がり」(『書物学』第14巻、2018年) ◇ 「大江匡衡の積奠詩」(和漢比較文学 61、2018年8月) ◇ 「金澤文庫本『春秋経伝集解』の奥書と伝来」(『図書館漢籍叢考』汲古書院、2018年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本人が、これまで『論語』などの中国古典をどのように読み、どのような影響を受けてきたかに関する研究。ひいては日本学問史の探究

(Akiyo Suzuki)

講師

須崎 暁世

人文学研究科担当



担当科目 : 福祉心理学、臨床心理学演習Ⅰ・Ⅱ、教育・学校心理学、
関係行政論、司法・犯罪心理学、プレ卒業研究演習、卒業研究、心理学的支援法 他
出身学校 : 神戸大学
学 位 : 博士 (学術)
所属学会 : 日本心理臨床学会、日本青年心理学会、日本発達心理学会、
日本人間性心理学会
E-mail : suzaki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 生活の場で親子関係の再構築を考える—母子生活支援施設における支援から— 人間性心理学研究, 36(No. 1), 105-117, 2018
- ◇ 母子生活支援施設における支援の検討—心理的支援と「第三の人」の持つ意味— 神戸山手大学紀要, 21, 81-91, 2019
- ◇ 青年期における親子間葛藤—質問紙調査結果から見える実態— 関西国際大学研究紀要, 24, 71-84, 2023

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

青年期における親子間葛藤と関係の再構築
母子生活支援施設における心理的支援

(Eiichi Takahashi)

講師

高橋 栄一



担当科目 : 人文地理学概説Ⅰ・Ⅱ、地誌、社会科・地歴科教育法、教
職実践演習、特別活動と総合的な学習の時間の理論と実践
他
出身学校 : 東京学芸大学
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本地理学会 日本地理教育学会 日本グローバル教育
学会 学芸地理学会 石川地理学会
E-mail : e-takahasi @kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「草津本白根火山の地形地質と植物群落」◇「野外における子どもの空間認知構造に関する研究」—水平・垂直距離の場合— ◇「白山麓におけるスキー場を中心とした観光開発から通年リゾートへ」◇「新しい高校地理のスコップとシークエンスをめざして」◇「地理教育の活性化を考える : 文系科目としての高校「地理」の成熟を目指して」◇「異文化研究」カリキュラム開発—SGH, 研究課題「異文化研究」実践報告—◇「地形と地形図の学習に関する授業方法の一試案～立体模型・3Dソフトを有効利用した授業の試み～」

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

効果的なアクティブラーニングを取り入れた社会科授業実践方法の研究
高等学校における総合的な探求の時間の実践方法の研究・新指導要領に基づく高等学校地理歴史科の新科目のスコップとシークエンス
society5.0 時代の双方向の活動を重視した授業の研究
教員養成に資する効率的な指導方法の研究

(Yuko Mori)

講師

森 裕子

人文学研究科担当



心理的アセスメント、心理学概論、臨床心理学概論、心理
担当科目 : 学的支援法、保険医療分野に関する理論と支援の展開、心
の健康教育に関する理論と実践、公認心理師の職責 他
出身学校 : お茶の水女子大学
学 位 : 博士 (社会科学) (お茶の水女子大学)
所属学会 : 日本心理学会、日本心理臨床学会、日本性科学会、日本社
会心理学会、日本GI学会
E-mail : yuko-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 森裕子・伊藤颯姫・高橋哲, なぜ人は褒めを皮肉と受け取る場合があるのか, 心理臨床学研究, 第41号6巻, 572-582, 2024年 ◇ 森裕子・石丸径一郎, 性的欲求インベントリー2日本語版(The Sexual Desire Inventory-2: SDI-2)の作成と青年期女性における信頼性・妥当性の検討, 日本性科学会雑誌, 第41号, 115-129 ◇ 森裕子・石丸径一郎, マウンティングエピソードの収集とその分類: 隠蔽された格付け争いと女性の傷つき, お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 第22号, 23-36, 2023年 ◇ 森裕子・石丸径一郎, 改訂トランスジェンダー嫌悪尺度日本語版の作成とトランスジェンダー教育における当事者による授業の効果について: 女子大学に通う学生を対象として, お茶の水女子大学心理臨床相談センター紀要, 第21号, 13-24, 2021年 ◇ 森裕子・石丸径一郎, 女子会と合コンとで女性の行動は変わるのか: ジェンダー・アイデンティティの強さとの関連に着目して, 日本性科学会雑誌, 第36号, 45-52, 2018年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

女性同士のコミュニケーションにおけるもめごと, 「マウンティング」に関する研究
ストレスコーピングに関する研究

金沢学院大学 教育学部

学部長 多田 孝志

	教授	准教授	講師	助教
教育学科	笠間 弘美(特任) 佐田東 彰 酒井真由子 ○住本 克彦 多田 孝志 仁八 潔 前田 洋一 山内 隆之	奥泉 敦司 木村 昭雄 的場 茂樹	枝元香菜子 北濱 康裕 秦 さやか 孫工 季也 森 舞 山口由美子(特任)	紺谷遼太郎 原田 理子

○：学科長

(五十音順)

(Hiromi Kasama)

特任教授

笠間 弘美



担当科目 : 英語 I・II、英語学概論、英語文法論、英語コミュニケー
 ション I・II 他
 出身学校 : 龍谷大学/ (米) セント・マイケルズ大学大学院
 学位 : MA (TESL)
 所属学会 : 大学英語教育学会 日本英語教育史学会 日本ニュージージャー
 ン学会
 E-mail : kasama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「現行の中学校英語教科書における現在完了進行形の用法分析—中高連携に焦点を当てて—」『金沢学院大学教職センター紀要』、第9号、89～101頁、2026年2月。
- ◇「小学校英語を通して見る教員養成と教員研修に役立つ英語の背景知識：カタカナ語に焦点を当てて」『共創型対話学習による教員養成』、北國新聞社出版部、116～131頁、2025年6月。
- ◇「中学校英語教科書に見る日本語からの語彙借用に関する一考察—教員養成と教員研修に活用する英語の背景知識の観点から—」『金沢学院大学紀要』、第22号、169～183頁、2024年3月。
- ◇「マンスフィールド作品再考：英語教員養成課程における英米文学教育の視点から」『マンスフィールド研究』、第12号、5～39頁、2023年8月。
- ◇「小・中英語教科書の用例に見る文構造に関する一考察—教員養成と教員研修に活用する英語の背景知識の観点から—」『金沢学院大学教職センター紀要』、第5号、103～120頁、2022年3月。

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

語彙や文法項目から見る小・中学校英語教科書の分析
 教員養成と教員研修に活用する英語の背景知識に関する研究
 英米文学作品の文体研究

(Akira Saito)

教授

佐田 彰

人文学研究科担当



担当科目 : 保育の心理学、幼児理解と教育相談、特別支援教育総論、
 障がい児保育、障がい児教育 他
 出身学校 : 日本大学法学部、上越教育大学大学院障害児教育研究科
 学位 : 修士
 所属学会 : LD学会 行動分析学会 特殊教育学会
 E-mail : a-saito@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇通常の学級に在籍する児童への特別支援学校のセンター的機能を通したわり算指導に関する一考察—認知アセスメントに基づく九九の自動化とわり算手順表の視覚教材を用いた指導—平成31年2月、『LD研究』第28巻第1号(111～132頁) ◇算数障害を有する児童に対する九九の自動化のための学習支援—認知特性と九九のつまずきの分析から—、平成30年3月、『上越教育大学研究紀要』第37巻第2号、上越教育大学(371～383頁) ◇強い反抗性を示すADHD児の問題行動と学級全体の問題行動に対する支援—クラスワイドな支援と個別支援を組み合わせた支援過程の妥当性—、平成29年5月、『LD研究』第26巻、第2号、日本LD学会(253-269頁) ◇計数行動が困難な自閉症スペクトラム障害児に対する刺激等価性を用いた指導、平成30年3月、『金沢学院大学教職センター紀要』第1号、金沢学院大学(183-198頁) ◇自閉症スペクトラム障害のある幼児の不規則発言の減少と適切行動の増加、平成29年3月、『上越教育大学特別支援教育実践研究センター紀要』第23巻、上越教育大学、(49～56頁)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

通常の学級における特別な支援を要する幼児児童生徒への支援、問題行動への支援、学習障害への支援

(Mayuko Sakai)

教授 **酒井 真由子**



担当科目 : 幼児と環境、保育内容指導法(環境)、乳児保育Ⅰ、教育課程論、幼児・児童文化、教育実習指導Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 東京学芸大学大学院 教育学研究科
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本教育学会、日本教育社会学会、日本保育学会、日本自然保育学会
E-mail : m-sakai@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「序章 保育者・教師になるための『教育原理』の学び」『保育者・小学校教諭を目指す学生のためのワークで学ぶ教育原理』柳井郁子・長島万里子編著、ミネルヴァ書房、pp.1-11, 2025年
◇「自然保育認定・認証制度導入による保育者の意識と行動の変容—認定・認証前後の比較を中心に—」共著、日本自然保育学会『自然保育学研究』第6巻第1号、pp.1-13, 2024年
◇「保育者養成校における学生の学校経験と実習経験Ⅳ—4年制養成校の4年間の質問紙調査の結果から—」共著、金沢学院大学紀要第24号、pp.79-96, 2026年
◇「ドイツ・バイエルン州の保育者の語りから捉える森の幼稚園の保育実践」共著、上越教育大学教職大学院研究紀要第13号、pp.199-211, 2026年
◇「教職大学院生は『研究』を通してどのような学びを得ているか—三つの異なる教職大学院で学ぶ現職院生へのインタビュー調査を通して—」共著、信州大学教育学部研究論集第20号、pp.15-34, 2026年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育者の成長と保育者文化についての研究
乳幼児期や学童期における自然保育の意義に関する研究
教師が<研究する>意味についての研究

(Katsuhiko Sumimoto)

教授 **住本 克彦**



担当科目 : 社会福祉、子ども家庭支援の心理学、 他
出身学校 : 兵庫教育大学大学院(学校教育研究科 学校教育専攻 修士課程)
学 位 : 学校教育学修士
所属学会 : 日本教育心理学会(「学校心理士」)、日本カウンセリング学会(「カウンセリング心理士・スーパーバイザー」)、日本学校教育相談学会(学校カウンセラー) 他
E-mail : sumimoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「教育研究組織を基盤とした予防的・開発的學生支援モデルの開発的研究」[科学研究費助成事業・基盤研究(C) 課題番号22K02716 研究代表者: 杉田郁代 研究分担者として](2022-2026)
◇「幼児教育に求められる人間関係に関する一考察—保育における基本と領域『人間関係』との関連に注目して—」[科学研究費助成事業・基盤研究(C) 課題番号18K03163 に基づく。研究代表者: 加藤由美: 研究分担者として](共著: 令和2年度 研究紀要 (奈良学園大学) 二鶴堂, 2021)
◇「地域における保健活動と子ども虐待防止」(高内正子編著・改訂版、共著 2023.3) 保育士養成課程テキスト『子どもの保健と安全』:【単著部分】第1章・第4節「地域における保健活動と子ども虐待防止」(pp18-19) ◇「新しい視点からの教育社会学」(編著: 大学教育出版, 2022: 巻頭言: 岡山大学名誉教授 難波正義氏) ◇「コンパス教育相談」(編著: 建帛社, 2022) ◇「教職ライブラリ教職入門」(編著: 建帛社, 2023:) ◇「教職ライブラリ生徒指導・進路論指導」(編著: 建帛社, 2025) ◇「いじめ防止・対応等、教職員研修プログラム」の開発に関する研究Ⅲ—『学校法人奈良学園』における『教育相談活動(生徒指導含む)』のネットワーク強化—(共著: 2024年度奈良学園大学研究紀要 第17集 pp227-238,

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「いじめ防止教育プログラム」、「いのちの教育実践プログラム」の開発研究 等

(Takashi Tada)

教授 **多田 孝志**



担当科目 : 国際理解教育概論、多文化理解概論 他
出身学校 : 東京学芸大学
学 位 : 博士 (学校教育学)
所属学会 : 日本学校教育学会 日本国際理解教育学会 日本環境教育学会
E-mail : tada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『地球時代の教育とは』(単著)(岩波書店、2000年)◇『授業で育てる対話力』(単著)(教育出版、2011年)◇『現代国際理解教育事典』(日本国際理解教育学会編、編纂委員長、明石書店、2012年)◇『持続可能な社会のための教育』(佐藤学 諏訪哲郎 木曾功 多田孝志編著、教育出版、2015年)◇『教育のいまとこれからの読み解く57の視点』(多田孝志編集代表、教育出版、2017年)◇『グローバル時代の対話型授業の研究』東信堂 ◇『対話型授業の理論と実践』教育出版 ◇ 学校発 3.0×SDGs 時代を生き抜く教育への挑戦(2020年)◇ 新たな時代の教員養成(2020年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
新たな時代の教員・保育者養成の理論と実践

(Kiyoshi Nihachi)

教授 **仁八 潔**



担当科目 : 社会、初等教科教育法(社会)、スクールソーシャルワーク
論、総合的な学習の時間の指導法 他
出身学校 : 上越教育大学大学院 学校教育研究科
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本生徒指導学会、学校心理士会
E-mail : nihachi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇人権教育の基礎的研究 — 小・中学校「社会科」教科書の「人権」に関わる記述に焦点をあてて—単著 金沢学院大学 教職センター紀要 第6号 p185-p214 2023.3 ◇ 高等学校「公共」における生徒指導の機能を生かした授業研究 —生徒の「自己存在感」の育成を図る授業に焦点をあてて— 単著 共創型対話学習研究所機関誌(論文集)第7号 p150-p164 2023.3 ◇授業のICTの活用 —社会科における効果的な指導に焦点をあてて— 共著 金沢学院大学紀要 第22号 p76-p93 2024.3
◇震災後の生徒指導・教育相談の実践 建帛社 生徒指導・進路指導論 P72-P76 2025.4 ◇能登半島地震後の学校再開に向けた取り組み 建帛社だより「土筆」第121号 2025.1 ◇SGEの活用で「教師・保護者連携チーム」結成を(共著)図書文化 エンカウンターでいじめ対応が変わる p114-p115 2019.6 ◇新しい人権問題への対応
高校における情報教育での取り組み(共著)協同出版 教職課程 p30-p33 2005.12 ◇50分でできる「解決志向の事例検討会」(共著)ほんの森出版 月刊学校教育相談 p38-p43 2012.11

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
学校心理学の視点による生徒指導・教育相談の実践のあり方
若手教員研修のあり方の研究 他

(Youichi Maeda)

教授 **前田 洋一**



担当科目 : 教育原理、教育経営概論、「チーム学校」と学校組織マネジメント、地域協働と学校の役割 他
出身学校 : 金沢大学 教育学部
福井大学大学院 教育学研究科
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本学校教育学会 日本グローバル教育学会
E-mail : Y-maeda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 幼児期と児童期の接続カリキュラムの開発 ～子どもの育ちと学びをつなぐために～ (共著) Mj-books 2011/4/1 ◇ 教育フォーラム 48 国際教育の課題と展望 (共著) 金子書房 2011/8/1
◇ 子どもの育ちと学びをつなぐ ～幼小連携のあり方と接続カリキュラムの作成～ (共著) Mj-books 2012/9/1 ◇ 力と夢を育てる新しい学校づくり (共著) 教育出版 2013/4/1 ◇ 学校づくりに特効薬はあるか ―生徒満足度 97.4%の学校ができた― (単著) 株式会社 ERP 2013/5/1 ◇ 学校経営とリーダーシップ (単著) 株式会社 ERP 平成 27 年 4 月 ◇ 教育フォーラム 56 アクティブ・ラーニングとは何か (共著) 金子書房 平成 27 年 8 月 ◇ 学校改革に対する教員の心理的抵抗の払拭に関する実践的研究 鳴門教育大学研究紀要 第 31 巻 pp. 21-32 2017/2/1 ◇ 学校運営の状況が教員の自己認知・他者認知にどのような影響を与えるか 自己評価維持モデルに着目して 鳴門教育大学研究紀要 第 34 巻 pp. 27-36 2020/2/1 ◇ 教育原理の授業は、学生にどのような変容をもたらせたか ―教育観・教師観の再構成に着目して― ◇ コミュニティ・スクールにおけるスクールガバナンスとソーシャルキャピタルに関する一考察 ―学校運営協議会の法的・枠組みと運用に着目して― 金沢学院大学 教職センター紀要 9 号, 23-39, 2025. 平成 19 年度 文部科学大臣 優秀教員表彰

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
学校組織マネジメント、教員の力量形成

(Takayuki Yamauchi)

教授 **山内 隆之**



担当科目 : 初等教科教育法 (図画工作)、表現演習Ⅱ、図画工作、総合的な学習の時間の指導法、幼児と表現 他
出身学校 : 上越教育大学大学院学校教育専攻教育経営コース
学 位 : 修士
所属学会 : 日本学校教育学会
E-mail : yamauchi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 命の教育についての一考察 ―命の教育に関する理念・施策を踏まえた実践論的立場から― (2007 年 8 月) ◇ 学校防災から地域防災へ―豪雨災害の経験を踏まえて― (2016 年 2 月) ◇ 変化する社会に対応した教員の使命感や倫理観を高める授業の取り組み-共通必修科目『社会と教員』の授業実践を通して- (2018 年 3 月) ◇ カリキュラム・マネジメントと授業・教育課程・学校経営改善 (2018 年 3 月) ◇ 全国教職大学院の「学校における実習」の実施方法に関する一考察 (2019 年 3 月) ◇ 「参加・協働・内省」を取り入れた教員研修の実践について-教員免許更新講習―学校の内外における連携協力についての理解」の実践事例より― (2022 年 2 月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
図画工作科研究、教育経営研究、総合的な学習、防災教育、危機管理

(Atsushi Okuizumi)

准教授 **奥泉 敦司**



担当科目 : 保育原理、保育者論、教職論 他
出身学校 : 埼玉大学、上越教育大学大学院
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本学校教育学会 教育哲学会 日本保育学会 日本教
師教育学会 日本乳幼児教育学会 日本保育者養成教育
学会
E-mail : okuizumi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇乳幼児教育コンソーシアム石川『「0歳からの教育」ガイドライン』第2章・第5章, 2025. ◇奥泉敦司・笠間弘美・多田孝志『共創型対話学習による教員養成 金沢学院大学教育学部 学びの奇跡』北國新聞社, 2025. ◇「教職課程科目「教職入門」における学生指導に関する一考察—初年次教育におけるアカデミック・スキル指導の課題—」『金沢学院大学教職センター紀要』第6号, 215-242, 2023. ◇「「学び」の時代における教員養成の在り方についての試論: 学生のマインドセットを意識した授業観・学習観の転換」『未来を拓く教育実践学研究』第7号, 72-87, 2023. ◇「「深い学び」の基礎としての幼児教育に関する一考察 学びに向かう力としての「非認知的能力」の可能性」『学校教育研究』第35号, p35-49, 2020.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育者を対象とする研修、園内研修に関する研究
保育理論の思想史的変遷に関する研究
保育環境整備に関する政策変遷に関する研究

(Akio Kimura)

准教授 **木村 昭雄**



担当科目 : 教育課程論、生徒・進路指導論、総合的な学習の時間の指導法 他
出身学校 : 新潟大学教育学部, 横浜国立大学大学院教育学研究科
学 位 : 修士
所属学会 : 日本学校教育学会
E-mail : ak-kimura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『特別活動のための実践的ナビゲーションブック 特別活動Q&A 特別活動の問い119に答える』(共著)横浜市立小学校特別活動研究会 ◇『教師力向上の鍵 メンターチームが教師を育てる、学校を変える!』(共著)時事通信社 ◇「人材育成のためのチームングによるメンターチームマネジメント—K小学校の特別活動の指導を事例として—」(共著)共創型対話学習研究所所報『未来を拓く教育実践学研究』第1号, pp. 109-116 ◇「社会に開かれた教育課程に関する一考察—カリキュラム・マネジメントと総合的な学習の時間の実際—」(単著)共創型対話学習研究所所報『未来を拓く教育実践学研究』第4号 pp. 70-79 ◇「いじめ事案への対応を通じた「チーム学校」による児童指導に関する一考察」(共著)共創型対話学習研究所所報『未来を拓く教育実践学研究』第4号 pp. 101-112 ◇「障害をもつ子どもの通常学級への通学ニーズに応える「チーム学校」の運営に関する研究—学校と地域との協働の事例を通して—」(共著)金沢学院大学教職センター編『金沢学院大学教職センター紀要』第3号 pp. 67-94

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

実践と理論の往還による教育課程に関する研究及び、児童・生徒指導に関する研究

(Shigeki Matoba)

准教授

的場 茂樹



担当科目 : 体育理論、初等教科教育法(体育)、地域協働と学校の役割、ビジネスソフト(基礎・応用) 他
出身学校 : 金沢大学 上越教育大学大学院
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本学校教育学会
E-mail : matoba@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 体育科教育におけるコンピュータ活用の可能性について(1996年)
- ◇ 小学校の体育における学習支援Webサイトの開発と活用(2006年)
- ◇ 小学校のICT教育の取り組みについて(動画 2021年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

小学校における効果的なICT教育の取り組みについて

(Kanakano Edamoto)

講師

枝元 香菜子



担当科目 : 教職入門、体育I、体育実技、幼児と健康、保育内容指導法(健康) 他
出身学校 : 東京学芸大学教育学部、東京学芸大学大学院教育学研究科 保健体育専攻
学 位 : 修士(教育学)
所属学会 : 日本体力医学会、日本学校教育学会、日本登山医学会
E-mail : edamoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 「児童における足機能・形態と疼痛リスクおよび新体力テスト成績との関連性」『金沢学院大学紀要』No. 18, pp. 199-203, 2020年.
- ◇ 「夏季の低山登山時における成人男女の食欲指数、空腹感指数及び味覚欲求指数の変化に関する一考察」『ウォーキング研究』No. 28, pp. 53-57, 2025年.
- ◇ 「ドライブウェイを用いた伊吹山登山時における食欲指数、空腹感指数及び味覚欲求指数と食の嗜好の変化について」『金沢学院大学紀要』No. 23, pp. 253-258, 2025年.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

高所での滞在時にみられる生理学的応答及び心理学的応答の変化
教員養成から初任者への円滑なトランジションを促す教職実践演習プログラムの開発

(Yasuhiro Kitahama)

講師

北濱 康裕



コンピュータ基礎演習、ICT活用教育概論、教育方法・技
 担当科目 : 術論、ICTとインクルーシブ教育、デジタル教材開発、教
 育課程と教育方法・技術 他
 出身学校 : 放送大学大学院 文化科学研究科
 学 位 : 修士 (学術)
 所属学会 : 日本教育工学会、日本理科教育学会、AI時代の教育学会、
 日本STEM教育学会
 E-mail : kitahama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇協働的な学びの場面においてスライド作成アプリを用いた情報共有の有用性 -中学校理科「電流とエネルギー」を対象とした事例研究-, AI時代の教育論文誌, 第5巻, pp.16-21.
- ◇スライド作成アプリを従来のノート代わりに初めて授業で活用した際の学習者の活用に対する意識調査 -中学校理科「動物の体のつくりとはたらき」を対象とした事例研究-, AI時代の教育論文誌, 第6巻, pp.1-7.
- ◇中学校理科において自由進度学習を取り入れた授業設計が主体的に学習に取り組む態度と学習内容の理解に及ぼす影響 -スライド作成アプリを活用したデジタルワークシートを用いて-, 茨城大学教育実践研究, 42, pp.221-234.
- ◇教員養成課程における初年次学生の自己調整学習方略の使用実態と指導方法の検討, 金沢学院大学紀要, 24, pp.42-50.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

学校教育におけるICTの活用に関する研究
 情報活用能力の育成に関する研究

(Sayaka Hata)

講師

秦 さやか



小学校英語、小学校英語教育概論、初等教科教育法(英語)、
 担当科目 : 海外英語教材比較研究 英語I・II、英語表現I・II 他
 出身学校 : 北海道大学教育学部、筑波大学環境科学研究
 出身学校 : 科(修士課程)、早稲田大学教職大学院、学習院大学大
 学院人文科学研究科(博士後期課程単位取得退学)
 学 位 : 修士、教職修士
 所属学会 : 学校教育学会、国際理解教育学会、環境教育学会
 E-mail : hata@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「Think globally, act locally な子どもを育てる実践」『(シリーズSDGsと学校教育)総合的な学習/探究の時間』第6章(共著)学文社,2026年
- ◇「小学校外国語教育の再構築-持続可能な社会・多文化共生・身体性を軸に-」『未来を拓く教育実践学研究』共創型対話学習研究所所報,9号,pp.71-80,2025年
- ◇多言語・複言語教育実践のための教員・ボランティア研修プログラムの開発 科研費基礎研究(C)共同研究,2016年
- ◇「外国語活動-多言語との出会い:ことばへの目覚め活動」『国際理解教育ハンドブック』第4部2-2(共著)赤石書店,2015年
- ◇「小学校における多言語活動の教材開発と実践-国際理解教育としてのことばの多様性からのアプローチ」日本国際理解教育学会誌,vol.20,pp.80-85,2014
- ◇Children Encounter the World through Languages “Sang Saeng” No.38 (APCEIU) pp.32-34,2013

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

小学校英語教育、複言語活用による国際理解教育、探究的学習としてのESD実践

(Toshiya Magoku)

講師 **孫工 季也**



担当科目 : 文化比較論、英語プレゼンテーション、英語
出身学校 : 京都大学大学院
学 位 : 教育学 (修士)
所属学会 : 日本言語政策学会、日本教育社会学会、日本英語教育史学会
E-mail : magoku@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

Ueno Maito, Magoku Toshiya and Nishiyama Atsuko (2019). The possible features of natural English pronunciation for Japanese learners and native speakers of English. ISAPh2018 International Symposium on Applied Phonetics Proceedings. 126-130.

孫工季也 (2021). ◇「高校英語教科書における批判的思考力育成の内実—社会問題に関する設問分析を中心に」辻伸幸・上野舞斗・青田庄真・川口勇作・磯部かり(編)◇『『英語教育の歴史に学び・現在を問い・未来を拓く—江利川春雄教授退職記念論集—』(pp.303-311). 溪水社

孫工季也 (2025). ◇「英語検定協会による高校教育への関与の正当化過程(1963-2000)—英検の「公共性」と1990年前後の大学入試の動きに着目して—」『言語政策』21, 43-57.

孫工季也 (2026). ◇「臨教審第二次答申における「検定試験などの結果の利用」の明記過程—再帰する国際化の語りに着目して—」『言語政策』22, 77-91.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 戦後日本社会における英検の広がり

(Mai Mori)

講師 **森 舞**



担当科目 : 初等教科教育法 (音楽)、音楽基礎、表現演習 I、保育内容指導法 (表現)、幼児と表現、ピアノ講座 他
出身学校 : 金沢大学大学院
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本保育学会、全国大学音楽教育学会
E-mail : mai-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『協働して音楽活動をする楽しさ』の探究とその指導法の一考察 —バイエル連弾を通して— 2019年金沢学院大学教職センター紀要

◇ピアノで効果音を加えた絵本の読み聞かせの実践と表現領域との関連性の一考察 2020年金沢学院大学教職センター紀要

◇(株)HOPPA 主催「手作りおもちゃコンテスト2023」最優秀賞受賞(森ゼミ) 2023年

◇いしかわ百万石文化祭2023「学生の文化活動促進事業」認定事業「親子で楽しむわくわくコンサート」企画実施 2023年

◇(株)北国新聞社発行【共創型対話学習による教員養成 金沢学院大学教育学部 学びの奇跡】第3章第5節「音楽活動から見えてくる学生の変化」 2025年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ピアノ初心者へのピアノ指導法

幼児期の印象的な音楽体験の模索

バレエと音楽の相関関係からみえる非認知能力の探求

(Yumiko Yamaguchi)

特任講師

山口 由美子



担当科目 : 算数、初等教科教育法(算数) 他
 出身学校 : 金沢大学 教育学部 金沢大学大学院教育学研究科(数学教育専攻)
 学位 : 修士(教育学)
 所属学会 : 認知心理学研究会 OKJ 研究会
 E-mail : yumi03yama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ ”数学”に連携する算数教育の試行—本質にこだわる教材開発—
- ◇ 関数の理解を助けるために —N 図の提案— ◇ 数学の理解を助ける ICT 教育—パソコン環境の構築—
- ◇ 意味指導を重視した算数教材配列について—教科書比較を通して—
- ◇ ”なまわかり”から”わかる”へ理解を深める指導の工夫
- ◇ 教えて考えさせる授業の構築から“わかった”とは? —平均の授業における理解深化—
- ◇ 理論と実践の架橋について授業を通して考察する

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
 理論と実践の架橋について授業を通して考察する
 教員養成課程の改善と教員採用試験の両立を考える

(Ryotaro Konya)

助教

紺谷 遼太郎



担当科目 : 保育課程論、幼児と言葉、保育内容指導法(言葉)、保育・教職実践演習(幼)、保育実習指導 他
 出身学校 : 岡山大学大学院 教育学研究科
 学位 : 修士(教育学)
 所属学会 : 日本保育学会、日本乳幼児教育学会、日本保育者養成教育学会、日本教育工学会、日本教育メディア学会、日本体育科教育学会、日本スポーツ社会学会 他
 E-mail : konya@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 「自己学習時のスマートフォン利用と学習方略、学業成績の関連」『日本教育工学会論文誌』49(Suppl.)、pp. 13-16、2025. ◇ 「児童が楽しみ方を工夫する体育授業の指導方略—ゲーム論にもとづく「幅跳び」の実践を通して—」『岡山体育学研究』32、pp. 1-11、2025. ◇ 「大学生のスマートフォン利用と学習方略の関連—保育者志望学生を事例として—」『日本教育工学会論文誌』48(Suppl.)、pp. 9-12、2024. ◇ 「模擬保育における保育者視点映像利用の検討—保育者視点及び俯瞰視点の映像視聴によるリフレクション内容の比較分析から—」『教育メディア研究』31(1)、pp. 17-28、2024. ◇ 「低学年児童が遊び方を工夫する契機—小学校 2 年生におけるマットを使った運動遊びの実践から—」『日本教科教育学会誌』47(1)、pp. 43-55、2024. ◇ 「カリキュラム・マネジメントを実現するための教育及び保育活動の全体的な計画及び年間指導計画の作成手順の検討—私立幼保連携型認定こども園でのアクション・リサーチ—」『岡山大学教師教育開発センター紀要』13、pp. 53-67、2023. 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
 デジタルメディア時代の保育者養成・教員養成・教師教育
 プレイ・ゲーム論を視点とした体育科教育の学習指導論

(Harada Riko)

助教 **原田 理子**



担当科目 : 社会的養護Ⅰ・Ⅱ、子ども家庭福祉、保育内容総論、子ども家庭支援論
出身学校 : 関西学院大学
学 位 : 博士 (人間福祉)
所属学会 : 日本社会福祉学会、社会事業史学会
E-mail : r-harada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「「母性」による異性愛規範の強化と女性同性愛者への差別—『変態性欲』誌による「新しい女」批判の言説分析を通して—」『人間福祉学研究』16(1) (2023年12月)
- ◇「大正中期の通俗性欲学における女性同性愛者に関する言説分析—羽太鋭治の性欲言説—」『草の根福祉』(53) (2023年12月)
- ◇「『変態性欲論』における優生学的結婚観—女性と同性愛者に対する差別言説—」『Human Welfare』16(1) (2024年3月)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

戦前の産児制限運動 (新マルサス主義)
貧困家庭に対する差別的なまなざし

金沢学院大学 経済学部

学部長 小田 圭一郎

	教授	准教授	講師	助教
経済学科	○奥井めぐみ 小田圭一郎 北口 貴史 豊田 欣吾 根本 博(特任) 長谷川秀司 松本 和彦 三輪 篤生 (村上 智(現教))	萩野 貴久 (中村 直行(基礎))	鳥谷部智規 長谷川拓彌	小暮 貴代
経営学科	○大野 尚弘 千葉 俊徳 濱屋 敏 藤井 秀樹 渡邊 誠士	上野 学 児島 記代 米澤 順一(特任)		

○：学科長

※（ ）は兼務先学部（五十音順）

(Megumi Okui)

教授

奥井 めぐみ

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : ミクロ経済学Ⅰ・Ⅱ、公共経済学、労働経済学、環境経済学、公民科教育法、基礎演習Ⅰ・Ⅱ、演習Ⅰ・Ⅱ、公民科教育法、教員採用試験対策講座(公民)

出身学校 : 大阪大学大学院国際公共政策研究科

学位 : 博士(国際公共政策)

所属学会 : 日本経済学会 日本労務学会 日本組織学会

E-mail : m-okui@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「中小企業労働者の技能蓄積機会は賃金を向上させるかー主観的指標を用いた実証分析ー」金沢学院大学紀要第24号(単著), 2026年
- ◇「仕事満足度決定要因に関する実証分析ー女性の仕事満足度が男性よりも高い理由を探るー」金沢学院大学紀要第23号(単著), 2025年
- ◇「男女の昇進スピード格差と配置転換・職能経験」金沢学院大学紀要第22号(共著), 2024年。
- ◇「育児休業取得期間が復帰後の女性の仕事満足度に与える影響」日本労働研究雑誌 No. 725(単著), 2020年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 インセンティブと生産性に関する実証分析

(Keiichirou Oda)

教授

小田 圭一郎

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : ファイナンスⅠ・Ⅱ、国際金融論、ゲーム理論、金融論Ⅰ・Ⅱ

出身学校 : 東京大学、米国 Northwestern 大学大学院

学位 : 修士

所属学会 : 日本ファイナンス学会

E-mail : k-oda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇“Public-Private Partnerships with Infrastructure Funds: An Optimal Incentive Device,” RIETI Discussion Paper Series 18-E-085, 2018. ◇「銀行の貸し手責任を通じた企業の環境汚染削減について」, RIETI Discussion Paper Series, 18-J-033, 2018.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

銀行行動と市場メカニズムとの相互作用についてのゲーム理論的分析
証券化における銀行の retention 規制の評価に係る分析
PPP/PFI におけるファンドを通じたインセンティブスキームに係る分析

教授



(Takashi Kitaguchi)

北口 貴史

担当科目 : 経営学基礎 I、経営管理論 I、ビジネス戦略、情報マネジメント基礎 I・II、他
出身学校 : 北陸先端科学技術大学院大学、慶應義塾大学理工学部・大学院理工学研究科
学 位 : 博士 (知識科学)、修士 (工学)
所属学会 : 研究・イノベーション学会、日本 MOT 学会、電子情報通信学会
E-mail : kitaguchi@kanazawa-gu.ac.jp

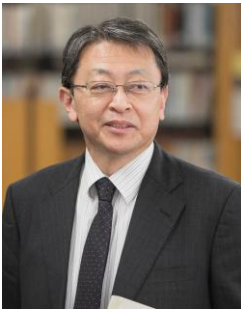
I. 主な研究業績・作品等

◇北口貴史、他、2025、「技術と顧客の知識に基づく深化と探索へのリソース配分メカニズム——一両利きの経営を実現する組織のアプローチの違いを考慮したモデル——」『研究 技術 計画』40(1):127-140. ◇北口貴史、2023、「不確実性の時代における技術経営 (MOT) を考える」『技術と経済』672 (2023) ◇Kitaguchi, T., 2022, “Resource Allocation Mechanism Considering Combination of Exploitation and Exploration in Ambidexterity with External Factors,” *IEEE Technology & Engineering Management Conference - Asia Pacific*, 108-113. Outstanding Paper Award 受賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

両利きの経営の構造モデル
企業連携とイノベーション
DXによる企業変革と人材育成

教授



(Kingo Toyoda)

豊田 欣吾

経営情報学研究科(M・D)担当

担当科目 : 社会保障論、経済政策論、財政学 I・II、国際経済 II、基礎演習 I・II、演習 I・II、日本経済特論 他
出身学校 : 横浜国立大学経済学部
学 位 : 学士 (経済学)
所属学会 :
E-mail : toyoda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「経済成長と格差、科学技術イノベーション」『JST 研究開発戦略ローンチアウト (2018 年 5 月)』◇「景気指標としての GDP 統計～その信頼性向上に向けて～」『景気とサイクル (2010 年 11 月)』◇「経済財政運営と経済財政諮問会議—政策決定プロセスはどのように変化したか—」『月刊 NIRA 政策研究 (2006 年 1 月)』

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本経済の現状と課題
経済格差とイノベーション
SNA (国民経済計算) の整備・改善

(Hiroshi Nemoto)

特任教授

根本 博

経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 現代経済論、日本経済史、ベンチャービジネス特論、財政学特論、地域ビジネス特論、地域経済研究、研究指導
出身学校 : 東京大学経済学部
学 位 : 学士
所属学会 :
E-mail : nemoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『人にやさしい経済学』(単著) ◇『北陸から見る日本経済』(共著) ◇『北陸を強くする地域資源』(共著) ◇『ボランティア経済と企業』(編著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本経済の現状と課題、地域経済の現状と課題

(Shuji Hasegawa)

教授

長谷川 秀司

経営情報学研究科(M)担当



担当科目 : マクロ経済学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、財政学、シェアリングエコノミー論、公益事業論、基礎演習Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 東京大学
学 位 : 経済学士
所属学会 :
E-mail : s-hasegawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「SNA統計の改定メカニズムについて」、『ESTRELA』、公益財団法人統計情報研究開発センター、2026年5月◇「生成AIの普及等経済のデジタル化を把握するための統計的枠組みについて」、大貫他『生成AIが変える社会と教育』、一般財団法人社会文化研究センター、2025年3月◇「デジタルエコノミーをどのように把握するか? ~新たな試みと課題~」、『経済分析 第207号』、内閣府経済社会総合研究所、2023年5月◇「デジタルSUT(供給・使用表)2015, 2018年表の推計について」、内閣府経済社会総合研究所、2022年3月、共著 ◇「2018年度シェアリング・エコノミー等新分野の経済活動の計測に関する調査研究」報告書、内閣府経済社会総合研究所、2019年7月、共著 ◇「公共料金の決定の在り方について」、消費者庁、2012年11月、共著

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

デジタル化が経済社会に与える影響とその計測問題

(Kazuhiko Matsumoto)

教授 **松本 和彦**



担当科目 : 社会法、法学 I・II、日本国憲法
出身学校 : 慶應義塾大学
学 位 : 修士 (法学)
所属学会 : 慶應法学会 日本法哲学会 法文化学会 日本労働法学
会 日本社会保障法学会
E-mail : matsumoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

著書◇『カントの批判的法哲学』（慶應義塾大学出版会 2018 年）

論文◇カントの批判哲学における『法論の形而上学的基礎論』の位置づけ—J. ペーターゼンの所論を中心にして—（『北陸大学紀要』第 52 号、1(53) -62(114)、2021 年） ◇働き方改革と文学—『蟹工船』を題材として—（『北陸大学紀要』第 51 号、1(215) -74(288)、2021 年）

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

カント法哲学の再解釈・再評価による現代的意義の研究
文学・映画などを題材とした法哲学の研究

(Atsuo Miwa)

教授 **三輪 篤生**



担当科目 : 地域経済論 I・II、計量経済学 I・II、FSP 講座、コンピ
ュータ基礎演習、基礎演習 I・II、演習 I・II
出身学校 : 東京工業大学大学院 社会理工学研究科
学 位 : 博士 (学術) 東京工業大学
所属学会 : 社会・経済システム学会、国際 P2M 学会、環太平洋産業連
関学会 (PAPAIOS)
E-mail : miwa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ Public-Private Partnership/Private Finance Initiative 事業に関する政策形成のための情報と知識のマネジメントに関する研究 (単著、東京工業大学博士論文、2021 年)

◇ PPP/PFI 事業の現状と我が国の基幹統計に及ぼす影響に関する研究 (単著、社会・経済システム学会機関誌、2020 年)

◇ Study on information and knowledge management for policy making of PPP/PFI (共著、International Journal of Knowledge Engineering Volume 6 Number 2、2020 年)

◇ 景気動向指数の外れ値管理方法の改善について (共著、国際 P2M 学会 2013 年度春季研究発表大会プロシーディング、2013 年)

◇ 我が国の国民経済計算ストック推計体系の見直し—恒久棚卸法 (Perpetual Inventory Method: PIM) 導入のための検討— (単著、季刊国民経済計算 (内閣府経済社会総合研究所)、2010 年)

◇ BB レシオのパフォーマンス (単著、ESP (経済企画協会)、2006 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

国民経済計算/県民経済計算
経済政策の効果測定に必要なデータの把握と政策のマネージメント

(Takahisa Ogino)

准教授 **荻野 貴久**



担当科目 : 民法 I・II、商法 I・II、法律学概論、法学 (日本国憲法)、
基礎演習 I・II、演習 I・II
出身学校 : 法政大学大学院法学研究科
学 位 : 修士 (法学)
所属学会 : 日本私法学会、日本協同組合学会、日本 NPO 学会、法と教
育学会
E-mail : ogino@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『きっぷのしくみ』(交通新聞社、2024年) ◇「第三者の利益をも目的とする委任契約における任意解除権について—判例規範の分析を中心として—」『法政大学大学院紀要』92号、2024年 ◇「たばこ耕作組合法の史的素描」『協同組合研究』39巻2号、2019年 ◇「仕事に役立つリーガルマインド教育について」『法と教育』10号、2020年 ◇「アメリカ・ルイジアナ州民法における委任契約の任意解除権を制限する法理について—我が国民法 651 条の解釈への参考として—」『法學志林』121巻1号、2023年 ◇「民法 34 条における『目的の範囲』の判断基準—協同組合が行った目的外取引 (員外取引) の場合—」『法學志林』123巻1・2号、2025年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

委任契約における任意解除権、法人制度、リーガルマインド、鉄道旅客運送制度

(Tomoki Toyabe)

講師 **鳥谷部 智樹**



担当科目 : 経済データ分析 I・II、金融データ分析、FPS 講座、キャ
リアプランニング I・II、ミクロ経済学 I・II
出身学校 : 慶應義塾大学
学 位 : 修士 (経済学)
所属学会 : 日本統計学会、日本計算機統計学会、日本金融・証券計量・
工学学会
E-mail : toyabe@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇“An analytical study of worker well-being and COVID-19 impact using Bayesian panel modeling.” *Healthcare Analytics* (2025) (共著)
◇“Bayesian Analysis of Bitcoin Volatility Using Minute-by-Minute Data and Flexible Stochastic Volatility Models.” *Mathematics* (2025) (共著)
◇“Stochastic Conditional Duration Model with Intraday Seasonality and Limit Order Book Information.” *Journal of Risk and Financial Management* (2022) (共著, 筆頭著者)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

生存時間分析における半教師付き学習の推定と活用

(Takuya Hasegawa)

講師 **長谷川 拓彌**



担当科目 : 英語コミュニケーション I・II、経済学史、世界経済史、
国際経済 I、基礎演習 I・II 他
出身学校 : 名古屋大学経済学研究科博士後期課程
学 位 : 博士 (経済学)
所属学会 : 日本 18 世紀学会、国際 18 世紀学会、社会思想史学会
E-mail : t-hasegawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「シイエスの言語世界論：コンディヤックの言語論と表象空間の再発見」『日本 18 世紀学会年報、第 36 巻、pp. 109-123、2021 年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ヨーロッパ思想史

(Kogure, Takayo)

助教 **小暮 貴代**



担当科目 : English Communication I・II、基礎英語 I・II、英語 I・II
出身学校 : University of York、早稲田大学第一文学部
学 位 : 学士(文学) (早稲田大学)
所属学会 : The Society of Architectural Historians of Great Britain
E-mail : kogure@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇学位論文 (修士) : [Divers Approaches to Conservation: Europe and Japan] (University of York、2010 年)◇学位論文 (学士) : [16 世紀英国のカントリー・ハウス研究] (早稲田大学第一文学部、2004 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

英国のカントリー・ハウスを中心とした建築史、および歴史的建造物の保存修復 (Conservation Studies) に関する学術的研究。現在は、TEFL (英語を母国語としない人への英語教授法) の知見や自身の経験を基盤とした指導法に加え、「言語が思考や文化理解に与える影響」を背景とし、文化の異なる他者との深い相互理解を築くための英語教育の在り方について考察中。

(Takahiro Oono)

教授

大野 尚弘

経営情報学研究科(M・D)担当



マーケティング論 I・II、流通論 I・II、消費者行動論、マーケティング・リサーチ、キャリア・プランニング I・II、キャリアデザイン II、基礎演習 I・II 他
担当科目 :
出身学校 : 神戸大学大学院経営学研究科
学 位 : 修士(商学)
所属学会 : 日本商業学会、日本消費者行動研究学会
E-mail : oono@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 単著『PB 戦略 その構造とダイナミクス』千倉書房 ◇ 共著「インターネット技術と新しい小売業態」『1からの流通論(第2版)』碩学舎 ◇ 共著『北陸の強みを引き出す地域資源』北國新聞社 ◇ 共著『北陸から見る日本経済』北國新聞出版局

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

流通業における PB 戦略についての研究
地域資源の活用と地域活性化についての研究
インターネット技術と小売企業、EC(電子商取引)について研究
中央卸売市場の課題と活性化についての研究

(Toshinori Chiba)

教授

千葉 俊徳

経営情報学研究科(M・D)担当



税法基礎、税法、税務会計 I・II、租税法特論、租税法各論 I・II、税務会計特論、特論演習 他
担当科目 :
出身学校 : 中央大学
学 位 : 学士
所属学会 :
E-mail : chiba-t@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 争訟事例に見る居住者・非居住者該当判断の困難性と不納付加算税免除の「正当な理由」(税大ジャーナル 31 号) ◇ 「難航する教育財源改革—テキサス州の事例—」(JETRO 通商弘報 2005 年 6 月) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

租税回避事案等に係る争訟事例分析
財産評価基本通達を巡る今日的な諸問題

(Satoshi Hamaya)

教授 **濱屋 敏** 経営情報学研究科(M)担当



担当科目 : 経営学基礎 I・II、経営組織論、デジタル経済、基礎演習
I・II、演習 I・II、経営学特論 他
出身学校 : 京都大学、University of Rochester
学 位 : 法学士 (京都大学)、MBA (University of Rochester)
所属学会 :
E-mail : hamaya@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「エコシステムにおける価値の共創：介護ビジネスを題材として」(中島正人氏との共著)『日本情報経営学会誌』、2020年9月 ◇「中小企業の国際化の新モデル模索—岩手県中小企業に対する実態調査からの考察—」(近藤信一氏、大平剛史氏との共著)『機械経済研究』2019年12月 ◇『ネットは社会を分断しない』(田中辰雄氏との共著)角川新書、2019年10月 ◇「IoT時代の価値創造と経営情報システムに関する一考察」『経営情報学会誌』2019年3月 ◇『IoT時代の競争フレームワーク』(根来龍之氏らとの共著)中央経済社、2016年6月 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
データ活用による付加価値創出の条件
デジタル技術の活用、DXに取り組む地域企業

(Masashi Watanabe)

教授 **渡邊 誠士** 経営情報学研究科(M・D)担当



担当科目 : 会計学基礎 I・II、経営分析、企業価値評価、コーポレート
トファイナンス I・II、特論演習 他
出身学校 : 京都大学大学院経済学研究科
学 位 : 修士 (経済学)
所属学会 : 日本会計研究学会、会計理論学会、財務会計研究学会、公
益事業学会
E-mail : w-masashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「ストック・オプション取引と会計主体—ストック・オプションの資産性に関する理論的考察—」『会計理論学会年報』第29号、2015年 ◇「ストック・オプションの会計処理と税務処理に関する一考察」『財務会計研究』第10号、2016年 ◇「ストック・オプション費用の比較可能性に関する実証研究—株式報酬型ストック・オプション費用に対する市場評価への注記情報の利用—」『経済論叢』第190号第1巻、2016年 ◇「ストック・オプション会計における対応概念の役割—対応概念の有用性の再検討—」会計理論学会年報』第30号、2016年 ◇「日本郵便の統合効果—財務諸表分析を通して—」『公益事業研究』第68巻第3号、2016年 ◇「ストック・オプション費用の収益・費用対応への影響」『経済論叢』第191巻第3号、2017年 ◇「日本郵政の株式上場と企業価値推定」『公益事業研究』第66巻、第1号、2014年 (共著) ◇『郵政事業の会計分析—ユニバーサルサービスと効率性—』白桃書房、2025年 (共著) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
ストック・オプション会計、日本郵政グループ、会計制度の比較制度分析

(Gaku Ueno)

准教授

上野 学

経営情報学研究科(M)担当



担当科目 : 会計学基礎 I・II、経営学基礎 I・II、FSP 講座、基礎演習 I・II、演習 I・II、管理会計、監査論 他

出身学校 : 東北大学

学 位 : 博士 (経営学)

所属学会 : 日本会計研究学会、日本監査研究学会、日本ガバナンス研究学会

E-mail : ueno@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 藤井秀樹, 渡邊誠士, 上野 学, 児島記代 「2021~2022 年度共同研究報告 地方創生とユニバーサルサービスのあり方に関する経済学的研究 — 郵政事業のフィールド調査を通じて —」, 金沢学院大学紀要 (22) 114-127, 2024 年 3 月, 査読有
- ◇ 上野 学 「内部統制の不備の開示に関する実証研究の展開」, 内部監査 (7), 2024 年 9 月
- ◇ 上野 学, 渡邊誠士 「公正取引委員会による課徴金納付命令等の監査報酬、利益調整への影響 — 少数処置サンプルでの実証研究 —」, 金沢学院大学紀要 (23) 1-12, 2025 年 3 月, 査読有
- ◇ 上野 学 「内部統制不備の開示企業の背景 — 事例分析を通じて —」 金沢学院大学紀要 (23) 13-22, 2025 年 3 月, 査読有
- ◇ 渡邊誠士, 上野 学 「金融庁の課徴金勧告による企業の逸脱行為と監査報酬、利益調整行動の関連性分析」, 金沢学院大学紀要 (23) 144-157, 2025 年 3 月, 査読有

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

初度監査時の監査報酬に関する実証研究 3. 内部統制報告制度と監査報酬の関係性 4. マネジメントコントロールと周辺領域の研究

(Noriyo Kojima)

准教授

児島 記代

経営情報学研究科(M)担当



担当科目 : 財務会計 I・II、会計学基礎 I・II、実践簿記 I・II、簿記教育の現状を踏まえた理論再構築の試み— II 他

出身学校 : 茨城大学、千葉商科大学大学院

学 位 : 博士 (政策)

所属学会 : 日本簿記学会、財務会計研究学会、税務会計研究学会

E-mail : noriyo-k@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- 論文◇児島記代・藤井秀樹「戦後教育における簿記教授法の再検討—1953 年円卓討論を素材として—」『金沢学院大学紀要第 24 号』、令和 8 年 3 月。
- ◇児島記代「他勘定振替高とは何か—簿記教育の現状を踏まえた理論再構築の試み—」『金沢学院大学紀要第 23 号』、令和 7 年 3 月。
- ◇児島記代「簿記・会計教育に関する実践的研究—少子化時代の会計専門職育成の重要性—」『金沢学院大学紀要第 22 号』、令和 6 年 3 月。
- 学会報告◇児島記代・藤井秀樹「導入簿記教育課題再考—1953 年円卓討論からの継続と進化—」日本会計研究学会第 84 回大会、自由論題報告 (福岡大学)、令和 7 年 8 月 28 日。
- ◇ 児島記代 「初期井尻学説の簿記学的含意に関する再検討—因果性概念の意義と役割を中心に—」第 17 回財務会計研究学会 (大阪商業大学)、令和 6 年 10 月 12 日。
- ◇児島記代「簿記情報の性質に関する一考察—多式簿記再構成の試み—」第 40 回日本簿記学会関西西部会 (愛知学院大学)、令和 6 年 5 月 25 日。

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

少子化時代の会計専門職育成を見据えた簿記・会計教育の課題に関する実践的研究 (科学研究費助成事業)

(Junichi Yonezawa)

特任准教授

米澤 順一



担当科目 : 会計学基礎 I・II、商業簿記 I・II、原価計算 I・II、商業科教育法 他
出身学校 : 金沢大学経済学部 金沢学院大学大学院
学 位 : 修士 (経営情報学)
所属学会 :
E-mail : yonezawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『ストック・オプション会計の問題点に関する一考察』金沢学院大学平成 18 年度修士論文◇
『わが国における退職給付会計の展開 (1)』金沢学院大学紀要第 12 号 (2014) ◇『高等学校商業科における科目指導法について—簿記を題材に—』金沢学院大学紀要第 18 号 (2020) ◇『商業科における「原価計算」の指導方法について—総合原価計算を題材に—』金沢学院大学教職センター紀要第 3 号 (2019)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

簿記・原価計算の教授法および教材開発

金沢学院大学 芸術学部

学部長 飯田 栄治

	教授	准教授	講師	助教
芸術学科	荒川 昭広	加藤 謙一	松永龍太郎	
	飯田 栄治	越田 久文		
	市島 桜魚 (特任)	村谷 聡志		
	末松 智 (特任)	吉田 一誠		
	羽場 文彦			
	平木 孝志 (特任)			
	○広根 礼子			
	本田 正史			
	柳橋 広司			
	餘久保優子			

○：学科長

(五十音順)

(Akihiro Arakawa)

教授 **荒川 昭広**



デザイン概論Ⅰ・Ⅱ、CG演習 ab、美術科教育法Ⅱ、ビジュアルデザイン ab、デザイン演習Ⅱ ab、ウェブ活用演習Ⅱ、ウェブポートフォリオ、マルチメディア演習 a、複合表現演習Ⅰa、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 金沢美術工芸大学

学 位 : 芸術学士

所属学会 : 日本デザイン学会 大学美術教育学会 石川県ビジュアルデザイン協会 理事

E-mail : arakawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ デザイン教育におけるアクティブラーニングの実践
- ◇ 美術とメディアデザインを融合した授業の導入計画
- ◇ 美術とメディアデザインを融合した複合的な学び
- ◇ デジタルイラストレーションによる絵画的表現「リアル背景画～写真から絵画へ」
- ◇ 中高美術科教育における表現テーマの考察～現代美術作品の模倣による制作指導～

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

問題解決につなげるデザイン思考

(Eiji Iida)

教授 **飯田 栄治** 経営情報学研究科(M)担当



地域課題研究、ソフトウェア基礎論 ab、工学デザイン ab、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ CG活用演習 ab、ゲームデザイン ab 他

出身学校 : 北陸先端科学技術大学院大学情報科学研究科

学 位 : 情報科学博士

所属学会 : 電子情報通信学会 情報処理学会 人工知能学会
日本シミュレーション学会

E-mail : e-iida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ “人間の持つ解決戦略を利用した問題解決システム” 情報処理学会、第6回数理モデルと問題解決のシンポジウム論文集 2000.3
- ◇ “N2-1 パズルのスケールダウン解法” 電子情報通信学会和文論文誌 1998.7
- ◇ “A system to Perform Human Problem Solving” The 5th International Conference on Soft Computing and Information / Intelligence Systems, 1998.10
- ◇ “メッセージプロジェクション システム 出展 愛知万博 2005.5
- ◇ “メッセージプロジェクション装置の制作とその効果について” エンタテイメントコンピューティング 2005.9
- ◇ 金沢城辰巳櫓 3DCG制作(2007、石川県、北國総研) 金沢市内小学校 DVD 配布
- ◇ “電子掛け軸” エンタテイメントコンピューティング 2008.9 (金沢 21世紀美術館)
- ◇ “「かげおくり」システム デモ エンタテイメントコンピューティング” 2009.9 (東京大学)
- ◇ “快適で美しいまちづくり推進の金沢らしい表示物に関する研究” 2013.3 (金沢市)
- ◇ “石川県の伝統文化の魅力海外発信プロジェクト” 2016.3(石川県) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

デジタルアート及びバーチャルリアリティシステムの研究
地域魅力発見発信研究(地域学)

(Ougyo Ichishima)

特任教授

市島 桜魚



担当科目 : 工芸Ⅲ・Ⅳ、工芸表現法Ⅲ・Ⅳab、キャリアプランニング
I・II 他
出身学校 : 石川県立金沢二水高等学校
学 位 :
所属学会 : (公社)日本工芸会 日本文化財漆協会 石川県美術文化協会
E-mail : ougyo@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇1990 第37回日本伝統工芸展 優秀賞(NHK会長賞)蒔絵「秋の野」小篋箱 ◇1992 第39回日本伝統工芸展 優秀賞(朝日新聞社賞)平文「星螢」重ね箱 ◇1993 第10回日本伝統漆芸展 蒔絵「盛秋」八角箱 紀文美術館買上げ、ステッセルのピアノ復元における蒔絵制作 ◇1994 第50回石川県現代美術展 最高賞(技術賞)および50周年記念美術文化大賞 蒔絵「渦波」箱 ◇1995 第12回日本伝統漆芸展 蒔絵「宙」箱 宮内庁買上げ ◇1996 第13回日本伝統漆芸展 蒔絵「閃光」八角箱 国際国流基金買上げ ◇1998 第54回石川県現代美術展 委嘱賞 蒔絵「円」色紙箱 金沢市買上げ◇1999「日本の工芸<今>100選展」◇2003 日本伝統工芸展 50周年記念展「わざの美」◇2004 六葉会一8人の工芸家たち(日本橋三越本展)◇1999名古屋'01'06'10東京'08金沢にて個展◇2006紫綬褒章、2008 北國文化賞、2019 金沢市文化賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

平文、蒔絵、螺鈿の研究
用の美：漆碗の魅力、日常と非日常
かたちについて

(Satoshi Suematsu)

特任教授

末松 智

人文学研究科担当



担当科目 : デッサン、絵画演習、図学、ドイツ語 I・II、CG 活用演習 a、美術文化交流史、西洋美術史、西洋美術特論 ab、西洋美術史特論 I・II (大学院)、芸術表現基礎 ab、絵画表現法 II
出身学校 : ウィーン美術大学ウィーン美術大学、金沢美術工芸大学
学 位 : 学士(芸術)、Magister atrium (芸術修士)
所属学会 : 日本メディカルイラストレーション学会、日本建築学会、石川県郷土史学会
E-mail : suematsu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇国際論文「A visual analysis of diamond-shaped turret located in the secondary enclosure of Kanazawa Castle」「金沢城二の丸の菱櫓に関する視覚的解析」(日本設計工学会 第1回設計工学に関する国際会議)論文「金沢城二の丸御殿表式台」謎の欄間彫刻(石川郷土史学会々誌 第58号)◇作品(歴史考証復元画・油彩画): エフェソスの大劇場(トルコ)、エフェソスのオクトゴン霊廟(トルコ)、ペルガモンのゼウスの大祭壇(トルコ)、シェーンブルン庭園のローマの遺跡(オーストラリア)、金沢城本丸三段櫓、金沢城東の丸辰巳櫓、金沢城玉泉院丸色紙短冊積石垣郡、金沢城二の丸表式台(玄関)、金沢城二の丸表舞台、金沢城二の丸御殿式台、金沢城鼠多門、金沢城丑寅櫓・水の手門・蓮池掘縁長屋、金沢城色紙短冊積石垣、金沢城辰巳櫓・大鎗櫓、藩祖前田利家肖像、藩祖正室芳春院肖像、三代藩主利常生母寿福院肖像、三代藩主正室天徳院(珠姫)肖像

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

古代遺跡や日本近世城郭
過去の人物の歴史的復元考証と復元画制作

(Fumihiko Haba)

教授

羽場 文彦



担当科目 : 工芸表現法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳab、工芸Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、工芸演習、絵画工芸基礎b、基礎造形論Ⅱ、美術材料学b、卒業制作研究Ⅰ・Ⅱ、美術科教育法Ⅰ 他
出身学校 : 金沢美術工芸大学
学 位 : 芸術学修士
所属学会 : 大学美術教育学会
E-mail : fumihaba@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 2005、6年(東京・銀座・フタバ画廊)
- ◇ 2009、10、11、12、14、15、17、18年(東京・神宮前・トキアートスペース)
- ◇ 2011年(東京・銀座・ギャラリーSOL)
- ◇ 2013年(東京・京橋・LIXILギャラリー ガレリアセラミカ) 等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

土のもつ可能性を引き出した造形制作
量産技法を使用した作品の展開
ギャラリー等での作品発表
教育素材の研究と授業での活用

(Takashi Hiraki)

特任教授

平木 孝志



担当科目 : 日本美術特論 ab、東洋美術特論 ab、絵画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、金沢まち学特講 b、日本美術史、東洋美術史 他
出身学校 : 金沢美術工芸大学大学院
学 位 : 芸術学修士
所属学会 : 美術史学会 儀禮文化学会 茶の湯文化学会 公益法人
日展 新日春会
E-mail : t-hiraki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇日展特選(2005・1010)、日展審査員(2018) ◇源氏物語香図五十四帖制作 ◇長瀬神社天井画90面・絵馬制作(新潟県加茂市) ◇本因寺天井画40面・龍図、襖絵制作(金沢市寺町)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

金沢の伝統文化 茶道と美術工芸 現代日本画の表現

(Ayako Hirone)

教授 **広根 礼子**



担当科目 : 芸術表現基礎 ab、デザイン基礎、色彩学 ab、複合表現演習 Ib、視覚伝達論 ab、デザイン演習 Iab、デザイン演習 IIIab、プレゼンテーション活用 ab、カラーコーディネーター演習、芸術基礎演習 II、卒業制作・研究 I・II 他

出身学校 : 金沢美術工芸大学 産業美術学部 商業デザイン科

学 位 : 芸術学士

所属学会 : アートミーツケア学会 金沢アートディレクターズクラブ

E-mail : hirone@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「アートワークショップで体験の格差改善を目指して」産学官連携ジャーナル 6月号、2022◇
 「『いしかわのようもう』商品開発-ヒツジを活用した地域振興の取り組み」金沢学院大学紀要、
 第 18 号、2020 ◇「地域の課題解決へ ヒト・モノ・コトをつなぐ」北國 TODAY VOL. 94、2019
 ◇「ゼミ活動におけるまちなかアート創出 II -その場のための展示作り-」金沢学院大学紀要、
 第 17 号、2019 ◇「ゼミ活動におけるまちなかアート創出 I -見つけることを主題にしたデザイン
 の取り組みから-」金沢学院大学紀要、第 16 号、2018 ◇「デザインによる過疎地域の寺院
 問題への取り組み」アートミーツケア学会 オンラインジャーナル第 9 号、2018 ◇「デザイン
 による地域連携の試み 高精細画像プリントによるクリーニングクロスの開発プロセスとアクテ
 イブラーニングの実践報告」金沢学院大学紀要、第 15 号、2017

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

皮膚感覚によって喚起されるデザイン教育の実践とカリキュラム構築
 ケアを念頭に置いたコミュニケーションデザインの考察

(Masashi Honda)

教授 **本田 正史**



担当科目 : 美術概論 絵画 I・II・III・IV、卒業制作・研究 I・II、
 II、キャリアデザイン III、近現代美術史 ab、人体と美術

出身学校 : 金沢美術工芸大学大学院 上越教育大学大学院

学 位 : 修士 (芸術学、教育学)

所属学会 : 国画会会員 石川県美術文化協会会員

E-mail : honda-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇第 81 回現代美術展委嘱出品 (金沢 21 世紀美術館) ◇第 99 回国展 会員・審査員出品 (国立
 新美術館) ◇UNITE100! [国展 100 回記念 絵画部企画展] (銀座ギャラリー向日葵・あづま)
 ◇第 5 回国画会会員によるアミューザン展 (銀座ギャラリー向日葵) ◇ -百花繚乱 100 人 100
 景- [国展 100 回記念五部門合同企画展] (渋谷 Galerie412) ◇KOKUTEN in MACHIDA [国展 100
 回記念企画展] (町田市-ギャラリー アルル。) ◇-国展と金沢- [国展 100 回記念五部門合同企
 画展] (金沢エムザ 美術サロン) ◇第 31 回北陸国展出品 (石川県立美術館)
 2026◇第 82 回現代美術展委嘱出品・審査員 (石川県立美術館)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

絵画言語である線と色とを画面上で再構築する絵画表現

(Hiroshi Yanagibashi)

教授

柳橋 広司



担当科目 : 絵画 I・II・III・IV、卒業制作・研究 I・II
出身学校 : 金沢美術工芸大学美術工芸学部日本画専攻
学 位 : 学士 (芸術)
所属学会 : (社)日展 石川県美術文化協会 京都日本画家協会
E-mail : yanagibasi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇第60回現代美術展 題名「ダチョウ」 美術文化特別賞 最高賞
- ◇第67回現代美術展 題名「羽ばたく」 美術文化優秀賞 委嘱賞
- ◇改組新 第3回日展 題名「匠」 特選

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
現代日本絵画の制作

(Yuko Yokubo)

教授

餘久保 優子



プロダクトデザイン ab、人間工学 ab、空間デザイン ab、
担当科目 : 知的所有権論 ab、芸術表現基礎 ab、学修基礎 I・II、キ
ャリアデザイン I、卒業制作研究 I・II
出身学校 : 金沢大学大学院 医薬保健学総合研究科 保健学専攻
学 位 : 博士 (保健学:人間工学)
所属学会 : 日本デザイン学会、(一社) 日本人間工学会、(公社) 日本
工業デザイン協会、石川県プロダクトデザイン
協会、(一社) ユニバーサルデザインいしかわ
E-mail : yokubo@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇遠隔地間でのリモートデザイン手法の研究開発, 石川県工業試験場研究報告, 2023;72; p.25-30◇Relationship between chopstick manipulation and cross-sectional shape in the developmental stages from infancy to early school age. Applied Ergonomics. 2021;97:103507-10357◇3D技術を活用したおんぶ動作に基づいた移乗機器の開発, 人間生活工学. 2020;21(2):p.38-45◇アナログとデジタルを融合するデザイン技術, 人間生活工学 2018;19(1):50-52
- ◇(財)九州産業活性化センター九州デザインコンペティション入選 1998年◇デザインコンペ大阪運営委員会デザインコンペ大阪入選 1999年◇LG国際デザインコンペティション入選 1999年
- ◇日本住宅設備協会キッチンコンテストユニバーサルデザイン賞 2002年◇中部公設試験研究機関研究者表彰 中部科学技術センター会長賞 (研究功労者) 2022年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
子どもの発達段階に基づいた箸の補助機能とその効果検証 (科学研究費)
ユーザ参加型のインクルーシブデザイン研究 (個人研究)

(Kenichi Katou)

准教授

加藤 謙一



担当科目 : 博物館概論、博物館資料論、生涯学習概論、博物館経営論、博物館実習Ⅰ・Ⅱ、民俗学Ⅰ・Ⅱ、工芸史、文化芸術活用特論、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 関西大学
学 位 : 修士(文学)
所属学会 : 日本・ミュージアムマネジメント学会 日本展示学会
全日本博物館学会
E-mail : k-katou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「ミュージアムコレクションをめぐる保存と活用の越境的実践に関する試論～収蔵展示の展示手法と導入動機への分析を通じて～」日本ミュージアム・マネジメント学会研究紀要(27)、2023年 ◇「収蔵庫公開事例に関する現地調査報告と検証—原美術館 ARC と静岡市立登呂博物館を対象に—」金沢学院大学紀要(21)、2023年 ◇「ミュージアムにおける収蔵展示の基礎的研究—調査結果に基づく類型化を中心として—」金沢学院大学紀要(20)、2022 ◇「ミュージアムの収蔵展示に関する基礎的研究」金沢学院大学紀要(19)、2021年3月 ◇「大学教育で活用できる展示をつくる～「開架閲覧型収蔵展示」の可能性～」『展示学』57号、2019年 ◇『継承される地域文化—災害復興から地域創発へ』(分担執筆)臨川書店、2021年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

文化財の保存、活用に果たす展示の役割、特に収蔵展示(visible storage)を中心に調査研究を進めている

(Hisafumi Koshida)

准教授

越田 久文



担当科目 : 芸術表現基礎 ab、メディアデザイン論 ab、映像基礎 ab、映像論、CM制作 ab、ポストプロダクション ab、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 北九州市立大学 中退 専攻:メディア学
学 位 :
所属学会 :
E-mail : koshida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 卒業研究主要テーマ:ブロードキャスト(放送)とインターネットの補完性
◇ 視聴者参加番組のリアルタイム投票・集計システム設計
◇ ECサイト「金沢屋」設計・開発

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

地上デジタル放送時代における、ネットと放送の融合

(Soshi Muratani)

准教授

村谷 聡志



担当科目 : 工芸 I・II・III・IV、工芸表現法 I・II・III・IVab、工芸演習、プレゼンテーション基礎 ab、基礎造形論 I、工芸科教育法、美術材料学 a、卒業制作・研究 I・II 他

出身学校 : 金沢学院大学

学 位 : 学士 (芸術学)

所属学会 : 日本工芸会

E-mail : muratani@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 第 22 回日本伝統漆芸展 日本工芸会賞
- ◇ 第 29 回日本伝統漆芸展 東京都教育委員会賞
- ◇ 第 68 回現代美術展 次賞
- ◇ 第 72 回現代美術展 次賞
- ◇ 第 34 回日本伝統漆芸展 奨励賞
- ◇ 第 62 回石川の伝統工芸展 北國新聞社社長賞
- ◇ 第 63 回石川の伝統工芸展 日本工芸会賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

現在の主な研究・制作テーマ等、その他 乾漆技法による造形表現の追及 漆芸素材・造形素材・漆芸技法に関する調査と研究 漆芸における 2D、3D ソフトを用いたデジタルモデリングの応用

(Issei Yoshida)

准教授

吉田 一誠



担当科目 : コンピュータ基礎演習 I・II、マルチメディア論 ab 他

出身学校 : ロンドン大学、ロンドンインスティテュート、ロンドンメトロポリタン大学

学 位 : MA Fine Art MA Digital Media

所属学会 : 芸術科学会

E-mail : i-yosida@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ Issei Yoshida, Soshi Muratani, Kenichi Kato “An Experimental Approach to AI-Driven Structuring of Semantic Connections in Wajima-nuri for VR Environments” IPSJ Interaction2026
- ◇ Issei Yoshida, “A Study on the Production of Projection Mapping using Kutani-Ware Platters” Society for Information Technology & Teacher Education International Conference 2016
- ◇ Takada, N., Yoshida, I., Suzuki, M. & Yanagisawa, R. “The Evaluation of Applying our Developed Haiku Application to Liberal Arts Students” Society for Information Technology & Teacher Education International Conference 2014
- ◇ Tokyo Wonder Wall 公募 2014 入選
- ◇ Aomori Print トリエンナーレ 2014 入選

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

VR/MR 等の没入型視覚化環境(Immersive Visualization Environment) における学習空間の開発

(Ryutaro Matsunaga)

講師

松永 龍太郎



担当科目 : 芸術表現基礎 ab、CG 演習 ab、アニメーション演習 I (実写・クレイ) ab、絵画表現法Ⅲ・Ⅳab、イラストレーションⅠ・Ⅱ、卒業制作・研究Ⅰ・Ⅱ 他

出身学校 : 東京芸術大学大学院

学 位 : 学士 (芸術学)

所属学会 :

E - m a i l : r-matsunaga@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇小豆島アートインレジデンス
 - ◇フランスジャパン EXPO 出展
 - ◇コミックマーケット出展
- 個展、グループ展

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

デジタルイラストにおける伝統的素材および表現技法の活かし方についての研究

金沢学院大学 スポーツ科学部

学部長 藤原 勝夫

	教授	准教授	講師	助教
スポーツ科学科	金本 賢治	菊政 俊平	一色 貴史	稲川 尚汰
	清田 岳臣	藤本 索子	中村 英里子	浦部 隼希
	清田 直恵			尾形 晃広
	多田 邦宏 <small>(特任)</small>			北島 孟
	福井 卓也			高橋 一誠
	藤原 勝夫			堀口 貴史
	丸山 章子			松橋 和希
	渡辺 直勇			吉田 唯莉
	○渡辺 涼子			

○：学科長

(五十音順)

(Kanemoto Kenji)

教授 **金本 賢治**



担当科目 : 教職論、体育原理、体育科教育法 I、II、コーチング演習
I、II
出身学校 : 鳴門教育大学大学院
学 位 : 修士 (教育学)
所属学会 : 日本体育・スポーツ・健康学会
E-mail : kanemoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「嘉納治五郎の精力善用・自他共栄の社会的意味について」武道学研究 20-2 (1987)
- ◇「嘉納治五郎の教育思想」鳴門教育大学修士論文 (1988)
- ◇「能動力の教室～変わりたいに火をつけた柔道と教育の記録～」文芸社 (2026)

- ◇スポーツの教育的価値について再検討
- ◇体育科教育における主体的・対話的で深い学びの実現
- ◇生徒の自己効力感を高める指導法の開発

(Takeo Kiyota)

教授 **清田 岳臣** スポーツ健康学研究科担当



運動発達・老化学、学校保健、運動処方、スポーツ測定評価、健康管理演習、スポーツ実技XVI(バスケットボール)、
担当科目 : スポーツ健康学特論、運動発達・老化特論、運動処方特論
他
出身学校 : 金沢大学大学院医学系研究科
学 位 : 博士 (医学)
所属学会 : Society for Neuroscience、日本生理人類学会、日本健康
行動科学会、日本体育学会
E-mail : t-kiyota@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇乳児期の連続膝屈伸運動の発達に関する養育者への質問紙調査. Health and Behavior Sciences, 2024, 22(2):61-68. 2024. ◇Age-related changes in the activation timing of postural muscles to the prime mover muscle for bilateral arm flexion during standing. J Physiol Anthropol. May 7;41(1):20. 2022. ◇単純反応と自己ペース課題での両側上肢屈曲運動時の姿勢筋の活動タイミング. 大阪総合保育大学児童保育論集, 1; 15-22. 2022. ◇子どもの姿勢制御の発達. 子どもと発育発達 15(2), 124-130. 2017. ◇上肢屈曲運動時の姿勢変換型の発達の变化. Health and Behavior Sciences 16(1), 15-21. 2017. ◇Dominant side in single-leg stance stability during floor oscillations at various frequencies. Journal of Physiological Anthropology, 33(1): 25. 2014. ◇ヒトの運動機構の特徴と脳発生. 図解 運動の神経生理学. 北国新聞社, pp14-23. 2024 ◇図解 運動の神経生理学(図版監修), 北国新聞社. 2024 ◇乳児期の発育・発達と心身の健康. 保育内容「健康」幼児期の教育と小学校教育をつなぐ第2章 1節, 3節. 大修館書店. 2023 ◇運動機能解剖学(図版監修), 北国新聞社. 2019

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
姿勢と運動の発達, 予測的姿勢制御

(Naoe Kiyota)

教授 **清田 直恵** スポーツ健康学研究科担当



生理学、健康運動演習、健康管理演習、生活習慣病概論、
担当科目 : スポーツ健康学特論 I、地域スポーツ活用特論、情報科学
特論 他
出身学校 : 金沢大学大学院医学系研究科
学 位 : 博士 (医学)
所属学会 : Society for Neuroscience 日本生理人類学会 日本健康
行動科学会 日本理学療法士協会
E-mail : kiyota@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇バレーボールのオーバーハンドパスにおける手首と手指の関節運動. Health and Behavior Sciences 20(2): 109-117. 2022. ◇立位における膝関節屈曲運動に伴う筋活動および関節音. Health and Behavior Sciences 20(1): 31-38. 2021 ◇若年成人における骨盤傾斜に伴う脊柱彎曲変化の性差の三次元分析. Health and Behavior Sciences 19(1): 17-23. 2020. ◇運動機能解剖学. 第4章「股関節」. 北國新聞社, 2019 ◇Investigation of pro-saccade and finger flexion reaction times in basketball and racket sports players. Health Behav Sci., 17(2):41-46, 2019 高齢者における森歩き運動と水中運動の健康増進効果. Health Behav Sci., 17(2):67-76, 2019 ◇Developmental changes in shortening of pro-saccade reaction time while maintaining neck flexion position. J Physiol Anthropol., 37(1):2, 2018 ◇Timings of attentional switching to perturbation and postural preparation during transient forward or backward floor translation. J Physiol Anthropol., 37(1):1, 2018 ◇Activation timing of postural muscles of lower legs and prediction of postural disturbance during bilateral arm flexion in older adults. J Physiol Anthropol., 36(1):44, 2017 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 姿勢制御、抑制機能

(Kunihiro Tada)

特任教授 **多田 邦宏**



担当科目 : スポーツ実技IX (ソフトボール)、スポーツ科学
出身学校 : 国士舘大学
学 位 : 体育学士
所属学会 :
E-mail : k-tada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇著書「指導教本」(ソフトボール編)単著 ◇「みるみる上達するソフトボール」～神村学園の確実に強くなる練習法～ 単著 平成27年9月(ティアンドエイチ社)海外派遣 ◇国際スポーツ専門家长期派遣事業、派遣専門家(ソフトボールコーチ)平成12年9月～平成13年3月国体関係◇平成21年～24年 徳島県 国体成年女子監督 ◇平成27年～29年 鹿児島県 国体少年女子監督 ◇令和2年～ 石川県 国体成年女子監督主たる指導実績(ソフトボール) ◇平成25年 神村学園高等部 全国高校総体ベスト16 ◇平成26年 同上 全国高校総体優勝 ◇平成27年 同上 全国高校総体出場 ◇平成28年 同上 全国高校選抜大会3位、全国高校総体出場、国民体育大会準優勝 ◇平成29年 同上 全国高校選抜大会ベスト16、全国私学大会準優勝、全国高校総体5位 ◇平成30年 同上 全国高校選抜大会3位◇令和元年・2年 全日本大学選手権大会3位 ◇令和4年 全日本大学選手権大会優勝

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 ソフトボールにおけるトレーニング理論

(Takuya Fukui)

教授

福井 卓也

スポーツ健康学研究科担当



運動学、競技者育成システム、地域とスポーツ、スポー

担当科目 : ツイイベント企画運営、専門演習 I・II、学修基礎 I・II、
スポーツ実技 VII (器械体操・トランポリン) 他

出身学校 : 日本体育大学

学位 : 体育学修士 (日本体育大学)

所属学会 : 日本体育学会、日本スポーツ方法学会、日本健康行動学会、
日本スポーツ歯科医学会

E-mail : fukui@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ Effect of clenching on spinal alignment 日本生理学会 (2022) ◇ エリートアスリートの競技力に影響する身体的要因: 男子トランポリン選手を対象とした検討. スポーツ歯学第 25 巻第 2 号 (2022) ◇ 咬合状態がトランポリン競技者の H スコアに与える影響: エリートレベルの男子選手を対象とした検討. スポーツ歯学第 25 巻第 2 号 (2022) ◇ トランポリン競技の跳躍高と姿勢制御機能との関連性. スポーツ歯学第 25 巻第 2 号 (2022) ◇ トランポリン選手に対するマウスガード装着がストレートジャンプの跳躍時間に与える影響. 日本スポーツ歯科医学会 (2020) ◇ 次世代ターゲットスポーツ育成支援事業におけるトランポリン選手に対するスポーツ医科学的支援. 日本スポーツ歯科医学会 (2020) 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

トランポリン競技における技術の体系化に関する研究
マウスガード装着とスポーツ競技の安全性に関する研究

(Katsuo Fujiwara)

教授

藤原 勝夫

スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : 健康科学、運動生理学、機能的解剖学、生命倫理、運動発
達・老化学、専門演習 I・II、運動生理学特論 他

出身学校 : 筑波大学大学院博士課程体育科学研究科

学位 : 教育学博士

所属学会 : 日本健康行動科学会、Society for Neuroscience

E-mail : fujikatu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

著書 (編著)

◇ 図解 運動の神経生理学. 北國新聞出版社編集局. 2024 ◇ 運動機能解剖学. 北國新聞出版社編集局. 2019 ◇ 改訂 身体活動と体力トレーニング. 朝倉書店. 2000 ◇ 身体機能の老化と運動訓練ーリハビリテーションから健康増進までー. 日本出版サービス. 1996

論文

◇ ソフトボールのバッティングにおけるスイング速度と体幹の捻転運動および筋活動 Health and Behavior Sciences 24(1): 1-7, 2025 ◇ 自転車エルゴメータによる上・下肢の力型・スピード型のパワー評価. Health and Behavior Sciences 23(2): 41-47, 2025 ◇ Diurnal variation in shortening of saccadic reaction time with maintaining neck flexion position. Health and Behavior Sciences 23(1):11-18, 2024 ◇ Age-related changes in the activation timing of postural muscles to the prime mover muscle for bilateral arm flexion during standing. Journal of Physiological Anthropology 41(1):20. 2022

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

姿勢制御、脳賦活、事象関連脳電位、注意機能、体力

(Akiko Maruyama)

教授 **丸山 章子** スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : スポーツコンディショニング論、スポーツコンディショニング演習Ⅰ・Ⅱ、メンタルトレーニング論、オリンピックへの挑戦と指導 他

出身学校 : 金沢大学教育学部

学 位 : 教育学修士 (金沢大学)

所属学会 : スポーツ心理学会

E-mail : akiko-f@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「陸上競技選手の心理的サポートに関する研究-自己ベストを更新した短距離選手の事例-」共著 金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編第14号 ◇令和元年9月◇「トランポリン選手に対するマウスガード装着が姿勢制御機能に与える影響」第30回日本スポーツ歯科医学会学術大会プログラム抄録集:104 令和元年 ◇「トランポリン競技選手における心理的サポートに関する縦断的研究-2020年東京オリンピックを目指す女子選手の心理的変容-」金沢学院大学紀要 経営・経済・情報科学・自然科学編第17号 令和元年3月 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

スポーツ競技の心理的スキルトレーニングの開発、及び心理サポートに関する研究を継続的、発展的に行い、スポーツ競技選手の強化・育成に貢献する。さらにスポーツ歯学的観点からスポーツ選手と歯の関係についての見解を深め、パフォーマンス発揮に有効なマウスガードの開発や咬合接触状態について研究を進める。

(Naotake Watanabe)

教授 **渡辺 直勇** スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : スポーツ実技Ⅷ(柔道・剣道)、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ、スポーツボランティア論 他

出身学校 : 筑波大学大学院

学 位 : 体育学修士

所属学会 : 日本武道学会

E-mail : naotake@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 柔道の競技レベルが投技評価における異見発生に及ぼす影響について
◇ 現代人のための健康づくり
◇ 「柔道選手における無酸素パワーと有酸素パワーの関係について」筑波大学修士論文 1989
◇ 「一流男子柔道選手の試合前のコンディショニングづくりに関する実態調査」武道学研究 1997
◇ 「世界強豪選手の組み手と技データ～2001世界選手権」柔道科学研究第8号 2003
◇ 「学生生活におけるマナー意識向上のためのシステムの提案」本教育メディア学会 2010

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

柔道選手における体力について
柔道競技の審判法について
武道教育について

(Ryoko Watanabe)

教授

渡辺 涼子

スポーツ健康学研究科担当



コーチング論、コーチング演習 I・II、スポーツ技術戦
担当科目 : 術論、オリンピックへの挑戦と指導、生涯スポーツ論、スポーツ実技(柔道・剣道)他
出身学校 : 筑波大学大学院
学 位 : 体育学修士
所属学会 : 日本体育学会 日本武道学会
E-mail : ryoko@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「柔道強化選手と比較した大学柔道選手の精神的特徴」講道館柔道科学研究第 12 輯 197～204 2008 ◇「アテネオリンピックのメンタルサポートー日本代表選手の UK 分析から」、講道館科学研究会紀要第 10 編、2005 ◇「全日本女子強化選手の運動機能に関する比較研究」柔道科学研究第 1 号 7-10 1995 ◇「女子柔道強化選手の体力に関する研究」武道学研究 第 24 巻 1993 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本代表柔道選手の成育史に関する研究
女子柔道選手のコンディション評価
柔道における新ルール改正への影響

(Shumpei Kikumasa)

准教授

菊政 俊平

スポーツ健康学研究科担当



スポーツ心理学、スポーツ競技の心理、スポーツ統計学、
担当科目 : 海外文献講読、スポーツ実技 XVII (野球)、専門演習 I・II 他
出身学校 : 筑波大学大学院 人間総合科学研究科 体育科学専攻
学 位 : 博士 (体育科学)
所属学会 : 日本体育・スポーツ・健康学会、日本スポーツ心理学会、
日本野球学会、North American Society for the
Psychology of Sport and Physical Activity 他
E-mail : kikumasa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ ソフトボール選手が集団内で行う打球処理に関する判断の方略. スポーツパフォーマンス研究, 13: 146-162, 2021. ◇ 試合状況に関する情報が野球の捕手におけるプレー指示場面での状況判断に及ぼす影響. 体育学研究, 65: 237-252, 2020. ◇ 野球の捕手が 2 者間で行う打球処理の判断に係る時間的および空間的情報. 体育学研究, 64: 613-624, 2019. ◇ 野球の捕手におけるプレー指示場面での予測に関する時間的遮蔽を用いた検討. 体育学研究, 63: 685-694, 2018. ◇ 野球の捕手におけるプレー指示場面での状況判断および視覚探索に関する方略. スポーツ心理学研究, 45: 27-41, 2018. ◇ 野球の捕手におけるフィールドでの状況判断能力に関する認知的要因の検討. いばらき健康・スポーツ科学, 32: 1-10, 2016.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

集団スポーツにおける状況判断の方略に関する検討

(Motoko Fujimoto)

准教授

藤本 索子

スポーツ健康学研究科担当



担当科目 : 保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ、スポーツ実技Ⅸ(ソフトボール)、球技論、コーチング演習Ⅰ・Ⅱ、オリンピックへの挑戦と指導 専門演習Ⅰ・Ⅱ
出身学校 : 日本体育大学 金沢学院大学大学院
学位 : 修士(スポーツ健康学)
所属学会 : 日本体育・スポーツ・健康学会、日本健康行動科学会、日本スポーツ歯科医学会
E-mail : motoko-f@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇立位における膝関節屈曲運動に伴う筋活動および関節音 Health and Behavior Sciences 20(1): 31-38. 2021. ◇ソフトボールのバッティング動作における上肢および腰・体幹の運動様式(予報) 日本健康行動科学会第21回学術大会口頭発表 2022, 10-1. 2 ◇大学生ラグビー選手に対する顎顔面頸部外傷とマウスガードの調査日本スポーツ歯科医学会第33回総会・学術大会 スポーツ歯学 26(2): 55-55, 2023. ◇ソフトボールのバッティングにおけるヘッド速度に関連する体幹・上肢の運動様式 金沢学院大学大学院スポーツ健康学研究科 2023. 2 ◇ソフトボールのバッティングにおけるスイング速度と体幹の捻転運動及び筋活動 Health and Behavior Science 24(1), 2025, 1-7 ◇基礎を固め安定した野手を育成する～守備・打撃強化メソッド～(DVD) ジャパンライム株式会社

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ソフトボールにおける打撃パフォーマンスの分析と、保健科教育における実践的指導法の開発に取り組んでいる。競技においてはスイング動作と打球結果の関係を明らかにし、その知見をもとにデータに基づく指導の高度化と教育現場への応用を目指している。

(Takashi Isshiki)

講師

一色 貴史



担当科目 : スポーツ技術戦術論、球技論、スポーツ実技(バスケットボール)、コーチング演習、情報活用演習、スポーツビジネス概論、FSP講座、キャリアプランニング 他
出身学校 : 早稲田大学大学院
学位 : 修士
所属学会 : 日本バスケットボール学会、日本コーチング学会、日本スポーツ産業学会
E-mail : issiki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

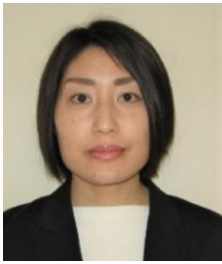
◇バスケットボール競技における有効攻撃に関する一考察【修士論文】
◇バスケットボール競技におけるペイントエリアでの攻撃に関する研究【金沢学院大学紀要】

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

バスケットボールの戦術に関する研究

(Eriko Nakamura)

講師 **中村 英里子**



担当科目 : スポーツ実技V (バレーボール)、スポーツ文化論、レク
リエーション論、体育史、コーチング演習、専門演習 他
出身学校 : 金沢学院大学大学院
学 位 : 修士 (スポーツ健康学)
所属学会 : 日本バレーボール学会、日本コーチング学会
E-mail : e-nakamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ バレーボールのオーバーハンドパスにおける手の関節運動の分析. Health and Behavior Sciences 20(2): 109-117. 2022.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

大学授業におけるバレーボールの試合構造について

(Shota Inagawa)

助教 **稲川 尚汰**



担当科目 : キャリアデザイン I、FSP 講座、スポーツ実技Ⅲ(陸上 I)、スポ
ーツ実技ⅩⅩ(陸上Ⅱ)、運動学、生理学、生涯スポーツ論、
健康運動演習、健康管理演習、スポーツ科学
出身学校 : 順天堂大学大学院
学 位 : 修士(スポーツ科学)
所属学会 : 日本体力医学会、陸上競技学会
E-mail : inagawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ Voluntary hypoventilation が持久的運動中の生理学的応答と運動継続時間に与える影響(修
士学位論文, 2021年)

◇ 浦安市「介護予防測定会」への学生参加による健康スポーツ教育の実践-順天堂大学フレイル・
ロコモ予防ドック 10年プロジェクトの取り組みから-(順天堂医療科学雑誌 第3巻 第1号
pp38-40, 共著, 2025年)

◇ やり投げの競技力と最大下重量を用いたジャンプスクワットのパワー発揮との関係(陸上競技
研究 第139号 No.3 pp23-29, 共著, 2025年)

◇ Effects of plantar flexion angle during falling on rebound jump height(2022 Sports
Medicine Australia conference, ポスター発表:筆頭, 2022年)

◇ Effects of slowed respiratory rate and elevated end-tidal PCO₂ during jogging on
physiological responses(2024 Sports Medicine Australia conference, 口頭発表:筆頭, 2024
年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

牽引装置を用いて走幅跳の助走をアシストした際の動作分析
陸上競技選手におけるスクワットの挙上速度と競技力との関係

(Junki Urabe)

助教 **浦部 隼希**



担当科目 : スポーツ実技 VIII(柔道・剣道)、トレーニング論、体カトレーニング実習、スポーツトレーナー実習、武道論、スポーツ科学、体育史、コンピュータ基礎演習、保健体育科指導法
出身学校 : 日本体育大学大学院
学 位 : 修士 (体育学)
所属学会 : 全米ストレングス&コンディショニング協会
E-mail : urabe@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ 著書：体育授業のリスクマネジメント実践ハンドブック（共著）
- ◇ ポスター発表（中四国武道学会）：剣道授業におけるマスクの着用が運動強度に及ぼす影響—異なる運動強度の素振りに着目して—（単著）

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

フィジカルトレーニングを用いた剣道の競技力向上について
剣道実技のコーチング手法について
剣道選手の体力評価について

(Akihiro Ogata)

助教 **尾形 晃広**



担当科目 : 運動学、スポーツ実技Ⅲ（陸上）、スポーツ統計学、保健体育科教育法Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 国士舘大学 金沢学院大学大学院
学 位 : 修士 (スポーツ健康学)
所属学会 : 日本スプリント学会 健康行動科学会
E-mail : a-ogata@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇左右方向の床振動負荷における姿勢制御の適応的变化

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

スポーツバイオメカニクス、姿勢制御

(Takeshi Kitajima)

助教 **北島 孟**



担当科目 : スポーツ科学、トレーニング論、スポーツトレーナー演習、
体力トレーニング実習、専門演習 I、スポーツ実技Ⅲ（陸
上）他
出身学校 : 同志社大学大学院
学 位 : 修士（スポーツ健康科学）
所属学会 : スポーツ心理学学会
E-mail : t-kitajima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ Effect of Message-Evoked Pleasant or Unpleasant Feelings on Pre-Performance for Motor Performance and Mood. JOURNAL OF SPORT & EXERCISE PSYCHOLOGY. Vol.42. pp40-41. 2020. 共著.
◇ 感情喚起フィードバックメッセージがゴルフパッティング学習へ及ぼす影響. Doshisha Journal of Health & Sports Science, 14, pp1-9. 2022. 共著.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

レジスタンストレーニング
スポーツ活動における言葉かけ

(Takahashi Issei)

助教 **高橋 一誠**



担当科目 : コーチング論、スポーツ社会学、スポーツ実技（サッカー）、
情報活用演習、専門演習
出身学校 : 中央大学経済学部経済学科、金沢学院大学大学院
学 位 : 修士（スポーツ健康学）
所属学会 :
E-mail : issei-t@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

『男子大学生サッカー選手における持久性能力の評価』（共著）
『男子大学生競技者におけるオフシーズン中の身体活動量が身体組成および体力に及ぼす影響』（共著）

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

大学サッカー選手におけるスポーツビジョンと状況判断の関係性

(Takashi Horiguchi)

助教

堀口 貴史



担当科目 : スポーツ実技ⅩⅩ(陸上Ⅱ)、スポーツ実技Ⅲ(陸上Ⅰ)、
スポーツ科学、スポーツ社会学、スポーツ経営管理、
地域とスポーツ、キャリアデザインⅡ・Ⅲ、キャリアプ
ランニングⅠ・Ⅱ
出身学校 : 金沢学院大学大学院
学 位 : 修士(スポーツ健康学)
所属学会 : ランニング学会
E-mail : horiguchi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

箱根駅伝中心システムが国際マラソン適応に与える影響(促進/抑制の両面)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

降雪地域における冬季の長距離トレーニングについて

(Kazuki Matsuhashi)

助教

松橋 和希



担当科目 : 専門演習Ⅰ、コーチング論、スポーツ技術・戦術論、スポ
ーツ実技ⅩⅥ(バスケットボール) 他
出身学校 : 立命館大学大学院
学 位 : 修士(スポーツ健康科学)
所属学会 : 日本バスケットボール学会、日本教育医学会、日本コーチ
ング学会
E-mail : matsuhashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇小学生の女子バスケットボール選手に対するボースハンドシュートからワンハンドシュートへの移行指導法の検討. バスケットボール研究. 9, p23-29, 2023. ◇大学男子における3ポイントシュートの成功率を高める一考察. 大阪成蹊大学紀要. 11, p205-212, 2025. ◇大学教育学部に所属する学生の野外活動時における社会人基礎力の検討-野外活動前後での比較検討-. 大阪成蹊教職研究. 5, p114-124. 2026..

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本の女子バスケットボール選手のワンハンドシュート技術における指導法の検討
バスケットボールのドリブル技術と運動能力との関係
指導者のコーチング哲学、理論の形成

(Yuii Yoshida)

助教 **吉田 唯莉**



担当科目 : スポーツ実技Ⅲ (陸上)、スポーツ心理学、スポーツコン
ディショニング論、スポーツコンディショニング演習Ⅰ・
Ⅱ、専門演習Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 筑波大学 金沢大学大学院
学位 : 修士(学術)
所属学会 : 日本スプリント学会
E-mail : yuii-y@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ cute effects of an instructional movie on drop jump performance and lower limb kinematic and kinetic variables. *Frontiers in Virtual Reality*. 4:1-11, 2023.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

コーチングにおける映像視聴と言葉掛けに関する研究

金沢学院大学 栄養学部

学部長 川村 美笑子

	教授	准教授	講師	助教
栄養学科	大迫 早苗 大谷 千晴 川村美笑子 ○小林 勝義 佐藤ひろ子 鈴木 三枝 七尾由美子 林 直之 宮本佳代子(特任) 山本 武 渡邊 琢夫	荒川 和世 西田 郁(特任)		

○：学科長

(五十音順)

教授 (Sanae Osako)
大迫 早苗



担当科目 : 調理学、調理学実習Ⅱ・Ⅲ、調理科学実験、食品加工学、
食品加工学実習 他
出身学校 : 東京農業大学大学院農学研究科
学 位 : 博士 (環境共生学)
所属学会 :
E-mail : oosako@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇キヌア澱粉の諸性質と糊化特性◇キヌア澱粉糊およびゲルのレオロジー的性質◇キヌア澱粉のミルクゼリーへの利用◇キヌアパンの食味特性について◇ κ -カラギーナンゲルの凍結・解凍における糖類添加の影響◇Effect of Cations on Rheological and Thermal Properties of κ -Carrageenan Gels

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

キヌアの成分特性とその活用法に関する研究

教授 (Chiharu Oya)
大谷 千晴



担当科目 : 栄養アセスメント、臨床栄養学実習、臨地実習Ⅰ (臨床栄
養)、食生活論、献立作成実習
出身学校 : 静岡県立大学大学院 食品栄養科学専攻 (修士課程)
学 位 : 修士
所属学会 : 日本栄養士会、石川県栄養士会、日本健康・栄養システム
学会、日本栄養治療学会、日本栄養改善学会
E-mail : oya@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇平成 28 年度厚生労働省栄養ケア活動支援整備事業「在宅療養者支援のための調査および多職種連携に向けた栄養ケアステーションの構築」◇「公益社団法人石川県栄養士会受託 平成 28 年度厚生労働省栄養ケア活動支援事業より 在宅療養者支援のための調査および多職種連携研修会開催により得られたこと」(医歯薬出版株式会社 臨床栄養 Vol.136 No1 2020.1) ◇在宅復帰・転院時の栄養サポート 栄養情報提供書の作成と活用のポイント「病院から転院・施設移転するとき、栄養面で起こりうる問題はなに？」(メディカ出版ニュートリションケア 2020 Vol.15 no.2)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

医療・介護施設における食事形態の情報共有化への取り組み
医療・介護施設間での多職種連携と管理栄養士の関わり

(Mieko Kawamura)

教授

川村 美笑子



基礎栄養学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学Ⅰ・Ⅱ、応用栄養学演習、
 担当科目 : 基礎栄養科学実験、総合演習、実践栄養学特論Ⅰ、スポーツ栄養学 他
 出身学校 : 東北大学大学院農学研究科博士後期課程中途退学
 学 位 : 農学博士 (東北大学)
 所属学会 : 日本栄養学教育学会評議員 日本微量元素学会 他
 E-mail : m-kawamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Inter- and intra-individual variation of food and nutrient consumption in a rural Japanese population. *European Journal of Clinical Nutrition*. 52:781-785(1999) 共著
 ◇Dietary habits and nutrient intake in non-alcoholic steatohepatitis. *Nutrition*. 23:46-52(2007) 共著
 ◇Metabolic analysis of vanadate and effect on neurochemical behavior as a result of chronic oral administration of vanadate. *Trace Elements in Man and Animals*, NRC Research Press, Canada. 220-223(2008) 共著
 ◇食環境は脳機能にどのような変化を与えるか. *FOOD STYLE*. 21(8):42-48(2014) 単著
 ◇川村美笑子: 子どもの食物. 22-39, 秋田喜代美 (監修) 乳幼児の発達と保育 -食べる・眠る・遊ぶ・繋がる-, 朝倉書店 (2019) ◇Relationship between the sense of confidence regarding dietary life and the nutrient intake of pregnant women. *金沢学院大学教職センター紀要*, 第4号: 293-305 (2021) 共著

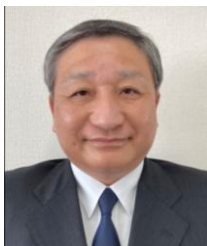
II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

必須微量栄養素の代謝と栄養的修飾
 食環境に由来する複合要因と脳・小腸機能に関する栄養生理学的研究
 地域の特性を重視した栄養生理学・栄養保健学的成果を社会システムの中に位置づける研究

(Katsuyoshi Kobayashi)

教授

小林 勝義



公衆衛生学、健康管理概論、社会福祉概論、生物学基礎、
 担当科目 : 保健統計学、保健統計学実習、スポーツ医学、生活習慣病概論、病理学
 出身学校 : 自治医科大学、国立公衆衛生院専門課程 (MPH コース)
 学 位 : 医学士
 所属学会 : 日本公衆衛生学会、北陸公衆衛生学会 (編集委員)
 E-mail : k-kobayashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇社会・環境と健康 公衆衛生学 2026年版, 医歯薬出版社 (共著) ◇分煙推進会議の取り組み 石川県下の分煙推進事業, 公衆衛生, 63巻11号, 793-795 ◇島にありて, 都道府県展望, 579号7, 全国知事会 ◇保健事業のコンピュータ化について, 厚生省心身障害研究「高齢化社会を迎えるに当たっての母子保健事業策定に関する研究」平成元年度研究報告書, 143-144 ◇身体障害者のためのコンピュータ利用環境を考える, 北陸と公衆衛生, 第34号, 17-25, 北陸公衆衛生学会

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

健康危機管理システムの最適化
 食中毒、感染症の実地疫学支援システムの開発

(Hiroko Sato)

教授 **佐藤 ひろ子**



公衆栄養学Ⅰ、公衆栄養学実習、公衆栄養活動論、地域課
担当科目 : 題研究、卒業研究Ⅰ・Ⅱ
臨地実習Ⅲ(公衆栄養)、臨地実習事前・事後指導Ⅰ・Ⅱ
出身学校 : 大妻女子大学、国立公衆衛生院、大妻女子大学大学院
学 位 : 修士(生活科学)
所属学会 : 日本公衆衛生学会、日本栄養改善学会
E-mail : hi-satou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇公衆栄養学(株式会社光生館)共著◇公衆栄養学実習(第一出版)共著◇新公衆栄養学(有限会社NAP)共著

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
地域高齢者のフレイル予防に関する研究
効果的な栄養プログラムの立案

(Mie Suzuki)

教授 **鈴木 三枝**



公衆栄養学Ⅰ、地域栄養演習、公衆栄養学実習、公衆栄養
担当科目 : 活動論、地域課題研究、臨地実習Ⅲ(公衆栄養)、臨地実習
事前・事後指導Ⅰ・Ⅱ
出身学校 : 相模女子大学
学 位 : 家政学士
所属学会 : 日本栄養改善学会、日本公衆衛生学会、日本給食経営管理
学会
E-mail : suzuki-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇エスカパーシック公衆栄養学(同文書院)共著◇公衆栄養学(光生館)共著◇給食実務必携(第一出版)共著◇公衆栄養学実習(第一出版)共著

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
高齢期における食嗜好の変化は高齢者の虚弱状態を加速する要因であると考え、高齢期における栄養素摂取状況と食品構成の変化について研究する。

(Yumiko Nanao)

教授 **七尾 由美子**



担当科目 : 栄養教育論Ⅰ・Ⅱ, 栄養教育論実習Ⅰ・Ⅱ, 栄養情報処理演習, 総合演習, 実践栄養学特論Ⅱ, 学修基礎Ⅰ, 就職基礎講座, 就職対策講座, 卒業研究Ⅰ・Ⅱ
出身学校 : 東京家政大学
学 位 : 博士 (学術)
所属学会 : 日本栄養改善学会, 日本健康教育学会, 日本食生活学会, 日本食育学会, 日本栄養学教育学会
E-mail : nanao@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇栄養教育論 (共著, 学建書院, 2024年) ◇サクセスフル食物と栄養学基礎シリーズ 応用栄養学 (編著, 学文社, 2024年) ◇栄養教育・指導実習 (共著, 建帛社, 2020年) ◇公衆衛生学 (共著, 学文社, 2018) ◇幼児をもつ保護者のコロナ禍での食生活・食意識に関する調査, 第69回日本栄養改善学会 栄養学雑誌 Vol.80-5 (2022) ◇カフェテリア方式でトレーに配膳図を描くと副菜の選び方に影響するか, 第68回日本栄養改善学会 栄養学雑誌 Vol.79-5 (2021) ◇食環境整備にナッジの理論を利用した場合の影響, 日本栄養士会雑誌, 依頼原稿, Vol.61, 24-25 (2018) ◇モデル地区の住民を対象とした健康増進プログラムの試み, 金沢学院大学研究紀要, 第1号, 98-111 (2018) ◇児童のお手伝い行動と「食に関する感謝の念」の関連性～性別による違いの検討～, 金沢学院大学教職センター研究紀要, 第1号, 98-111 (2018)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ナッジ理論の食生活への応用, 大学生の食生活の実態調査, 子どもの食育に関する研究, 管理栄養士養成のためのプログラム検討 他

(Naoyuki Hayashi)

教授 **林 直之**



担当科目 : 生化学Ⅰ・Ⅱ, 生化学実験Ⅰ・Ⅱ 他
出身学校 : 大阪大学大学院工学研究科
学 位 : 工学博士
所属学会 : 日本遺伝学会 日本分子生物学会 日本生化学会 日本癌学会
E-mail : n-hayashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Altered metabolic regulation owing to gsp1 mutations encoding the nuclear G protein in *Saccharomyces cerevisiae*. *Curr Genet* 66:335-344 (2020) 共著 ◇MicroRNA-140 mediates RB tumor suppressor function to control stem cell-like activity through interleukin-6. *Oncotarget* 8:13872-13885 (2017) 共著 ◇Regulatory interactions between NBS1 and DNMT1 responding to DNA damage. *J Biochemistry (Tokyo)* 154:429-435 (2013) 共著 ◇ATM mediated pRB function to control DNMT1 protein stability and DNA methylation. *Mol Cell Biol* 33:3113-3124 (2013) 共著 ◇NBS1 directly activates ATR independently of MRE1 and TOPBP1. *Genes Cells* 18:238-246 (2013) 共著 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

代謝調節における信号伝達機構

(Kayoko Miyamoto)

特任教授

宮本 佳代子



担当科目 : 臨床栄養学Ⅱ、臨床栄養実践演習、臨地実習事前・事後指導Ⅰ・Ⅱ、臨地実習Ⅰ(臨床栄養)、総合演習
出身学校 : 女子栄養大学
学 位 : 体育学
所属学会 : 日本糖尿病学会、日本透析医学会、日本病態栄養学会、日本臨床栄養学会、日本栄養改善学会
E-mail : kayoko-m@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇深津章子、宮本佳代子、大久保研之、池本真二；若年女性において低炭水化物食に伴う高脂肪食摂取はセカンドミール後のインスリン抵抗性を惹起する、糖尿病 2018 年 61 巻 10 号 p. 678-685。
◇深津章子、宮本佳代子、大久保研之、池本真二；肥満者における緩やかな炭水化物制限に脂肪酸の指導を加える影響：実践的な栄養指導プログラムの検討、日本臨床栄養学会誌 2019 年 41 巻 5 号 p152-163。
◇宮本佳代子、佐藤敏子、茂木さつき、荒川 由起子、手塚洋子、田部井薫；腎臓病 透析患者さんのための献立集、女子栄養大学出版。宗像伸子、宮本佳代子、横山淳一監修、宗像伸子、宮本佳代子他 18 名；ビジュアル 治療食 300、医歯薬出版

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

2 型糖尿病患者のサルコペニアと栄養摂取との関係
2 型糖尿病の糖質摂取

(Takeshi Yamamoto)

教授

山本 武



担当科目 : 食品学Ⅰ・Ⅱ、食品学実験、食品衛生学、食品衛生学実験、食品機能論、食品微生物学、フードスペシャリスト論
出身学校 : 静岡県立大学薬学部、同大学院生活健康科学研究科
学 位 : 博士(食品栄養科学)
所属学会 : 日本アレルギー学会、和漢医薬学会
E-mail : takeshi-y@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Indigenous gut microbiota constitutively drive release of ciliary neurotrophic factor from mucosal enteric glia to maintain the homeostasis of enteric neural circuits. Front Immunol. (2024) DOI: 10.3389/fimmu.2024.1372670. ◇Preferential Neurogenesis of Nitrergic Neurons in the Myenteric Plexus of the DSS-induced Colitis Mouse Colon Causes Colonic Dysmotility in Colitis. Am J Physiol Gastrointest Liver Physiol. (2024) DOI: 10.1152/ajpgi.00219.2023. ◇Allergic inflammation disrupts epithelial electrogenic electrolyte transport through cholinergic regulation in the mouse colon. Biomedical Research (Japan), 44, 31-40. (2023) DOI: 10.2220/biomedres.44.31. ◇Neuro-immune crosstalk and food allergy: Focus on enteric neurons and mucosal mast cells. Allergol Int. 71, 278-287. (2022) DOI: 10.1016/j.alit.2022.03.004. ◇Cholinergic anti-inflammatory pathway ameliorates murine experimental Th2-type colitis by suppressing the migration of plasmacytoid dendritic cells. Sci Rep. 2022 12: 54 (2022) DOI: 10.1038/s41598-021-04154-2.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

食物アレルギーの治療および発症予防に関する研究
腸管粘膜免疫系の制御に関する研究 他

(Takuo Watanabe)

教授 **渡邊 琢夫**



担当科目 : 解剖生理学、解剖生理学実験、病態生理学 I・II・III
出身学校 : 東北大学医学部 同大学院医学系研究科
学 位 : 医学博士
所属学会 : 日本生化学会 日本糖尿病学会
E-mail : takuo@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Regulation of alternative splicing of the receptor for advanced glycation endproducts (RAGE) through G-rich cis-elements and heterogenous nuclear ribonucleoprotein (hnRNP) H. J. Biochem., 147, 651-659 (2010). 共著 ◇Reduced expression of endogenous secretory receptor for advanced glycation endproducts in hippocampal neurons of Alzheimer's disease brains. Arch. Histol. Cytol., 70, 279-290 (2007). 共著 ◇Endogenous secretory receptor for advanced glycation end-products inhibits amyloid- β 1-42 uptake into mouse brain. J. Alzheimers Dis., 28, 709-720 (2012)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
生活習慣病の病態、予防及び治療

(Kazuyo Arakawa)

准教授 **荒川 和世**



給食経営管理応用実習、給食経営管理実習 I・II、臨地実
担当科目 : 習工 (給食の運営)、臨地実習事前・事後指導 I・II、実
践栄養学特論 I
出身学校 : 金沢女子短期大学
学 位 :
所属学会 : 日本給食経営管理学会、日本在宅栄養管理学会、日本栄養
経営実践協会
E-mail : k-arakawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇石川県「保育所ガイドライン策定」(2010.3) 策定委員◇糖尿病性人証患者の減塩指導による
摂取食塩量、腎機能への影響 (第56回日本糖尿病学会年次学術集会 2013年5月) ◇令和6年能
登半島地震による被災者 (要介護者) の受け入れについて (第8回「全国栄養経営士の集い」東
京大会) ◇被災者受け入れから「食べる」ことへの可能性に寄り添う緩和医療での栄養ケアで喜び
を生む (日本医療企画 ヘルスケアレストラン 2024.6) ◇被災者受け入れ 食事を通して家族
の笑顔につながった喜び (日本医療企画 PDN通信 90号 2025.1)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
給食施設におけるスチームコンベクションの活用による美味への開発
給食施設における調理システムによる作業効率の変化

(Kaoru Nishita)

特任准教授

西田 郁



担当科目 : 学校栄養教育法、栄養教育実習事前事後指導、教職実践演習 (栄養教諭)、食に関する指導法
出身学校 : 仁愛女子短期大学
学 位 :
所属学会 : 日本栄養士会
E-mail : nishita@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇生きた教材となる献立の工夫/単著/第7回日本栄養改善学会北陸支部学術総会 (2012) ◇つながりを意識した個別的な相談指導の推進/単著/第15回日本栄養改善学会北陸支部学術総会 (2020) ◇第17回学校給食甲子園出場!そしてこれから/単著/全国学校給食甲子園Blog 食育交歓 No. 14 全国学校給食甲子園ホームページ (2023) ◇給食は生きた教材。「分けきろう」をスローガンに、適切な一回の食事量を教える/単著/KEWPIE 食だより Vol. 20 (2023) ◇未来へつなぐ風景「今日も捕れたて!橋立港の甘えび」/単著/日本栄養士会雑誌第68巻第3号 (2025)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

世代ごとの特性や食習慣を踏まえた食の重要性の伝え方
学校における食物アレルギーを有する児童生徒への組織的な対応について

金沢学院大学 情報工学部

学部長 高木 直史

	教授	准教授	講師	助教
情報工学科	(飯田 栄治(芸)) 石川 温 岩岡浩一郎 加須栄 篤(特任) ○桑野 裕昭 佐々木圭一 高木 直史 田中美栄子(特任) 寺岡 文男 藤本 祥二	(吉田 一誠(芸)) ジャヴィド サハル	後藤 弘光 陶 涛	チア ジェン リン パタライ クリスナ プラサド 友水 豪志

○：学科長

(五十音順)

(Atushi Ishikawa)

教授 **石川 温** 経営情報学研究科(M・D)担当



統計基礎、統計、物理 A (力学)、基礎データ分析、社会
担当科目 : 統計学 I・II、データ科学実践演習、基礎演習 I・II、演習 I・II 他
出身学校 : 大阪大学大学院理学研究科
学 位 : 博士 (理学)
所属学会 : 日本物理学会、計算社会科学会、人工知能学会
E-mail : ishikawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Anomalous Surge in the Mobility Scaling Exponent Reveals Unique Collective Behavior during the 2024 Noto Peninsula Earthquake, Atushi Ishikawa, Shouji Fujimoto, Takayuki Mizuno, Journal of Social Physics 2026, 1 (1), 3. ◇A Language Modeling Framework for Generating and Adapting Human Mobility Trajectories, Takayuki Mizuno, Taizo Horikomi, Shouji Fujimoto, Atushi Ishikawa, Journal of Social Physics 2026, 1 (1), 2. ◇Statistical relationship between the enclosed area and trajectory length of animal movement trajectories, Atushi Ishikawa, Shouji Fujimoto, and Takayuki Mizuno, Frontiers in Physics (2025)13:1617160. doi: 10.3389/fphy.2025.1617160. ◇ViT と GPT-2 を用いた地図情報基盤の移動軌跡生成モデルの開発, 藤本祥二, 石川温, 水野貴之, The 39th Annual Conference of the Japanese Society for Artificial Intelligence, 2025, https://doi.org/10.11517/pjsai.JSAI2025.0_4A3GS1005. ◇移動軌跡生成 AI, 水野貴之, 堀込泰三, 藤本祥二, 石川温, 計測と制御, 2025 年 64 巻 3 号 p. 163-168, <https://doi.org/10.11499/sicejl.64.163>.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
計算社会科学、情報学、社会物理学、経済物理学

(Koichiro Iwaoka)

教授 **岩岡 浩一郎**



基礎データ分析、プログラミング I 及び演習、アルゴリズム
担当科目 : ムとデータ構造、情報と職業、アルゴリズム論、プロジェクトマネジメント、演習 I・II
出身学校 : 京都大学大学院 工学研究科
学 位 : 博士 (数理科学)
所属学会 : 交通工学研究会、電気学会、日本オペレーションズ・リサーチ学会
E-mail : iwaoka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇“車両感知器整備減少を背景とした信号制御方式の評価”、第 11 回 ITS シンポジウム 2012 (2012)
◇“光ビーコンから収集されるアップリンクを活用した一括最適化制御の適用”, 交通工学論文集 (2016) ◇“路上機器減少を背景とした仮想的な車両感知器情報推計手法の検討”, 第 17 回 ITS シンポジウム 2019 (2019) ◇” Application of Deep Learning to Traffic Signal Control considering Accountability”, Proceedings of the 26th world congress on Intelligent Transport Systems (2019) ◇“交通信号制御のための Macroscopic Fundamental Diagram 指標値予測の検討”, 第 43 回交通工学研究発表会 (2023) ◇“金沢市内主要交差点における震災前後での交通量比較”, 電気学会 ITS 研究会 (2025) ◇“シングルグリッドネットワークにおける双方向グリッドロックに対する抑制制御の検討”, 交通工学論文集, 第 12 巻, 第 2 号 (特集号 A), pp. A_46-A_53 (2026)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
交通管理 (交通信号制御、交通情報提供等) へのデータサイエンス応用

(Atsushi Kasue)

特任教授

加須 栄 篤



担当科目 : 線形代数学 I・II、幾何学 他
出身学校 : 大阪大学大学院
学 位 : 理学博士
所属学会 : 日本数学会
E-mail : kasue@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Thomson's principle and a Rayleigh's monotonicity law on nonlinear networks, Potential Anal. 45 (2016), 655-701
◇Convergence of Dirichlet forms induced on boundaries of transient networks, Potential Anal. 47 (2017), 189-233
◇Resolutive ideal boundaries of nonlinear resistive networks, Positivity 24 (2020), 151-196
◇Positive solutions of the p-Laplacian with potential terms on weighted Riemannian manifolds with linear diameter growth, Rev. Mat. Iberoam. 39 (2023), 2233-2288.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

Compactifications of weighted Riemannian manifolds and infinite networks/
Convergence of Dirichlet forms in the sense of Mosco and Kuwae-Shoya

(Hiroaki Kuwano)

教授

桑野 裕 昭

経営情報学研究科(M・D)担当



最適化 I・II, 確率基礎, 確率と統計, データ科学実践演習 B, 演習 I・II, 経営科学特論, システム科学特論, 経営科学研究
出身学校 : 金沢大学大学院自然科学研究科
学 位 : 博士(工学)
所属学会 : 日本オペレーションズ・リサーチ学会 日本数学会 数理最適化学会
E-mail : kuwano@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Infinite-horizon deterministic dynamic programming with fuzzy set rewards, JOURNAL OF KANAZAWA GAKUIN UNIVERSITY, No. 24, 239-245, 2026
◇Infinite-Horizon Deterministic Dynamic Programming with Set Rewards, JOURNAL OF KANAZAWA GAKUIN UNIVERSITY, No. 23, 280-287, 2025
◇Scalarization Method for Some Kinds of Set or Fuzzy Set-Valued Optimization Problems, JOURNAL OF KANAZAWA GAKUIN UNIVERSITY, No. 22, 252-262, 2024

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①人間の曖昧な認識に基づく情報環境での意思決定 ②意思決定にかかわる諸問題のモデル化とその分析 ③プロジェクト・リスク・マネジメントの数理的解析

(Keiichi Sasaki)

教授 **佐々木 圭一**



担当科目 : 自然科学概論 I・II、自然地理学概説 I・II、地理情報システム、レポート・プレゼンテーション演習 他
出身学校 : 金沢大学
学 位 : 博士 (理学) [金沢大学]
所属学会 : 日本地質学会 日本第四紀学会 日本サンゴ礁学会 日本本古生物学会 他
E-mail : sasak1@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇炭素・酸素同位体組成に基づく地表露出面から復元する約 62~52 ka の海水準変動 (2013) 共著 地質学雑誌 v. 119, p. 155-170 ◇ $^{230}\text{Th}/^{234}\text{U}$ and ^{14}C dating of a lowstand coral reef beneath the insular shelf off Irabu Island, Ryukyus, southwestern Japan (2006) 共著 Island Arc v. 15, p. 455-467 ◇Interstadial coral reef terraces and relative sea-level changes during the marine isotope stages 3-4 at Kikai Island, central Ryukyus, Japan. (2004) 共著 Quat. Int., v. 120, p. 51-64

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①南西諸島喜界島における完新世・更新世サンゴ礁段丘の形成過程 ②琉球列島のサンゴ礁堆積物からみた後期更新世以降の海水準変動 ③能登半島に分布する造礁サンゴに関する研究

(Naofumi Takagi)

教授 **高木 直史**



代数学、電気・電子回路、デジタル回路、コンピュータの
担当科目 : 構成、コンピュータアーキテクチャ、組み込みシステム、コンピュータ工学実践演習 A、B、卒業研究 I・II
出身学校 : 京都大学、京都大学大学院
学 位 : 工学博士
所属学会 : 電子情報通信学会、情報処理学会、IEEE
E-mail : n-takagi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇‘Rapid Single-Flux-Quantum Logic Circuits Using Clockless Gates’, IEEE Trans. Applied Superconductivity, vol. 31, no. 4, #1302407, June 2021. DOI: 10.1109/TASC.2021.3068960 ◇‘Design and Demonstration of an 8-bit Bit-Serial RSFQ Microprocessor: CORE e4’, IEEE Trans. Applied Superconductivity, vol. 26, Issue 5, #1301205, Aug. 2016. DOI: 10.1109/TASC.2016.2565609 ◇‘An Energy-Efficient High-Performance Processor with Reconfigurable Data-Paths Using RSFQ Circuits,’ Physica C: Superconductivity and Its Applications, vol. 484, pp. 213-216, Jan. 2013. ◇‘Bipartite Modular Multiplication Method,’ IEEE Trans. Computers, vol. 57, no. 2, pp. 157-164, Feb. 2008. DOI: 10.1109/TC.2007.70793 ◇‘A Fast Algorithm for Multiplicative Inversion in $\text{GF}(2^m)$ Using Normal Basis,’ IEEE Trans. Computers, vol. 50, no. 5, pp. 394-398, May 2001. ◇‘Redundant CORDIC Methods with a Constant Scale Factor for Sine and Cosine Computation,’ IEEE Trans. Computers, vol. 40, no. 9, pp. 989-995, Sep. 1991. ◇‘High-Speed VLSI Multiplication Algorithm with a Redundant Binary Addition Tree,’ IEEE Trans. Computers, vol. C-34, no. 9, pp. 789-796, Sep. 1985.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

関数計算回路、ハードウェアアルゴリズム、超伝導デジタル回路設計および設計支援技術

(Mieko Tanaka)

特任教授 **田中 美栄子**



担当科目 : 微分積分学 I・II、線形代数学 I・II
出身学校 : University of Rochester, 名古屋大学大学院理学研究科,
京都大学理学部
学位 : Ph.D. in physics, 理学修士, 理学士
所属学会 : 日本物理学会
E-mail : mieko-t@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Principal Component Analysis and RMT-test for Big Data Analysis : Mieko Tanaka-Yamawaki (田中美栄子)、Yumihiko Ikura(井倉弓彦) : Springer(2023) ◇Digital Designs for Money, Markets and Social Dilemmas, volume 28 of Evolutionary Economics and Social Complexity Science 第14章「Possible relationship of the randomness and the stock performance」: Mieko Tanaka-Yamawaki, Yumihiko Ikura : Springer(2019) 有賀裕二 ◇価値創造と分散型市場設計 第19章「RMT テスト-ランダム行列理論に依拠した乱数度計測法の開発と応用」: 田中美栄子 : 中央大学企業研究所(2019) 有賀裕二 ◇医療, 医学薬学分野への SOM の応用 第19章「ランダム入力パスワード (RIP : Random Input Password)」: 田中美栄子, 田中侑希, 吉井勝俊 : 海文堂 (2017) 徳高平蔵, 他 ◇入門 経済物理学 暴落はなぜ起こるのか? (翻訳) 第9章「バブル, 暴落, アンチバブルの予測」: 田中美栄子, 森谷博之 : PHP 研究所 (2004) 森谷博之

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

RMT-test の手法を用いて大容量の高頻度価格時系列データの乱数度の時間推移を計測し, 市場暴落の予兆を検出する道具としての有効性を探る

(Fumio Teraoka)

教授 **寺岡 文男**



担当科目 : 情報通信ネットワーク I・II、情報セキュリティ、オペレーティングシステム
出身学校 : 慶應義塾大学大学院 工学研究科
学位 : 博士(工学)
所属学会 : ACM, IEEE, 電子情報通信学会, 情報処理学会
E-mail : teraoka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Kosuke Mori, Kanta Kuchii, Takao Kondo, and Fumio Teraoka, "A Network Management Method Using Network Ontology Bonsai and Network Information Sharing Framework KANVAS," IEICE Transactions on Communications, Vol. E109-B, No. 2, pp.107-126, 2026 (invited paper).
◇Rempei, Sawada, Haruto Takano, Kosuke Mori, and Fumio Teraoka, "MECM2M: An MEC Based M2M System Considering Mobile Nodes as Compute Services," In Proceedings of 2024 IEEE 48th Annual Computers, Software, and Applications Conference (COMPSAC), pp. 765-775, 2024.
◇Hiroki Watanabe, Ryo Yasumori, Takao Kondo, Ken Kumakura, Keisuke Maesako, Liang Zhang, Yusuke Inagaki, and Fumio Teraoka, "ContMEC: An Architecture of Multi-access Edge Computing for Offloading Container-Based Mobile Applications," In Proceedings of IEEE International Conference on Communications (ICC 2022), pp. 3647-8653, 2022.
◇Hiroki Watanabe, Tomonori Sato, Takao Kondo, and Fumio Teraoka, "AFC: A Mechanism for Distributed Data Processing in Edge/Fog Computing," In Proceedings of 2021 IEEE Global Communications Conference (GLOBECOM 2021), pp.1-7, 2021.
◇Fumio Teraoka, Yasuhiko Yokote, and Mario Tokoro, "A Network Architecture Providing Host Migration Transparency," In Proceedings of ACM SIGCOMM' 91, pp.209-220, 1991.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

インターネット, IoT, 低軌道衛星なども含めたインターネットにおける分散処理環境構築

(Syouji Fujimoto)

教授

藤本 祥二

経営情報学研究科(M)担当



統計、時系列分析、機械学習 I・II、データ科学実践演習
担当科目 : A、情報科教育法、基礎演習 I・II、演習 I・II、情報処理基礎演習
出身学校 : 金沢大学大学院 自然科学研究科
学 位 : 博士 (理学)
所属学会 : 日本物理学会、情報処理学会、人工知能学会
E-mail : fujimoto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇A Language Modeling Framework for Generating and Adapting Human Mobility Trajectories, *Journal of Social Physics* 1(1), (2026) ◇RoBERTa Trained from Scratch on GPS Trajectory Data, 2023 IEEE International Conference on Web Intelligence and Intelligent Agent Technology (WI-IAT), (2023) ◇Generation of individual daily trajectories by GPT-2, *Frontiers in Physics Sections Interdisciplinary Physics Volume 10* (2022)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

経済物理学、データサイエンス、機械学習、深層学習、人口動態、企業データ、地域経済指標、SNS データ、等のビッグデータを用いた分析

(Javaid Saher)

准教授

ジャヴィド サハル



プログラミング基礎、プログラミング II 及び演習、プログ
担当科目 : ラミングIVab、情報技術 I、基礎演習 I
B.C.S (Bachelor of Computer Science)
出身学校 : MSc-IT (Master of Science and Information Technology)
Ph.D. (Doctor of Philosophy)
学 位 : degree: 博士 (情報科学)
所属学会 : Affiliated Academic Societies : IEEE (Institute of
Electrical and Electronics Engineers)
E-mail : saher@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Saher Javaid, Mineo Kaneko, and Yasuo Tan, “Energy balancing of power system considering periodic behavioral pattern of renewable energy sources and demands,” *IEEE Access*, vol. 12, pp. 70245–70262, 2024. ◇Iacovos I. Ioannou, Saher Javaid, Christophoros Christophorou, Vasos Vassiliou, Andreas Pitsillides, and Yasuo Tan, “A distributed AI framework for nano-grid power management and control,” *IEEE Access*, vol. 12, p. 43350–43377, 2024. ◇Saher Javaid, Mineo Kaneko, and Yasuo Tan, “System condition for power balancing between fluctuating and controllable devices and optimizing storage sizes,” *MDPI Energies*, vol. 15, no. 3, Article 1055, 2022. ◇Saher Javaid, Takekazu Kato, and Takashi Matsuyama, “Power flow coloring system over a Nano-grid with fluctuating power sources and loads,” *IEEE Transactions on Industrial Informatics*, vol. 13, no. 6, p. 3174–3184, 2017. ◇Saher Javaid, Yuhei Kurose, Takekazu Kato, and Takashi Matsuyama, “Cooperative distributed control implementation of the power flow coloring over a Nano-grid with fluctuating power loads,” *IEEE Transactions on Smart Grid*, vol. 8, no. 1, p. 342–352, 2017. (DOI: 10.1109/TSG.2015.2509002)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

Current main research and production themes, etc.分散センシングと制御, スマートエネルギー配分, スマートホーム, スマートグリッド, ストレージ管理システム, IoT

(Hiromitsu Goto)

講師 **後藤 弘光**



微分積分学 I・II、物理 B(電磁気学)、データ分析、データ収集とクリーニング、
 担当科目 : 多変量解析、データ科学実践演習 A、ネットワーク科学と経済 I・II、演習 I・II
 出身学校 : 金沢大学
 学位 : 博士(理学)
 所属学会 : 日本物理学会、人工知能学会
 E-mail : goto@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇Shifting Supply Chain Interdependencies among Global Automakers, RIETI Discussion Paper Series 25-E-121 (2025) ◇対話型授業における児童・生徒の発話特徴とパーソナリティ特性の関係性, 人工知能学会研究会資料 言語・音声理解と対話処理研究会 103, 121-126, 2025年3月
 ◇Similarity and Connectivity of Industrial Networks of Japanese Prefecture Based on Firm-level Data, RIETI Discussion Paper Series 22-E-092 (2022) ◇Complex Global Interdependencies between Economic Policy Uncertainty and Geopolitical Risks Indices, RIETI Discussion Paper Series 22-E-028 (2022) ◇Macroscopic Structure of the Supply-Chain Network and the Growth of Firms in Japan, JPS Conf. Proc. 36, 011011 (2021) ◇Multilayer Network Analysis of the Drugs Development Cycle in the Global Pharmaceutical Industry, Appl Netw Sci 5, 87 (2020). ◇ネットワーク科学による学生間のつながり可視化 - 官民協働留学支援制度「トビタテ」によるコミュニティ形成-, 留学交流 2020年11月号 他

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

強靱な循環経済システム構築に向けたネットワーク科学的実証研究
 対話を活用した教育実践のネットワーク科学による定量評価手法の開発
 スポーツデータサイエンス研究

(TAO TAO)

講師 **陶 涛**



プログラミング II および演習、プログラミング III 及び演習、マルチメディア表現と
 担当科目 : 技術II、デジタル信号処理、基礎演習 I、演習 I、コンピュータ工学実践演習 A、人工知能入門
 出身学校 : 大阪大学
 学位 : 情報科学博士
 所属学会 : 日本バーチャルリアリティー学会
 E-mail : tao@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇TAO, Tao, et al. An interactive 4D vision augmentation of rapid motion. In: Proceedings of the 9th Augmented Human International Conference. 2018. p. 1-4. ◇TAO, Tao, et al. MomentViz: An Interactive 3D Vision Augmentation Framework For Rapid Motion. Transactions of the Virtual Reality Society of Japan, 2020, 25.2: 158-168. ◇TAO, Tao, et al. SmartVP: Viewpoint Optimization Based on Individual Preference for Watching 3D Boxing Punch Videos. In: Proceedings of the 2023 5th International Conference on Image, Video and Signal Processing. 2023. p. 101-110. ◇WU, Liangshun; TAO, Tao. MARTE-Based Modeling and Analysis for Real-Time Neuromorphic Computing in Embedded Systems. ICCK Journal of Software Engineering, 2025, 1.1: 9-16.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

Vestibular-Ocular Reflex by Galvanic Vestibular Stimulation for Non-distraction Omnidirectional Attention Guidance in VR (日本学術振興会 2026年度 若手研究)
 Semantic-Based Spatial Zoning for Readable and Navigable Procedural Knowledge Graphs

(Chia Zheng Lin)

助教 **チア ジェン リン**



担当科目 : 情報技術基礎 I・II、基礎演習 I・II、プログラミング II・III・IV

出身学校 : 北見工業大学

学 位 : 工学博士

所属学会 : 人工知能学会、ACL、AAAI

E-mail : chia@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ “Initial exploration into sarcasm and irony through machine translation”, Natural Language Processing Journal, Volume 9, December 2024, 100106. ◇ “Machine Learning and feature engineering-based study into sarcasm and irony classification with application to cyberbullying detection”, Information Processing & Management Journal, Volume 58, Issue 4, July 2021, 102600.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

Figurative Language Evaluation in Multilingual AI Systems

(BHATTARAI Krishna Prasad)

助教 **バタライ クリшна プラサド**



担当科目 : 情報システム、データベース I/II、コンピューター工学実践演習

出身学校 : 室蘭工業大学大学院

学 位 : 修士 (工学)

所属学会 :

E-mail : bhattarai@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇Improvements for Stabilizing the Collaborative e-Learning System on Unstable Environments.” Journal of International Scientific Publications: Educational Alternatives 21 (2023): 46-55. ◇Monitoring of e-learning system servers using the MariaDB galera cluster.” In 2019 International Conference on Networking and Network Applications (NaNA). ◇Authentic gate entry system (AuthGES) by using LBPH for smart home security.” In 2018 International Conference on Networking and Network Applications (NaNA). ◇Enhancement of Traditional Knowledge with Modern Mind: A Case Study of Aamako Janto an Echo Friendly Agro-device in IoOT (Internet of old Things).” In TMBER Conference, pp. 82-89. 2018.

(Takeshi Tomomizu)

助教 **友水 豪志**



担当科目 : 線形代数 I・II、微分積分学 I・II、プログラミング基礎、
プログラミング II (a/b)、プログラミング III (a/b)
出身学校 : 北陸先端科学技術大学院大学
学 位 : 博士(情報科学)
所属学会 : IEEE、計測自動制御学会、看護理工学会
E-mail : tomomizu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇ “Mechanical and optical evaluation of a vision-based tactile sensor inspired by human fingernail and bone structures”, Takeshi Tomomizu, Van Anh HO, Advanced Robotics 1-21 10 Mar 2026.
- ◇ “Enhancing Vision-Based Tactile Sensing through a Fingernail-Inspired Structure for Improved Contact and Texture Detection”, Takeshi Tomomizu, Van Anh HO, The 2026 IEEE/SICE International Symposium on System Integration, 14 Jan 2026.
- ◇ “Mechano Evaluation of a Vision-Based Tactile Sensor with Nail and Bone Structure”, Takeshi Tomomizu, Van Anh HO, 第30回ロボティクスシンポジウム.
- ◇ “TacBed-mini: Feasibility of Vision-Based Tactile Sensing Applied to Body-Pressure Monitoring”, Takeshi Tomomizu, Van Anh HO, 第13回看護理工学会学術集会.

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

Vision Based Tactile Sensor に関する研究

- ① バドミントン選手の動作解析システム開発

金沢学院大学 基礎教育機構

機構長 佐々木 圭一

教授	准教授	講師	助教
(上田 外史彦(文)) (佐々木 圭一(情)) 土農 力	小西 尚之 中村 晋也 中村 直行(特任) 松田 和也	板垣 真任 小川 慶太 (孫工 季也(教)) 水橋 雄介	

※ () は兼務先学部

〈五十音順〉

(Riki Shino)

教授 **士農 力**



担当科目 : 地誌 他

出身学校 : 金沢美術工芸大学

学 位 : 芸術学修士

公益社団法人日展会員 一般財団法人石川県美術文化協会

所属学会 : 理事 一般社団法人日本美術家連盟会員 京都日本画家協会
会員 青塔社会員

E-mail : riki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

日本美術展覧会(日展)審査員(2024) ◇「目黒川の桜」内閣総理大臣官邸の装飾用絵画(貸出)として選抜(2024) ◇鼎談「表現と文化」楊逸・小谷忠典・士農力(武蔵野大学文学部公開講座2022) ◇一般財団法人 都市防災研究所(伊藤滋会長)研修会で「絵になる東京」講演(日本外国特派員協会2022) ◇「令和の東京百景」シリーズ 黒紙白描スケッチ(2021) ◇「旅する日本画士農力作品集」(飛鳥新社2019) ◇「金沢を歩く」士農力スケッチ展(石川県立歴史博物館ギャラリー2016) ◇第1回石川県文化奨励賞(2016) ◇Saion des Beaux Arts 2014 (SNBA展パリ・ルーブル)審査員賞 ◇紺綬褒章(2013) ◇「中町力日本画展」NEW YORK Drawing & Painting -(永井画廊2013) ◇「こころの京都」百選展(京都府)に「あまのはしだて」出品(2013) ◇日展会員賞「THE BRONX」(2011) ◇金沢市文化活動賞受賞(2008) ◇日展に会員出品(2008～) ◇全関西美術展審査員(2008, 2005) ◇日本美術展覧会(日展)審査員(2007) ◇日展無鑑査・出品委嘱「闘牛場の見える街」他(2004～2006) ◇日展特選「Montparnasse」(2003) ◇日展特選「Lex.Avenue」(2000)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

写生取材及び日本画作品の制作と発表

(Naoyuki Konishi)

准教授 **小西 尚之**



担当科目 : 教育社会学、生徒・進路指導論、教育課程論、社会学Ⅰ・Ⅱ、英語Ⅰ・Ⅱ、学修基礎Ⅰab、生徒指導と教育相談

出身学校 : 慶應義塾大学文学部、大阪大学大学院人間科学研究科博士
後期課程(単位取得満期退学)

学 位 : 修士(教育学)

所属学会 : 日本教育社会学会、日本教育学会、日本学校教育学会

E-mail : n-konishi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇共著「第1章 高校生の進路・生活と集団編成:「教育的カテゴリー」への注目」、共著「第2章 調査研究の概要と基礎分析」、単著「第8章 系統の再編と生徒の進路選択」(中村高康・中村知世・小黒恵編著『高校生の進路・生活と「教育的カテゴリー」:ゆらぐ高校教育をとらえなおす』ミネルヴァ書房,2023年) ◇共著「第13講 東大生と教育格差を総括する」(松岡亮二・高橋史子・中村高康編著『東大生、教育格差を学ぶ』光文社新書,2023年) ◇単著「第15章 「現場」のために教師が社会調査を学ぶ」(中村高康・松岡亮二編著『現場で使える教育社会学:教職のための「教育格差」入門』ミネルヴァ書房,2021年) ◇単著「第7章 危機に立つ教師:学校組織のなかで」(腰越滋編著『子どもと教育と社会』学文社,2016年)

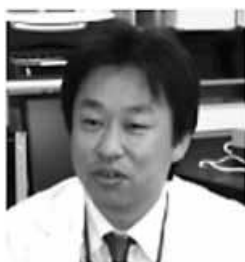
II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

総合学科高校における学習・生活・進路に関する総合的研究

高校教育における教育格差(学校間・学校内トラッキング、地域格差)

(Shinya Nakamura)

准教授 **中村 晋也**



保存科学概説Ⅰ・Ⅱ、文化財と自然科学、文化財の保護と
 担当科目 : 活用、考古学実習Ⅰ・Ⅱ、FSP 講座、キャリアデザインⅠ、
 キャリアプランニングⅠ・Ⅱ
 出身学校 : 奈良大学文学部文化財学科
 学 位 : 文学士
 所属学会 : 日本文化財科学会 文化財保存修復学会 (理事)
 E-mail : nakamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇「子浦小谷屋横穴古墳群・聖川寺山横穴古墳群(宝達志水町)出土耳環の自然科学的研究」(金沢学院大学紀要第18号:2020年) ◇「漆町遺跡金屋地区出土ガラス質物質片の自然科学的検討」(小松市内遺跡発掘調査報告書XVII 漆町遺跡金屋地区:2022年) ◇「大津祭曳山「郭巨山」の妻人形、童子人形の修理事例」(文化財保存修復学会第42回大会研究発表要旨集:2020年)
- ◇「文化財保存修復学会災害対策調査部会設立30年一部会設立の経緯と最新の活動内容報告」(文化財保存修復学会誌68号:2025年) ◇「2024年能登半島地震における文化財保存修復学会の復興支援活動報告」(文化財保存修復学会第47回大会研究発表要旨集:2025年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①文化財等資料の防災・減災に関する研究
- ②被災資料の一時保管、応急処置に関する研究
- ③X線を用いた材質・構造調査に関する研究

(Naoyuki Nakamura)

特任准教授

中村 直行

経営情報学研究科(M)担当



担当科目 : 倫理学、コンピュータ基礎演習Ⅰ・Ⅱ、コンピュータ活用
 演習Ⅰ・Ⅱ
 出身学校 : 金沢大学大学院
 学 位 : 博士(文学)
 所属学会 : 日本科学哲学会 応用哲学会 中部哲学会
 E-mail : nao-naka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇(単著・著作:2022)『表現の極端ニズムー反転する二重構造を生きるー』大学教育出版 ISBN: 978-4-86692-228-7 ◇(単著・著作:2015)『沈黙と無言の哲学ー〈語りえぬもの〉の語りなさを語るー』大学教育出版 ISBN: 978-4864293266 ◇(単著・博士論文:2006)「沈黙すべき〈語り得ぬもの〉とは何か?ー『論考』の峰と山脈を追いかけてー」金沢大学 博士論文 ◇(単著・論文:2025)「無分別」金沢学院大学紀要(第23号) pp. 212-225、査読有 ◇(単著・論文:2024)「直観主義論理 vs. 鈴木大拙・白隠禅師の「そうですか」」金沢学院大学紀要(第22号) pp. 263-74、査読有 ◇(単著・論文:2023)「形式化・公理化し、論理と集合から数学を再構築する時に最も根本となる概念」金沢学院大学紀要(第21号) pp. 255-268、査読有

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ①〈考えなくなる〉哲学へ至る② 無分別③ 離言真如④ 非売品の哲学
- ⑤「人工人間」vs.「自然人間」

(Kazuya Matsuda)

准教授 **松田 和也**



担当科目 : キャリア基礎、キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ、キャリアプランニングⅠ・Ⅱ、キャリアデザイン 他
出身学校 : 東北大学工学部機械系 破壊力学応用研究施設
学 位 : 学士
所属学会 :
E-mail : k-matsuda@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇スモールパンチ試験の有効性（破壊力学応用研究施設）◇就職ジャーナル編集長、リクナビ副編集長としてメディアの企画、編集（リクルート）◇関連会社法人の経営企画（リクルート）◇企業、経済団体、学校向け講演多数（リクルート）

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ① 『はたらく喜び』の発生メカニズムについての研究
- ② 学生時代の良質な機会と社会人時代の活躍の相関についての研究
- ③ 納得感が生まれやすい最適なキャリア教育の在り方についての研究

(Masato Itagaki)

講師 **板垣 真任**



担当科目 : 基礎英語Ⅰ・Ⅱ、英語プレゼンテーション初級Ⅰ・Ⅱ、英米文学概論Ⅱ、Japanese Culture through English
出身学校 : 成蹊大学大学院文学研究科英米文学専攻
学 位 : 修士（文学）
所属学会 : 日本英文学会、日本アメリカ文学会、日本メルヴィル学会
E-mail : itagaki@kanazawa-gu. ac. jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「声を書くということ—「ビリー・バッド」における草稿とビリーの吃音」下河辺美知子（監）、高瀬祐子、日比野啓、舌津智之、巽孝之（編著）『アメリカン・マインドの音声—文学・外傷・身体』小鳥遊書房、2019年、209-234頁。◇「響きのテクスト—*The Scarlet Letter*のディムズデイル論」*artés liberales*. 第32号、日本工業大学共通教育学群、2022年、12-20頁。◇「声と暴力、そして個人—“Billy Budd, Sailor”における言語障害」『成蹊大学人文研究』第25号、成蹊大学、2017年、1-20頁。

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

- ・ハーマン・メルヴィル作品における“acceptance”的テーマの発展的検討
- ・17-19世紀アメリカ文学・文化における発声・言い損ない・吃音・講演・聴衆・聞き取りの表象の研究
- ・アメリカ文学全般に表れる裁判場面、その他司法的表象の研究
- ・南北戦争期における記録 / 記憶の文学的研究的検討

(Keita Ogawa)

講師 **小川 慶太**



担当科目 : 英語 I・II、総合英語、英語コミュニケーション I・II、
English Discussion I・II
出身学校 : 早稲田大学
学 位 : 法学士
所属学会 :
E-mail : k-ogawa@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇1. Confessions of a Bilingual I (平成 19 年)・II (平成 21 年)・III (平成 23 年) 国際医療福祉大学 The Crescent ◇金沢長町武家屋敷散策マップ英語版 (平成 27 年) ◇航空英語パワーポイント教材作成 (平成 28 年～令和 5 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

英語を学びつつコミュニケーション力を身につける教材および授業内アクティビティ

(Yusuke Mizuhashi)

講師 **水橋 雄介**



担当科目 : 哲学と倫理、教育原論、教育原理、道徳教育論、フラン
ス語 I・II 他
出身学校 : 大阪大学
学 位 : 博士 (人間科学)
所属学会 : 西田哲学会、実存思想協会
E-mail : mizuhashi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「猫と歴史的世界 あるいはストレンジャーのポイエシス——アンリ・マルティネから西田幾多郎を読み直す——」、金沢学院大学紀要 (第 20 号)、2022 年 3 月
◇「感覚する現在 西田幾多郎『自覚における直観と反省』におけるヘルマン・コーヘン受容をめぐって」、西田哲学会年報 (第 15 号)、pp.126-141、2018 年 7 月 ◇「述語とパースペクティブ——西田幾多郎『意識の問題』でのパースペクティブと衝動」、大阪大学人間科学研究科共生学ジャーナル (第 2 号)、pp.58-81、2018 年 3 月

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

明治以降の日本の哲学、特に西田幾多郎の哲学の研究

金沢学院短期大学

- 現代教養学科
- 食物栄養学科
- 幼児教育学科

金沢学院短期大学

学長 高他 毅

	教授	准教授	講師	助教
現代教養学科	○笹谷 聰史 佐道 正春(特任) 村上 智	児島新太郎 宮嶋 恒二		橋高 朱里
食物栄養学科	○安藤 秀子 高他 毅 由良 亮		佐藤香菜子 平山 雄大	大道 文香 京極 奈美
幼児教育学科	鈴木 賢男 ○砂山真喜子 寺田 達也	高木香代子(特任) 高村 真希	白江 寿美 棒田 美江(特任)	

○：学科長

(五十音順)

(Satoshi Sasatani)

教授 **笹谷 聰史**



簿記入門、簿記応用、簿記実践、コンピュータ会計Ⅰ・Ⅱ
担当科目 : ファイナンシャルプランニング基礎・応用、キャリアプランニング
出身学校 : 上越教育大学大学院
学 位 : 教育学修士
所属学会 : 日本商業教育学会
E-mail : sasatani@kanazawa-gu. ac. jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

◇高等学校における情報教育的な視点を取り入れた「総合的な学習の時間」の展開(日本教育実践学会)2001.12◇進路指導におけるプレゼンテーション教育の効果－高校生の進路選択に対する自己効力を発表活動の中で高める試み－(日本教育工学会研究会)2002.9◇進路指導における情報教育的な授業実践－高校生の進路選択への自己効力を発表活動の中で高める試み－(日本教育工学会第18回全国大会)2002.12◇キャリア教育におけるプレゼンテーション教育の有効性－高校生への情報教育的授業実践進路選択に対する自己効力を高める試み－(第24回北陸三県教育工学研究大会)2003.2

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
実社会に結び付く、ビジネス教育の在り方

(Masaharu Samichi)

特任教授 **佐道 正春**



プログラミング実務、情報処理Ⅰ・Ⅱ、ビジネスソフト発
担当科目 : 展Ⅰ・Ⅱ、学修ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ、キャリアプランニング 他
出身学校 : 駒澤大学
学 位 : 学士
所属学会 : 日本商業教育学会
E-mail : samichi@kanazawa-gu. ac. jp

Ⅰ. 主な研究業績・作品等

◇「商業の見方・考え方」を働かせる学習活動
◇高校における探究活動プロジェクト
◇高等学校における「地域学」

Ⅱ. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他
ビジネス分野におけるICTの活用
商業教育における高大連携
時代を見据えたビジネス教育

(Satoshi Murakami)

教授 **村上 智**



観光概論、国内旅行業実務、国内/海外観光地理、観光と
担当科目 : 経済、国際旅行実務、ホスピタリティ演習、ホテル概論、
ブライダル概論、人的資源管理 他
出身学校 : 新潟大学
学 位 : 法学士
所属学会 : 日本観光学会 観光学術学会 コンテンツツーリズム学
会
E-mail : s-murakami@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇石川県海外誘客チャレンジ事業採択(2018、2019)◇学会発表「事実と物語から成る義経伝説を巡るツーリズム」(2022、第10回コンテンツツーリズム学会論文発表大会)◇研究ノート『コンテンツ「義経北行伝説」のツーリズムへの可能性に関する考察』(2024、金沢学院短期大学紀要第22号)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

コンテンツツーリズム研究 (テーマ: 鉄道駅)

(Hideko Ando)

教授 **安藤 秀子**



給食管理論、給食管理実習 I・II、栄養士総合演習、栄養
担当科目 : 士基礎演習 I・II、献立作成演習、校外実習(給食の運営
I・II)、校外実習事前・事後指導、キャリアデザイン
出身学校 : 名古屋文理短期大学、青山学院大学大学院
学 位 : 修士(経営学)
所属学会 : 日本給食経営管理学会
E-mail : andou@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇特定給食施設におけるメタボリックシンドローム対策 保健の科学 杏林書院 50巻・5月号、pp331-335、2008年 杏林書院◇勤労者におけるメタボリックシンドローム対策のための教育プログラムの検討 第55回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集、pp267、2008年◇給食施設における社会貢献活動-TFTメニューの導入の評価- 第56回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集、pp303、2009年◇受託給食施設(学校給食)におけるアレルギー食対応の取り組みについて 第61回日本栄養改善学会学術総会講演要旨集、pp294、2014年◇下流フードサービスSCMのSDGs食品ロス削減方策(共著)、日本IE協会316号◇給食サービスの下流サプライチェーンマネジメントに対する生産管理技法を適用した食品ロス低減方策 青山学院大学大学院経営学研究科修士論文、2020年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

給食サービスの下流サプライチェーンマネジメントに対する生産管理技法を適用した食品ロス低減に関する研究、余剰食材を活用した多品目食品レシピ企画・製造に対応した生産管理システムの設計と実証研究、フードサービス業界で求められる管理栄養士の資質調査

(Makoto Yura)

教授 **由良 亮**



担当科目 : 食品学総論、食品学各論、食品学実験、食品衛生学、食品衛生学実験、ベーシック栄養学 I・II
出身学校 : 新潟大学大学院自然科学研究科博士後期課程生物圏科学専攻 (中途退学)
学 位 : 修士 (農学)
所属学会 : 日本農芸化学会、日本食品科学工学会、日本水産学会、日本調理科学会、日本食品衛生学会、日本栄養学教育学会
E-mail : yura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇東濃地域の保育施設における業務改善の現状と課題-令和5年の保育者調査から-, 中京学院大学紀要 第4-1号, pp. 101-113 (共著) ◇双方向授業における学生意見のリアルタイムテキストマイニングによる集約方法の検討: 私学情報教育協会 2022年度教育イノベーション大会資料, pp. 262 ◇包丁操作の運動解析~初学者と習熟者の特徴~, バイオメカニズム学会誌 Vol. 44 (4) 2020, pp. 229-235 (共著) ◇包丁操作時の学習者と熟練者の包丁運動データの比較, 食生活研究 Vol. 39(6) 2019, pp. 42-61 (共著) ◇三訂マスター食品学 I・II (建帛社, 共著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

肉体に依存しない生活によるQOL向上のための技術開発
食品化学, 感性情報学, 食品成分・食品構造・食感, 道具操作, IoT

(Masao Suzuki)

教授 **鈴木 賢男** 人文学研究科担当



担当科目 : 地域と子ども I・II、教育心理学、情報処理 I・II
出身学校 : 文教大学人間科学部 金沢大学大学院教育学研究科
学 位 : 教育学修士
所属学会 : 日本教育心理学会 日本心理学会 日本発達心理学会
日本イメージ心理学会 日本感情心理学会
E-mail : m-suzuki@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇大学生の学習観についての特徴 一質的研究におけるトライアングレーションの試み一, 文教大学言語と文化研究所紀要, 第30号, pp. 131-160, 2018 (共著) ◇初年度大学生における主体性の評定と学期終了時の学習評価との関連 一主体性を特徴づける学業生活における意識一, 文教大学人間科学研究, 第39号, pp. 173-184, 2018 (共著) ◇幅広い異年齢集団の遊びにおける幼児・児童の主体性と協同性の在り方 一2018年「こどもかれっじ」サマースクールを対象とした実践一, 金沢学院短期大学紀要, 第17号, pp. 87-106, 2019 ◇学業不振学生の模写課題における認知処理過程のあり方一保育士養成校における学生の基本となる能力の評価と指導に用い得る指標の開発に向けて一金沢学院短期大学紀要, 第20号, pp. 39-50, 2022 ◇成績評価と学生の自己評価によるカリキュラムマップの整合性の検討一評価指標を構成している科目によって合成された得点に果たして信頼性はあるのか一, 第21号, pp. 37-52, 2023 ◇日本語版 CADRI の因子構造, 信頼性, 妥当性の検討, 思春期学, VOL. 42 NO. 3, pp. 416-426, 2024 (共著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

①幼児から大学生および社会人における遊びや学びのあり方と日常生活への効果や影響 (主として、学習を中心とした諸活動における主体性の心理学的意味の考察、および尺度の作成と評価)
②組合せ図形の模写の正確性と学業成績の関連性
③学習成果の指標を教育改善に活かす試みについて

(Makiko Sunayama)

教授 **砂山 真喜子**



社会福祉、子ども家庭福祉、社会的養護 I・II、子ども家
 担当科目 : 庭支援論、保育の心理学、子ども家庭支援の心理学、特別
 支援教育論 I・II、卒業研究 他
 出身学校 : 日本社会事業大学、東京福祉大学大学院
 学 位 : 修士 (児童学)
 所属学会 : 日本子ども虐待防止学会
 E-mail : sunayama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「社会的養護（児童養護施設）における人材育成に係る要件に関する研究」資生堂社会福祉事業財団, 2016 - 3 ◇「子ども・子育て支援における市町村の役割と多機関協働に関する一考察：A町における実践を通して」金沢星稜大学人間科学研究 9(2), 13-18, 2016 - 3 ◇『地域子ども家庭支援の新たなかたち - 児童家庭支援センターが、繋ぎ、紡ぎ、創る地域養育システム』共著 (第 3 章 - 1), 生活書院, 2020 ◇『社会的養育ソーシャルワークの道標』共著 (第 3 章), 生活書院, 2021 ◇「保育者の資質向上に向けてのサポートのあり方-保護者支援における保育者の困りに着目して-」, 東京福祉大学大学院, 2024 ◇『特別支援教育と障害児の保育・福祉-切れ目や隙間のない支援と配慮-』共著 (第 6 章), ミネルヴァ書房, 2025 ◇『障害児保育 - インクルーシブ保育の考え方と実践 - 』共著 (第 12 章), 福村出版, 2026

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育者の資質向上に向けてのサポートのありかた、保育者の子育て支援・保護者支援、こどもの権利、こども家庭ソーシャルワーク、インクルーシブ保育

(Tatsuya Terada)

教授 **寺田 達也** 人文学研究科担当



日本語 I・II、領域言葉、保育内容演習 言葉 I、地域
 担当科目 : と子ども I・II、文章表現、近・現代文学講読A、近・現代文学演習A、プレ卒業研究演習、卒業研究 他
 出身学校 : 東京大学
 学 位 : 修士 (文学)
 所属学会 : 日本近代文学会、日本文学協会、東大国語国文学会
 E-mail : terada@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「二葉亭四迷『其面影』注釈(一)」(『金沢学院短期大学紀要』第 23 号、令和 7 年 3 月) ◇「楽器音のオノマトペ表現の多様性—視覚によるイメージと表現の変化について—」(『金沢学院短期大学紀要』第 20 号、令和 4 年 3 月) ◇「絵本における「語り」の分析—児童文化財への「語り」論の応用—」(『金沢学院短期大学紀要』第 18 号、令和 2 年 3 月) ◇「犬ころポチ」物語の読み聞かせ教材化—児童文化財としての二葉亭四迷「平凡」—」(『金沢学院大学教育研究所紀要』(電子版) 第 1 号、平成 29 年 3 月) ◇「二葉亭四迷『小説総論』と没理想論—想実論を軸として—」(『金沢学院大学紀要 文学・美術編』第 15 号、平成 29 年 3 月) ◇『恋する文学〜ほくりく散歩』(共著、北國新聞社、平成 26 年 2 月) ◇『北陸 近代文学の舞台を旅して』(共著、北國新聞社、平成 24 年 2 月)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

日本近代文学、二葉亭四迷研究、金沢や北陸の文学、幼児教育 (ことば) 他

(Shintaro Kojima)

准教授 **児島 新太郎**



担当科目 : 芸術基礎演習 (絵画・工芸)、芸術応用演習 I・II、学修ゼミ I・II・III
出身学校 : 金沢美術工芸大学大学院美術工芸研究科絵画専攻
学位 : 修士 (芸術)
所属学会 : 一般社団法人光風会
E-mail : s-kojima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

- ◇2012年 第44回日展 特選受賞
- ◇2013年 都美セレクション 新鋭美術家2013選抜(東京都美術館)
- ◇2014年 改組新第1回日展 特選受賞
- ◇2015年 第101回光風会展 文部科学大臣賞
- ◇2018年 平成30年度 石川県文化奨励賞

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

絵画制作を通じ、概念を描出する形象表現を研究、絵画の今日的な新しい表現の可能性を追求

(Koji Miyajima)

准教授 **宮嶋 恒二** 人文学研究科担当



担当科目 : 秘書総論 I・II、ビジネスマナー、ビジネス実務、ビジネス
ス文書、日本語、キャリアデザイン、学修ゼミ I・II・III、
就業体験 (インターンシップ等)
出身学校 : 京都産業大学 法学部
学位 : 博士 (政策科学)
所属学会 : 大学行政管理学会、日本高等教育学会、大学教育学会、非
営利組織研究学会、日本ビジネス実務学会、日本アカデ
ミック・アドバイジング協会
E-mail : miyajima@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ (共著)

『地方小規模私立大学の挑戦—地域社会と協働する教育—』風間書房、2025年3月 ◇
共著『これからの大学経営』晃洋書房 2018年2月 ◇ (共著)『大学の戦略的経営手法』大学
教育出版 2016年4月 ◇ (共著)『非営利法人経営論』大学教育出版 2014年10月
論文◇ (共著)「中津川市における子どもの体力傾向の実態分析から見る ACP を活用した体力・
運動能力向上の効果的取り組みに関する考察—7年間のスポーツテスト結果の全国比較から—」
『中京学院大学紀要』第5巻第1号 pp.29-42、2026年3月◇ (共著)「中途退学の防止について
の一考察」『高知大学教育研究論集』第20巻 pp.49-60、2016年3月◇ (単著)「私立大学にお
けるガバナンスの有効性に関する実証研究」『同志社政策科学研究』第17巻第2号 pp.83-97、
2016年3月 (研究ノート)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

◇「アクティチャイルドプログラムを活用した教育プログラムの構築・実践と効果測定の研究」
学術研究助成基金助成金 基盤研究 (C) (課題番号 24K06223 ◇「中小企業における大学新卒
者のキャリア経営管理と大学教育のレリバンス」◇「日本の私立短期大学における競争優位性の
要因の実証分析」

(Kayoko Takagi)

特任准教授

高木 香代子



担当科目 : 幼児体育、保育内容演習 健康 I・II、領域健康、スポーツ実技VI (ダンス)、保育・教職実践演習 (幼稚園) 他
出身学校 : 金沢大学大学院
学 位 : 教育学修士
所属学会 : 日本体育・スポーツ・健康学会
E-mail : k-takagi@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇「幼児用リズムダンスの実践に関する研究—年少児を対象として—」金沢学院大学紀要、第 16 号、2018 (共著) ◇「子どもの運動遊びに関する研究—2018 年度「こどもかれっじ」を対象として—」金沢学院短期大学紀要、第 18 号、2020 (共著) ◇「幼児の自由遊びにおける基本動作の数と種類の定期的な活動での変化—遊び相手との関わりによって引き出される動作の様式の相違—」金沢学院短期大学紀要、第 19 号、2021 (共著) ◇「実習におけるダンスと使用曲に関する研究—コロナ禍で保育者を目指す学生への調査から—」金沢学院短期大学紀要、第 20 号、2022 ◇「保育者養成学生の運動器の状態に関する予備的研究—ロコモ度テストを用いて—」金沢学院短期大学紀要、第 22 号、2024 ◇「子どもとの土粘土遊びを通じた保育者養成学生の学びに関する事例研究」金沢学院短期大学紀要、第 23 号、2025 (共著)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ダンス及び表現運動に関する研究 子どもの運動遊びに関する研究

(Maki Takamura)

准教授

高村 真希



保育者論、保育・教育課程論、乳児保育 I・II、保育内容
担当科目 : 演習 言葉 II、保育実習指導 I・II、教育実習指導、地域と子ども I・II、保育・教職実践演習 (幼稚園) 他
出身学校 : 岐阜女子大学大学院
学 位 : 文学・教育学修士
所属学会 : 日本保育学会、日本保育者養成教育学会、日本乳幼児教育学会、日本教育情報学会、日本幼児体育学会
E-mail : m-takamura@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇『新・保育内容「環境」ラーニング・ストーリーで綴る 学びの記録』「9章 園内で行われる乳幼児の遊びや活動における環境 1節 1日の流れに即した環境構成とは、2節 遊びや活動における環境の活動とは」教育情報出版 (編著 永渕 泰一郎) 2023 ◇『改訂新版 マンガとアクティブ・ラーニングで学ぶ保育内容総論』「第8回目 養護及び教育が一体的に展開する保育」教育情報出版 (編著 開 仁志) 2024 ◇『新しい保育原理』「第2章 保育の基本」ミネルヴァ書房 (編著 熊田 凡子) 2024 ◇『? (ハテナ) から考える乳児保育 I・II』「第10章 2歳児クラスの保育を考えよう—2歳から3歳の子どもの遊びの援助と環境構成」教育情報出版 (編著 入江 慶太) 2026 ◇「言語獲得期におけるオノマトペに関する研究—身体性と相互コミュニケーションを中心に—」中部学院大学・中部学院大学短期大学 教職課程研究第2号 (共著) 2023 ◇「教育・保育者養成の授業における教員の学びに関する研究—金森俊朗の教育活動及び教育思想からの考察—」北陸学院大学北陸学院大学短期大学部研究紀要第16号 (共著) 2024

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育者を目指す学生と保育者、養成校が繋がり高め合える実習の在り方

(Kanako Sato)

講師 **佐藤 香菜子**



担当科目 : 調理学、調理学実習Ⅱ・Ⅲ、食生活論、健康管理概論、献立作成演習、栄養士基礎演習Ⅰ・Ⅱ
出身学校 : 日本福祉大学大学院
学 位 : 修士(医療・福祉マネジメント)
所属学会 : 日本栄養士会、日本栄養改善学会、日本健康教育学会、日本公衆衛生学会
E-mail : k-sato@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

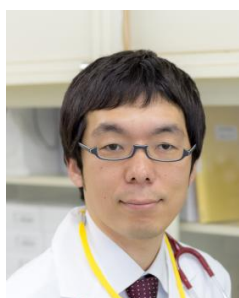
◇東日本大震災の被災地を元気づけたアウトリーチ型料理教室の効用，地域ケアリング，2020◇Motivation for and Effect of Cooking Class Participation : A Cross-Sectional Study Following the 2011 Great East Japan Earthquake and Tsunami, Int J Environ Res Public Health17(21), 2020◇岐阜県東濃地域の若年者を対象とした野菜摂取量増加を目的とした取り組み，中京学院大学紀要，2022年◇地域在住高齢者を対象とした栄養教育プログラム実施とその評価，中京学院大学紀要，2025年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

・高齢者の栄養改善・食支援についての研究・被災地での食を手段とした支援の評価と展開

(Yudai Hirayama)

講師 **平山 雄大**



担当科目 : 臨床栄養学実習、応用栄養学実習、栄養士総合演習、校外実習(給食の運営Ⅰ・Ⅱ)、校外実習事前・事後指導、情報処理基礎Ⅰ・Ⅱ、キャリアプランニング
出身学校 : 名古屋学芸大学大学院
学 位 : 修士(栄養科学)
所属学会 : 日本健康・栄養システム学会、日本栄養士会、石川県栄養士会
E-mail : hirayama@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇2017年1月末まで、社会医療法人慈泉会相澤病院栄養科栄養管理部門にて勤務。栄養サポートチーム専従者を担当。また同病院の褥瘡対策委員会に所属。◇「食形態マップ」による他職種・他施設との情報共有の有効性と今後の課題について(2023)◇成績評価と学生の自己評価によるカリキュラムマップの整合性の検討-評価指標を構成している科目によって合成された得点に果たして信頼性はあるのか-(2023)◇栄養科学シリーズNEXT 臨床栄養学実習第3版(一部執筆)(2023)◇第25回日本健康・栄養システム学会研究大会 特別講演「災害時の栄養サポート、そのシステム作り」(2025)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

「食べる力」に関する研究、臨床栄養師(日本健康・栄養システム学会認定)、石川県七尾市「食力の会」所属、日本栄養士会災害支援チーム(JDA-DATリーダー)

(Hisami Shirae)

講師

白江 寿美



保育内容演習 環境 I・II、保育内容演習 言葉 I・II、
保育内容演習 表現 I・II、保育内容演習 人間関係 I・
担当科目 : II、領域環境、領域表現、教材研究 I・II、教育実習指導、
保育実習指導 I・II、保育・教職実践演習、地域と子ども
I・II、卒業研究
出身学校 : 金沢学院大学大学院
学 位 : 修士 (スポーツ健康学)
所属学会 : 日本保育学会、日本健康行動科学会
E-mail : shirae@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 幼児の運動遊びが床振動時の立位姿勢制御適応能に及ぼす影響, 金沢学院大学大学院スポーツ健康学研究科修士論文 (単著) 2026 ◇ 子どもと土粘土遊びを通じた保育者養成学生の学びに関する事例研究, 金沢学院短期大学紀要第 23 号 (共著) 2025 ◇ 幼児から小学生までの幅広い異年齢の子どもたちによる土粘土を用いた造形活動の事例研究, 金沢学院短期大学紀要第 22 号 (共著) 2024 ◇ 身近な自然環境を取り入れた表現活動ー4 歳児の活動ー, 金沢学院短期大学紀要第 18 号 (単著) 2020 ◇ 竹の生長を教材として展開した実践事例から読み解く子どもの姿ー5 歳児の活動ー, 金沢学院短期大学紀要第 17 号 (共著) 2019

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

保育の内容方法・異年齢の交わり・乳幼児の発達・保育者養成

(Yoshie Bouda)

特任講師

棒田 美江



担当科目 : 音楽 I・II・III、保育内容演習 表現 I・II、教育実習
I・II、教育実習指導
出身学校 : 仁愛女子短期大学
学 位 : 短期大学士
所属学会 : 日本ピアノ教育連盟 日本音楽教育学会
E-mail : y-bouda@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇ 全日本ピアノコンクール全国大会一般プロ部門 5 位 (2023 年)、6 位 (2022 年) ◇ ジョイントリサイタル 2024 年 ◇ 青少年育成プロジェクトコンサート 2024 年 ◇ ピアノリサイタル 1990 年、1992 年、2000 年 ◇ 親子で楽しむ名曲コンサート 2000 年～2020 年 ◇ バッハブランデンブルグコンツェルト第 5 番 チェンバロソロ 2019 年 (共演: 金沢モダンコンソート)、2012 年、2013 年 (共演: 金沢室内管弦楽団) ◇ 親子で楽しむ名曲コンサート 2000 年～2020 年 ◇ ラ・フォル・ジュルネ金沢 ◇ いしかわ・金沢風と緑の楽都音楽祭 ◇ ジュール・ド・ショパン ◇ モーツァルトピアノコンツェルト第 20 番ピアノ独奏 1997 年 (共演: 金沢室内管弦楽団) ◇ 『楽器音のオノマトペ表現の多様性』 (共著) 金沢学院短期大学紀要第 20 号 2022 年 ◇ 『創造的音楽活動におけるイメージの深まりと表現についての一考察』 (単著) 金沢学院短期大学紀要第 19 号 2021 年 ◇ 『保育者養成課程における弾き歌い指導法の研究』 (単著) 金沢学院短期大学紀要第 18 号 2000 年

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

ピアノ演奏表現 幼児期の音楽表現活動

(Akari Hashitaka)

助教 **橋高 朱里**



健康スポーツ I・II、学修ゼミ I・II・III、キャリアデザ
担当科目 : イン、キャリアプランニング、FSP 講座、スポーツトレ
ーナー演習
出身学校 : 金沢学院大学大学院
学 位 : スポーツ健康学 (修士)
所属学会 : 日本武道学会、日本体育・スポーツ・健康学会、北陸
スポーツ・体育学会
E-mail : hasitaka@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇スポーツ専攻学生におけるサプリメントに関する意識調査, 金沢学院短期大学紀要◇日本エリート柔道選手の減量に関する後ろ向き調査研究, 講道館柔道科学研究会紀要◇北信越学生柔道連盟研修団ミャンマー派遣報告, 近代柔道 4 月号◇スポーツ専攻学生における講習会前後のサプリメント使用とドーピングへの意識変化, 月刊武道 2 月号◇未来へつなぐ女子柔道ハンドブック(石川県版)

◇資格

- ・中学校教諭専修免許 (保健体育)
- ・高等学校教諭専修免許 (保健体育)
- ・公益財団法人全日本柔道連盟公認 A ライセンス審判員
- ・公益財団法人全日本柔道連盟公認柔道指導者 B 指導員
- ・公益財団法人日本体育協会公認スポーツ指導者
- ・日本傳講道館柔道五段

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

スポーツ専攻学生におけるサプリメント使用状況
ジュニア期におけるコーチング等

(Ayaka Omichi)

助教 **大道 文香**



栄養指導論 I・II、栄養指導論実習、学校栄養教育論、栄
養教育実習、教職実践演習(栄養教諭)、教育実習指導(事
担当科目 : 前・事後指導)、子どもの食と栄養、健康管理概論、道徳
教育・特別活動及び総合的な学習の研究
出身学校 : 金沢学院大学大学院
学 位 : 修士(スポーツ健康学)
所属学会 : 日本栄養改善学会、日本食育学会、日本栄養士会
E-mail : a-nakamu@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇大学スポーツ選手の食行動変容ステージに影響を及ぼす要因と食生活の実態(日本食育学会誌第 12 巻第 2 号)◇スポーツ選手に対する強化子や嫌子となる身体に関わる発言(金沢学院短期大学紀要: 学葉(14))◇増量と減量を希望する大学生スポーツ選手の食生活に関する心理的要因の違い(金沢学院大学教育研究所紀要第 1 号)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他

子どもの食に関わる支援の在り方、若年層における食べる力、他

(Nami Kyogoku)

助教

京極 奈美



調理学、調理学実習 I (実験含む)、応用調理学実習、献
担当科目 : 立作成演習、栄養士基礎演習 I・II、校外実習 (給食の運
営 I・II)、校外実習事前・事後指導
出身学校 : 東京家政大学大学院
学 位 : 修士 (家政学)
所属学会 : 日本調理科学会、日本家政学会、日本食生活学会、日
本栄養改善学会、日本栄養士会
E-mail : kyogoku@kanazawa-gu.ac.jp

I. 主な研究業績・作品等

◇新・調理の科学 (分担執筆), 学文社 (2025) ◇市販塩麴添加による食パンの品質に及ぼす影響 (共著), 日本家政学会誌 Vol.76 (2025 年) ◇Antioxidant Capacity of Tempura Deep-Fried Products Prepared Using Barley, Buckwheat, and Job's Tears Flours (共著) Foods, MDPI, 1246 (2020 年) ◇雑穀粉の天ぷら衣への利用適性-品質及び嗜好性からの検討- (共著), 日本調理科学会誌 Vol. 52 (2019 年)

II. 現在の主な研究・制作テーマ等、その他 発酵食品、食文化の意識に関する研究

大学院担当教員

	教授	准教授	講師	助教
人文学研究科	秋山 稔 石崎 建治 上田外史彦 佐田東 彰 薮 際子 ○水洞 幸夫 末松 智 鈴木 賢男 寺田 達也 寺田 智美 中崎 崇志 本多 俊彦 前川 浩子	黒崎 周一 佐々木 聡 戸根比呂子 中妻 結 宮嶋 恒二 松村祐香里 向井 理恵 室橋 弘人	齋藤慎一郎 須崎 暁世 森 裕子	
経営情報学研究科	飯田 栄治 *M 石川 温 *M*D 大野 尚弘 *M*D 奥井めぐみ *M*D 小田圭一郎 *M*D 桑野 裕昭 *M*D 千葉 俊徳 *M*D 豊田 欣吾 *M*D 根本 博 *M*D 長谷川秀司 *M 濱屋 敏 *M ○藤井 秀樹 *M*D 藤本 祥二 *M 渡邊 誠士 *M*D	上野 学 *M 児島 記代 *M 中村 直行 *M		
スポーツ健康学研究科	清田 岳臣 清田 直恵 福井 卓也 ○藤原 勝夫 丸山 章子 渡辺 直勇 渡辺 涼子	菊政 俊平 藤本 索子		

○：研究科長

(五十音順)

*M：博士前期課程担当教員

*D：博士後期課程担当教員

専任教員索引 (五十音順)

◆所属学部 文学部：文学 教育学部：教育 経済学部：経済 芸術学部：芸術 スポーツ科学部：スポ

栄養学部：栄養 情報工学：情報工 基礎教育機構：基礎 短期大学：短大

氏名	所属学部	頁	氏名	所属学部	頁	氏名	所属学部	頁	氏名	所属学部	頁
秋山 稔	文学	1	後藤 弘光	情報工学	75	中村 英里子	スポ	56	室橋 弘人	文学	15
荒川 昭広	芸術	41	小西 尚之	基礎	79	中村 晋也	基礎	80	森 舞	教育	26
荒川 和世	栄養	67	小林 勝義	栄養	63	中村 直行	基礎	80	森 裕子	文学	17
安藤 秀子	短大	86	紺谷 遼太郎	教育	27	七尾 由美子	栄養	65	柳橋 広司	芸術	45
飯田 栄治	芸術	41	佐田 彰	教育	19	西田 郁	栄養	68	山内 隆之	教育	22
石川 温	情報工学	70	齋藤 慎一郎	文学	15	仁八 潔	教育	21	山口 由美子	教育	27
石崎 建治	文学	7	酒井 真由子	教育	20	根本 博	経済	32	山本 武	栄養	66
板垣 真任	基礎	81	佐々木 圭一	情報工学	72	橋高 朱里	短大	93	由良 亮	短大	87
市島 桜魚	芸術	42	佐々木 聡	文学	12	長谷川 秀司	経済	32	餘久保 優子	芸術	45
一色 貴史	スポ	55	笹谷 聰史	短大	85	長谷川 拓彌	経済	35	吉田 一誠	芸術	47
稲川 尚汰	スポ	56	佐藤 香菜子	短大	91	秦 さやか	教育	25	吉田 唯莉	スポ	60
岩岡 浩一郎	情報工学	70	佐藤 ひろ子	栄養	64	パタライ クリスナ プラサド	情報工学	76	米澤 順一	経済	39
上田 外史彦	文学	7	佐道 正春	短大	85	羽鳥 好之	文学	9	渡邊 琢夫	栄養	67
上野 学	経済	38	蒔 際子	文学	8	羽場 文彦	芸術	43	渡辺 直勇	スポ	53
浦部 隼希	スポ	57	土農 力	基礎	79	濱屋 敏	経済	37	渡邊 誠士	経済	37
枝元 香菜子	教育	24	ジャヴィド サハル	情報工学	74	林 直之	栄養	65	渡辺 涼子	スポ	54
大迫 早苗	栄養	62	白江 寿美	短大	92	原田 理子	教育	28			
大野 尚弘	経済	36	水洞 幸夫	文学	2	平木 孝志	芸術	43			
大道 文香	短大	93	末松 智	芸術	42	平山 雄大	短大	91			
大谷 千晴	栄養	62	須崎 暁世	文学	16	広根 礼子	芸術	44			
尾形 晃広	スポ	57	鈴木 賢男	短大	87	福井 卓也	スポ	52			
小川 慶太	基礎	82	鈴木 三枝	栄養	64	藤井 秀樹	経済	3			
荻野 貴久	経済	34	砂山 真喜子	短大	88	藤本 祥二	情報工学	74			
奥井 めぐみ	経済	30	住本 克彦	教育	20	藤本 索子	スポ	55			
奥泉 敦司	教育	23	陶 涛	情報工学	75	藤原 勝夫	スポ	52			
小田 圭一郎	経済	30	高木 香代子	短大	90	棒田 美江	短大	92			
笠間 弘美	教育	19	高木 直史	情報工学	72	堀口 貴史	スポ	59			
加須栄 篤	情報工学	71	高他 毅	短大	4	本多 俊彦	文学	10			
加藤 謙一	芸術	46	高橋 一誠	スポ	58	本田 正史	芸術	44			
金本 賢治	スポ	50	高橋 栄一	文学	16	前川 浩子	文学	10			
川村 美笑子	栄養	63	高村 真希	短大	90	前田 洋一	教育	22			
菊池 英慈	文学	11	多田 邦宏	スポ	51	孫工 季也	教育	26			
菊政 俊平	スポ	54	多田 孝志	教育	21	松田 和也	基礎	81			
北口 貴史	経済	31	田中 美栄子	情報工学	73	松永 龍太郎	芸術	48			
北島 孟	スポ	58	チア ジェンリン	情報工学	76	松橋 和希	スポ	59			
北濱 康裕	教育	25	千葉 俊徳	経済	36	松村 祐香里	文学	14			
木村 昭雄	教育	23	寺岡 文男	情報工学	73	松本 和彦	経済	33			
京極 奈美	短大	94	寺田 達也	短大	88	的場 茂樹	教育	24			
清田 岳臣	スポ	50	寺田 智美	文学	8	丸山 章子	スポ	53			
清田 直恵	スポ	51	戸根 比呂子	文学	12	水橋 雄介	基礎	82			
黒崎 周一	文学	11	友水 豪志	情報工学	77	宮嶋 恒二	短大	89			
桑野 裕昭	情報工学	71	鳥谷部 智規	経済	34	宮本 佳代子	栄養	66			
小暮 貴代	経済	35	豊田 欣吾	経済	31	三輪 篤生	経済	33			
越田 久文	芸術	46	中川 恵理子	文学	13	向井 理恵	文学	14			
児島 新太郎	短大	89	中崎 崇志	文学	9	村上 智	短大	86			
児島 記代	経済	38	中妻 結	文学	13	村谷 聡志	芸術	47			